目　次（2021年度専門科目通年）

整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ) …… 1. 2
解剖学Ⅰ …… 3. 4
整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ) …… 5. 6
解剖学Ⅱ …… 7. 8
個人スポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 9　10
個人スポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 11. 12
個人スポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 13. 14
チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 15. 16
チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 17. 18
チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 19　20
チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 21. 22
チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 23. 24
チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) …… 25. 26
音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎) …… 27. 28
整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ) …… 29　30
個人スポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 31. 32
個人スポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 33. 34
個人スポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 35. 36
チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 37. 38
チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 39　40
チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 41. 42
チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 43. 44
チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 45. 46
チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 47. 48
チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) …… 49　50
音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用) …… 51. 52
整復臨床実習Ⅰ …… 53. 54
スポーツアナリティクス実習 …… 55. 56
ゼミナールⅠ(基礎) …… 57. 58
ゼミナールⅠ(基礎) …… 59　60
ゼミナールⅠ(基礎) …… 61. 62
ゼミナールⅠ(基礎) …… 63. 64
ゼミナールⅠ(基礎) …… 65. 66
ゼミナールⅠ(基礎) …… 67. 68
ゼミナールⅠ(基礎) …… 69　70
ゼミナールⅠ(基礎) …… 71. 72
ゼミナールⅠ(基礎) …… 73. 74
ゼミナールⅠ(基礎) …… 75. 76
ゼミナールⅠ(基礎) …… 77. 78
ゼミナールⅠ(基礎) …… 79　80
ゼミナールⅠ(基礎) …… 81. 82
体力学実習 …… 83. 84
子どもと創る運動・遊びⅡ …… 85. 86
ゼミナールⅠ(基礎) …… 87. 88
ゼミナールⅠ(基礎) …… 89　90
ゼミナールⅠ(基礎) …… 91. 92
スポーツ栄養学実習 …… 93. 94
特別演習Ⅲ …… 95. 96
ゼミナールⅠ(基礎) …… 97. 98
ゼミナールⅠ(基礎) …… 99　100
ゼミナールⅠ(基礎) …… 101. 102
ゼミナールⅠ(基礎) …… 103. 104
ゼミナールⅠ(基礎) …… 105. 106

ゼミナールⅠ(基礎) …… 107. 108
ゼミナールⅠ(基礎) …… 109　110
ゼミナールⅠ(基礎) …… 111. 112
運動生理学実習 …… 113. 114
ゼミナールⅠ(基礎) …… 115. 116
ゼミナールⅠ(基礎) …… 117. 118
ゼミナールⅠ(基礎) …… 119　120
整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ) …… 121. 122
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ) …… 123. 124
整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ) …… 125. 126
個人スポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 127. 128
個人スポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 129　130
個人スポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 131. 132
チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 133. 134
チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 135. 136
チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 137. 138
チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 139　140
チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 141. 142
チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 143. 144
チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) …… 145. 146
音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展) …… 147. 148
整復臨床実習Ⅱ …… 149　150
ゼミナールⅡ(応用) …… 151. 152
ゼミナールⅡ(応用) …… 153. 154
ゼミナールⅡ(応用) …… 155. 156
ゼミナールⅡ(応用) …… 157. 158
ゼミナールⅡ(応用) …… 159　160
ゼミナールⅡ(応用) …… 161. 162
ゼミナールⅡ(応用) …… 163. 164
ゼミナールⅡ(応用) …… 165. 166
ゼミナールⅡ(応用) …… 167. 168
ゼミナールⅡ(応用) …… 169　170
ゼミナールⅠ …… 171. 172
ゼミナールⅡ(応用) …… 173. 174
ゼミナールⅡ(応用) …… 175. 176
ゼミナールⅡ(応用) …… 177. 178
ゼミナールⅡ(応用) …… 179　180
ゼミナールⅡ(応用) …… 181. 182
ゼミナールⅡ(応用) …… 183. 184
ゼミナールⅡ(応用) …… 185. 186
ゼミナールⅡ(応用) …… 187. 188
ゼミナールⅡ(応用) …… 189　190
ゼミナールⅡ(応用) …… 191. 192
ゼミナールⅡ(応用) …… 193. 194
整復学実技Ⅷ(総合) …… 195. 196
個人スポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 197. 198
個人スポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 199　200
個人スポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 201. 202
チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 203. 204
チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 205. 206
チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 207. 208
チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 209　210
チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 211. 212
チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 213. 214
チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) …… 215. 216
音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践) …… 217. 218
整復臨床実習Ⅲ …… 219　220
整復臨床実習Ⅳ …… 221. 222

解剖学Ⅰ …… 223. 224
解剖学Ⅰ …… 225. 226
解剖学Ⅱ …… 227. 228
解剖学Ⅱ …… 229　230
ゼミナールⅠ(基礎) …… 231. 232
ゼミナールⅠ(基礎) …… 233. 234
ゼミナールⅠ(基礎) …… 235. 236
ゼミナールⅠ(基礎) …… 237. 238
ゼミナールⅠ …… 239　240
ゼミナールⅠ …… 241. 242
ゼミナールⅠ …… 243. 244
ゼミナールⅠ …… 245. 246
ゼミナールⅠ …… 247. 248
ゼミナールⅠ …… 249　250
ゼミナールⅠ …… 251. 252
ゼミナールⅠ …… 253. 254
ゼミナールⅠ …… 255. 256
ゼミナールⅠ …… 257. 258
ゼミナールⅠ …… 259　260
ゼミナールⅠ …… 261. 262
ゼミナールⅠ …… 263. 264
ゼミナールⅠ …… 265. 266
ゼミナールⅠ …… 267. 268
ゼミナールⅠ …… 269　270
ゼミナールⅠ …… 271. 272
ゼミナールⅠ(基礎) …… 273. 274
ゼミナールⅡ …… 275. 276
ゼミナールⅡ …… 277. 278
ゼミナールⅡ …… 279　280
ゼミナールⅡ …… 281. 282
ゼミナールⅡ …… 283. 284
ゼミナールⅡ …… 285. 286
ゼミナールⅡ …… 287. 288
ゼミナールⅡ …… 289　290
ゼミナールⅡ …… 291. 292
ゼミナールⅡ …… 293. 294
ゼミナールⅡ …… 295. 296
ゼミナールⅡ …… 297. 298
ゼミナールⅡ …… 299　300
ゼミナールⅡ …… 301. 302
ゼミナールⅡ …… 303. 304
卒業研究 …… 305. 306
卒業研究 …… 307. 308
卒業研究 …… 309　310
卒業研究 …… 311. 312
卒業研究 …… 313. 314
卒業研究 …… 315. 316
卒業研究 …… 317. 318
卒業研究 …… 319　320
卒業研究 …… 321. 322
卒業研究 …… 323. 324
卒業研究 …… 325. 326
卒業研究 …… 327. 328
卒業研究 …… 329　330
卒業研究 …… 331. 332
卒業研究 …… 333. 334
卒業研究 …… 335. 336
卒業研究 …… 337. 338

卒業研究 …… 339　340
卒業研究 …… 341. 342
卒業研究 …… 343. 344

40115

科目コード	40115				区　分	コア科目		
授業科目名	整復学実技Ⅰ(包帯法Ⅰ)《連続》				担当者名	畑島　紀昭、坂本　賢広、簀戸　崇史		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師の技術として必要な基本包帯法に関する知識および技術の習得を目標とする。

＜授業の方法＞
実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。　柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会
「包帯固定学」
南江堂
全国柔道整復学校協会
「柔道整復学・実技編」
南江堂
全国柔道整復学校協会
「柔道整復学・理論編」
南江堂

＜参考書＞
全国柔道整復学校協会
柔道整復師のための救急医学

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション－授業内容の説明－	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション－成績評価の説明－	成績評価の方法を説明する。
3	基本包帯法練習①－包帯の種類－	包帯の種類を説明する。
4	基本包帯法練習①－包帯の扱い方－	包帯の扱い方を説明する。
5	基本包帯法練習②－環行帯－	環行帯の巻き方を説明する。
6	基本包帯法練習②－折転帯－	折転帯の巻き方を説明する。
7	基本包帯法練習③－前腕部環行帯－	前腕部における環行帯の巻き方を説明する。
8	基本包帯法練習③－前腕部折転帯－	前腕部における折転帯の巻き方を説明する。
9	基本包帯法練習④－亀甲帯－	亀甲帯の巻き方を説明する。
10	基本包帯法練習④－肘関節亀甲帯－	肘関節における亀甲帯の巻き方を説明する。
11	基本包帯法練習④－麦穂帯－	麦穂帯の巻き方を説明する。
12	基本包帯法練習④－手関節麦穂帯－	手関節における麦穂帯の巻き方を説明する。
13	基本包帯法練習⑤－前腕部下行－	前腕部環行帯と手関節麦穂帯の巻き方を説明する。
14	基本包帯法練習⑤－前腕部上行－	前腕部折転帯と肘関節亀甲帯の巻き方を説明する。
15	テーピング固定法（1）	足関節のテーピングについて説明する。
16	テーピング固定法（2）	足関節のテーピング固定法の基礎を学習する。
17	テーピング固定法（3）	足関節のテーピング固定法の応用を学習する。

18	部位別包帯法練習①－肩関節理論－	肩関節外傷の理論について説明する。
19	部位別包帯法練習①－肩関節実技－	肩関節外傷の包帯法について説明する。
20	部位別包帯法練習②－肘関節理論－	肘関節外傷の理論について説明する。
21	部位別包帯法練習②－肘関節実技－	肘関節外傷の包帯法について説明する。
22	部位別包帯法練習③－股関節・大腿部理論－	股関節・大腿部外傷の理論について説明する。
23	部位別包帯法練習③－股関節・大腿部実技－	股関節・大腿部外傷の包帯法について説明する。
24	部位別包帯法練習④－下腿部・足関節理論－	下腿部・足関節外傷の理論について説明する。
25	部位別包帯法練習④－下腿部・足関節実技－	下腿部・足関節外傷の包帯法について説明する。
26	救急処置　総論	救急処置について学習する。
27	救急処置　柔道整復師ができること①	救急処置法について学習する。
28	救急処置　柔道整復師ができること②	救急処置法について学習する。
29	救急処置　柔道整復師ができること③	救急蘇生方について学習する。
30	救急処置　柔道整復師ができること④	救急蘇生方について学習する。

27100

科目コード	27100				区　分	コア科目		
授業科目名	解剖学Ⅰ　《連続》				担当者名	百田　龍輔、畑島　紀昭		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化 器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
１）消化器系では口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸と大唾液腺、肝臓、膵臓の形態が説明できるようになる。２）呼吸器系では鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の形態が説明できるようになる。３）泌尿器系では腎臓、尿管、膀胱、尿道の形態が説明できるようになる。４）生殖器系では精巣、精巣上体、精管、陰茎と精嚢、前立腺、および卵巣、卵管、子宮、膣の形態が説明できるようになる。５）脈拍系では心臓、動脈、静脈、毛細血管の形態が説明できるようになる。６）骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿い、パワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義進行上部分的に入れ替えることがある） 適時 プリントを配布し教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意する事（百田先生担当コマ分）。当該科目は全45コマで構成されており、30コマを百田先生が担当し、15コマを畑島が担当する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す講義予定範囲を 教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・試験70％（なお、単位取得に関し、担当教員2名の試験の合格点を取得する必要がある。）

＜教科書＞
坂井建夫・橋本尚詞
ぜんぶわかる人体解剖図
成美堂出版
岸　清・石塚　寛編
解剖学
医歯薬出版
＜参考書＞
坂井建夫・大谷 修 著
プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）
プロメテウス解剖学アトラス（頭部 神経解剖）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）松村譲児著（2007）プロメテウス解剖学アトラス（頚部 胸部 腹部 骨盤部）イラスト解剖学
医学書院中外医学社
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	細胞|骨格系総論	形態と内部構造|骨の役割・分類・構造
2	組織|骨格各論1	組織の分類と特性|脊柱
3	消化器1|骨格各論２	消化管（口腔、咽頭、食道、胃、小腸）の形態|胸郭
4	消化器2|まとめ１	消化管（胃，小腸）の形態|１～3回のまとめ
5	消化器３|骨格各論３	消化管（大腸）|上肢帯
6	消化器4|骨格各論４	消化腺（肝臓、膵臓）の形態|上腕の骨
7	消化器5|骨格各論５	消化管（まとめ・演習・復習）|前腕の骨

8	消化器6|まとめ２	消化腺（まとめ・演習・復習）|５～7回のまとめ
9	呼吸器１|骨格各論６	鼻腔、喉頭の形態|手指骨
10	呼吸器２|骨格各論７	鼻腔、喉頭の形態|下肢帯
11	呼吸器３|骨格各論８	気管、気管支|下肢の骨
12	呼吸器4|まとめ３	気管、気管支|９～１１回のまとめ
13	呼吸器５|骨格各論９	肺の形態|足趾骨
14	呼吸器６|骨格各論１０	肺の形態|頭部
15	泌尿器系|まとめ４	腎臓１|１３．１４回のまとめ
16	泌尿器系２	腎臓２
17	泌尿器系３	腎臓３・糸球体・ネフロン
18	泌尿器系４	腎臓４・尿細管
19	泌尿器系５	尿管
20	泌尿器系６	膀胱・尿道
21	生殖器１	男性生殖器（精巣 精巣上体）
22	生殖器２	男性生殖器（精管 陰茎と精嚢）
23	生殖器３	女性生殖器（卵巣）
24	生殖器４	女性生殖器（卵管 子宮 膣）
25	発生１	人体の発生（胎盤）
26	発生２	人体の発生（胚・胎児）
27	脈管系１	血管循環
28	脈拍系２	心臓
29	脈拍系３	心臓・刺激伝導系
30	脈拍系４	動脈

40116

科目コード	40116				区　分	コア科目		
授業科目名	整復学実技Ⅱ(包帯法Ⅱ)《連続》				担当者名	畑島　紀昭、坂本　賢広、東　千尋		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
柔道整復師の技術として必要な包帯法の基礎を学びます。受講態度は柔道整復師としてふさわしいものを求めます。特に時間を守ることと正しい服装については学習意欲の表れとして評価します。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師の技術として必要な冠名包帯、固定材料に関する知識および技術の習得を目標とする。

＜授業の方法＞
実技の習得には反復することが求められ、授業内では実技の練習を繰り返し実施する。また、実技の習得確認のための試験を複数回実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：教科書で次回の講義で行う範囲を確認し各自で実際に行う。（毎回、1時間程度）復習：講義で行った実技を各自で復習し実施する。（毎回、2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科のディプロマポリシー2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技術を理解し、日々進歩する医療分野に対応できる能力を身に付ける。）と関連付けられています。柔道整復師としての実技基礎を学び、臨床現場で必要な技術の習得を通じて今後の学習の基礎を涵養する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲 30%、実技試験 70%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会
「包帯固定学」
南江堂
全国柔道整復学校協会
「柔道整復学・実技編」
南江堂
全国柔道整復学校協会
「柔道整復学・理論編」
南江堂

＜参考書＞
全国柔道整復学校協会
「柔道整復師のための救急医学」
南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション－授業内容の説明－	授業内容を説明する。
2	オリエンテーション－成績評価の説明－	成績評価の方法を説明する。
3	部位別包帯法練習①－上肢－	上肢の包帯法について説明する。
4	部位別包帯法練習①－下肢－	下肢の包帯法について説明する。
5	部位別包帯法練習②－手部・指部理論－	手部・指部外傷の理論について説明する。
6	部位別包帯法練習②－手部・指部実技－	手部・指部外傷の包帯法について説明する。
7	部位別包帯法練習③－足部・指部理論－	足部・指部外傷の理論について説明する。
8	部位別包帯法練習③－足部・指部実技－	足部・指部外傷の包帯法について説明する。
9	冠名包帯法練習①－ヴェルポー包帯法－	ヴェルポー包帯法の巻き方を説明する。
10	冠名包帯法練習①－ジュール包帯法－	ジュール包帯法の巻き方を説明する。
11	冠名包帯法練習②－デゾー包帯法－	デゾー包帯法の巻き方を説明する。
12	冠名包帯法練習②－ヴェルポー包帯法練習－	ヴェルポー包帯法の巻き方を練習する。
13	冠名包帯法練習③－ジュール包帯法練習－	ジュール包帯法の巻き方を練習する。
14	冠名包帯法練習③－デゾー包帯法練習－	デゾー包帯法の巻き方を練習する。

15	冠名包帯法まとめ（1）－ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法－	ヴェルポー包帯法・ジュール包帯法の実技の総合学習をおこなう。
16	冠名包帯法まとめ（2）－デゾー包帯法－	デゾー包帯法の実技の総合学習を行う。
17	硬性材料を用いた固定法①－厚紙副子作成－	厚紙副子の作り方を説明する。
18	硬性材料を用いた固定法①－厚紙副子固定－	厚紙副子を用いた固定法を説明する。
19	硬性材料を用いた固定法②－すだれ副子作成－	すだれ副子の作り方を説明する。
20	硬性材料を用いた固定法②－すだれ副子固定－	すだれ副子を用いた固定法を説明する。
21	硬性材料を用いた固定法③－金属副子作成－	金属（クラーメル）副子の作り方を説明する。
22	硬性材料を用いた固定法③－金属副子固定－	金属（クラーメル）副子を用いた固定法を説明する。
23	硬性材料を用いた固定法④－アルミ副子作成－	アルミ副子（アルフェンス）の作り方を説明する。
24	硬性材料を用いた固定法④－アルミ副子固定－	アルミ副子（アルフェンス）を用いた固定法を説明する。
25	ギプスを用いた固定法①－ギプスの巻き方－	ギプスの巻き方を説明する。
26	ギプスを用いた固定法①－ギプス固定－	ギプスを用いた固定法を説明する。
27	キャストを用いた固定法①－キャストの巻き方－	キャストの巻き方を説明する。
28	キャストを用いた固定法①－キャスト固定－	キャストを用いた固定法を説明する。
29	包帯法まとめ（1）	授業内容の総合評価をおこなう。
30	包帯法まとめ（2）	授業内容の総合評価をおこなう。

3F101

科目コード	3F101				区　分	コア科目		
授業科目名	解剖学Ⅱ　《連続》				担当者名	百田　龍輔、畑島　紀昭		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
1）内分泌系では 下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎などの形態が説明できるようになる。 2）感覚器系では 視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚の形態が説明できるようになる。 3)神経系では 中枢神経（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）と末梢神経（自律神経、脳神経、脊髄神経）の形態が説明できるようになる。 4）骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意する事（百田先生担当コマ分）。当該科目は全45コマで構成されており、30コマを百田先生が担当し、15コマを畑島が担当する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す講義予定範囲を教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30%・評価試験70%（なお、単位取得に関し、担当教員2名の試験の合格点を取得する必要がある。）

＜教科書＞
岸 清・石塚 寛 編
解剖学
医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞
ぜんぶわかる人体解剖図
成美堂出版

＜参考書＞
坂井建夫・大谷 修 著
プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）
プロメテウス解剖学アトラス（頭部 神経解剖）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）プロメテウス解剖学アトラス（頚部 胸部 腹部 骨盤部）
医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	内分泌系１｜骨格系総論	下垂体｜筋の形態・作用・補助装置
2	内分泌系２｜骨格筋総論１	下垂体ホルモン・松果体｜筋の形態・作用
3	内分泌系３｜骨格筋総論２	甲状腺上体 副腎など｜筋の形態・作用・補助装置
4	内分泌系4｜まとめ１	膵臓｜1から3回のまとめ
5	内分泌系5｜頭部の筋	下小体 松果体｜顔面筋・咀嚼筋
6	内分泌系6｜頸部の筋	精巣・卵巣｜広頚筋・胸鎖乳突筋等
7	中枢神経1｜胸部の筋	神経系概要｜大胸筋・小胸筋・肋間筋等
8	中枢神経2｜まとめ２	神経組織（神経細胞・支持細胞）｜５～7回目のまとめ

9	中枢神経３|腹部の筋	脳室系・髄膜・脳脊髄液|腹直筋・内外腹斜筋等
10	中枢神経４|上肢帯の筋	大脳・大脳皮質・大脳白質・大脳核|上肢帯の筋
11	中枢神経5|上肢の筋	間脳・中脳|上肢の筋
12	中枢神経6|まとめ３	橋、延髄　脳|9から11回目のまとめ
13	中枢神経7|下肢帯の筋	脊椎・上向性伝導路|下肢帯の筋
14	中枢神経８|下肢の筋	視覚・聴覚・下向性伝導路|下肢の筋
15	末梢神経１|まとめ４	脳神経1|13.14回目のまとめ
16	末梢神経２	脳神経２
17	末梢神経３	脊髄神経の構造
18	末梢神経４	頚神経叢・腕神経叢
19	末梢神経5	腰神経叢
20	末梢神経６	仙骨神経叢・デルマトーム
21	末梢神経７	自律神経（交感神経）
22	末梢神経8	自律神経（副交感神経）
23	感覚器１	外皮・皮膚
24	感覚器２	視覚器・眼球
25	感覚器３	聴覚器
26	感覚器４	平衡器
27	感覚器５	嗅覚器
28	感覚器６	味覚器
29	まとめ1	神経系（まとめ）
30	まとめ２	神経系（演習）

35101

科目コード	35101				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎)[陸上]《通年》				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
個人スポーツ指導理論・実習では、陸上競技の基本的な運動種目（短距離走、長距離走、障害走、跳躍種目、投擲種目）の技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、陸上競技の指導法・研究法を学ぶことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
自分の能力（基礎的体力、専門的体力、専門的スキル）を把握し、それに応じた目標や課題を設定し、合理的なトレーニングを実践できるようになること。

＜授業の方法＞
実技実習を中心に展開するが、配布資料を用いた理論説明のための講義も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各テーマに関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくと理解し易い。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている」および「科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている」に対応した科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
技能レベル 30%、レポート 20%、受講態度 50%

＜教科書＞
＜参考書＞
尾縣 貢（2007年9月1日）
ぐんぐん強くなる!陸上競技
ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト（1）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト（2）	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	基礎的体力（講義）	陸上競技に必要とされる基礎的体力についての講義
5	基礎的体力の養成（1）	筋力トレーニング（1）バルクアップ手段
6	基礎的体力の養成（2）	筋力トレーニング（2）パワーアップ手段
7	基礎的体力の養成（3）	サーキットトレーニング（1）ステーションサーキット
8	基礎的体力の養成（4）	サーキットトレーニング（2）スーパーサーキット
9	基礎的体力の養成（5）	瞬発力、敏捷性のトレーニング（ラダートレーニングなど）
10	専門的体力（講義）	陸上競技に必要とされる専門的体力についての講義
11	専門的体力の養成（1）	エネルギー系体力（1）ATP－PC系 最大疾走能力の獲得
12	専門的体力の養成（2）	エネルギー系体力（2）解糖系 筋持久能力の獲得
13	専門的体力の養成（3）	エネルギー系体力（3）02系 全身性持久能力の獲得
14	専門的体力の養成（4）	ばねを高める（1）伸張－短縮性サイクル（SSC）
15	専門的体力の養成（5）	ばねを高める（2）予備緊張、姿勢
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	コントロールテスト（3）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
18	コントロールテスト（4）	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
19	専門的スキル（講義）	陸上競技に必要とされる専門的スキルについての講義
20	専門的スキルの養成（1）	走スキル（1）スプリントドリル
21	専門的スキルの養成（2）	走スキル（2）スタートドリル
22	専門的スキルの養成（3）	走スキル（3）最大疾走能力、最大加速能力
23	専門的スキルの養成（4）	走スキル（4）レペティション、インターバルトレーニング
24	専門的スキルの養成（5）	ハードルスキル ハードルドリル、インターバルランニング
25	専門的スキルの養成（6）	跳スキル（1）助走スキル

26	専門的スキルの養成（7）	跳スキル（2）踏切動作、空中動作、着地動作
27	後期の復習	後期学習内容の確認と復習
28	コントロールテスト（5）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
29	コントロールテスト（6）	専門的体力・スキルの評価（走能力、跳能力など）
30	コントロールテスト（7）	１年を通じてのコントロールテストの分析・解釈

35101

科目コード	35101				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎)[剣道]《通年》				担当者名	平田　佳弘		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、全日本剣道連盟が制定（1975）した剣道の理念、すなわち「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」に基づく正しい剣道について理解を深め、基本練習や応用的な練習を行う。その中で、基礎・基本技術を練磨し、指導者として社会に巣立った時に、剣道についての知識、理論はもとより、基本に忠実な示範や技術・技能レベルに応じた段階的な指導ができる実践力を養うことを目的とする。

＜授業の到達目標＞

剣道指導者として、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人に対して、またそれぞれの年齢の初心者、中級者、熟練者に対して、その集団の技量に応じた段階的な指導を、理論的に実践的にできるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞

実技を中心に進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

剣道指導要領（全日本剣道連盟）を熟読しておくこと。毎時間に取り上げる内容について、剣道指導要領の対応する部分を熟読し、質問・自分の課題等をまとめておくこと。1コマにつき、予習1時間、復習1時間は行い、記録したノートを定期的に提出すること。内容をチェックします。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、体育学科のディプロマポリシー２(健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている)と関連づけられている。個人スポーツ指導者となる剣道専攻学生において、健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識、技能を習得すると共にこれらを実践できる力を培う授業である。剣道の理念に基づく正しい剣道を身に付け、老若男女どんな方々にも技能レベルに応じた指導ができる力を養う。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、ノート内容20%、実技試験50%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

全日本剣道連盟(2012.1.1)
剣道指導要領
財団法人全日本剣道連盟

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業内容の説明	授業全般の説明と注意
2	基本動作（1）	姿勢と中段の構え
3	基本動作（2）	足さばき
4	基本動作（3）	素振り（上下振り、正面素振り、左右面素振り）
5	基本動作（4）	基本打突（面、胴、小手、突き）
6	基本動作（5）	切り返しを行う時の留意点
7	基本動作（6）	切り返しの打ち方受け方
8	応用技能（1）	しかけ技、出ばな技、引き技
9	応用技能（2）	二、三段の技、かつぎ技、捲き技
10	応用技能（3）	すり上げ技、打ち落とし技
11	応用技能（4）	返し技、抜き技
12	試合（1）	試合の必要性、試合に対する心構え
13	試合（2）	試合規則・審判法
14	試合（3）	試合者及び審判の実践、実際に試合を行う
15	試合（4）	試合進行上の留意点
16	試合（5）	さまざまな形式で試合を行う、個人試合
17	試合（6）	団体試合
18	試合（7）	勝ち抜き試合

19	試合（8）	紅白試合
20	日本剣道形（1）	日本剣道形一本目
21	日本剣道形（2）	日本剣道形二～三本目
22	日本剣道形（3）	日本剣道形四本目～五本目
23	日本剣道形（4）	日本剣道形六本目～七本目
24	日本剣道形（5）	日本剣道形（小太刀）一本目
25	日本剣道形（6）	日本剣道形（小太刀）二本目
26	日本剣道形（7）	日本剣道形（小太刀）三本目
27	日本剣道形（8）	日本剣道形のまとめ
28	総括（1）	総合練習１
29	総括（2）	総合練習２
30	総括（3）	総合練習３

35101

科目コード	35101				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎)[ﾀﾞﾝｽ]《通年》				担当者名	小澤　尚子		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
基礎ステップやリズム練習、即興表現を通してダンスの基礎的な技能を習得する。また、グループでの小作品づくり、観賞を通して、自己表現の可能性を拡げ、ダンスの要素である「踊る、創る、観る」力をバランス良く養う。

＜授業の到達目標＞
ダンスの概念について学び、理解する。その意識をベースにして、身体の構造を理解しながら、ダンスの基礎動作のステップ、バランス、ジャンプ、ターンなどの技能を身に付く。また、身体への意識を高め、作品へのイメージを膨らませて自身のソロ作品を創ることができるようになる。

＜授業の方法＞
クロスフロアやダンスのコンビネーション（振付）を覚えて、基礎ステップやリズムどり、即興表現などを練習していく。また、鏡や動画を用いて自身の動きを確認し、フィードバックする。さらに、学生同士で見合いながら、指導のポイントをとらえていく。定期試験は振り付け作品とソロ作品の創作・発表を試験課題として実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業内容に関連する参考図書、参考資料等に目を通し、課題意識を持って授業に参加すること（1～2時間）復習：授業で配布した資料をファイリングする。授業で行ったダンスのウォームアップと振付等をフィードバックし、次回の授業までに覚えておく（1～2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身につける科目である。また、科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、授業記録と技能 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業内容の説明	講義のルール、概要の説明など
2	ダンスの概念1（ジャンル）	パフォーミングアーツとしてのダンスについて
3	ダンスの概念2（映像）	ダンス作品を映像で鑑賞
4	身体練習１　基礎技術の確認	床に正しく立つこと、歩くことの基礎技術
5	身体練習２　コンビネーション（脚上げ）	脚上げの基礎技術
6	身体練習３　コンビネーション（ターン）	ターン系の基礎技術
7	身体練習４　コンビネーション（ジャンプ）	ジャンプ系の基礎技術
8	身体練習５　コンビネーション（その他）	その他の動きの基礎技術
9	習作　グループワーク1（モチーフ）	グループに分かれ、動きを考案
10	習作　グループワーク2（フレーズ）	グループに分かれ、動きをつなげる
11	習作　グループワーク3（イメージ）	グループに分かれ、動きを通して表現性を創発
12	発表・再検討	改善する箇所を相談し、修正する
13	グループワーク・踊り込み練習	複数回練習し、考案したフレーズをよりスムーズにする
14	発表・評価	発表、評価を通して、動きの習熟度を確認
15	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認
16	舞踊の種類と運動の特性1(前期振り返り)	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明
17	舞踊の種類と運動の特性2（身体練習）	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明
18	表現体としての身体とそのメカニズム	表現体としての踊るからだのメカニズムについて確認
19	ダンス作品の創作・振付１（モチーフ）	ダンス作品の創作・振付としてのモチーフの概要
20	ダンス作品の創作・振付2（フレーズ）	ダンス作品の創作・振付としてのフレーズの概要
21	ダンス作品の創作・振付3（イメージ）	ダンス作品の創作・振付としてのイメージの概要

22	ソロ作品を創作（1）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
23	ソロ作品を創作（2）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
24	ソロ作品を創作（3）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
25	ソロ作品を創作（4）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
26	踊り込み・吟味	踊り込みをおこない、より作品性を問う
27	作品の発表・合評1	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
28	作品の発表・合評2	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
29	作品の発表・合評3	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
30	今後の課題と構想	今後の課題を発見し、実現するための構想を練る

35102

科目コード	35102				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎)[ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	山本　清人		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グ ラブの操作方法など）を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術の習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボ ール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 (3) 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができる。

＜授業の方法＞

実技を中心にグランドにて実習し、バッティングなど理論が必要なときは随時説明をする。　１．グループワーク（予習内容に関する確認）２．実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）　　タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。３．ディスカッション（問題提示に対する回答）４．省察活動（まとめ）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習）授業時間に配布された資料を読んで次回の目的・目標を設定し、具体的方法を考えてくる。（１時間）（復習）授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深めるとともに、指導方法等をまとめる。　（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）と関連付けられています。ソフトボール競技を通して日常的にスポーツに親しみ、かつ楽しむことを目指し、豊かな人間性を修得するための科目であり、プレーを通して体力を向上させるとともに健康を増進させ、チームスポーツで得られる他者を尊重しこれと協同する精神、公平さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うことで思考力や判断力を実践的に活用することのできる人格を修得することを目指しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

＜教科書＞

＜参考書＞

財団法人日本ソフトボール協会
ソフトボール指導者教本
日本体育社株式会社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	指導者のあり方（ガイダンス）	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの歴史	ソフトボールの誕生、発展、ソフトボールの情勢
3	ソフトボールの技術と指導法	キャッチボールの基礎技術　理想的な投球フォーム技術
4	ソフトボールの技術と指導法	キャッチボールの基礎技術　理想的な投球フォーム技術
5	ソフトボールの技術と指導法	ピッチャーの基礎技術　投球モーションのフォームと特徴
6	ソフトボールの技術と指導法	ピッチャーの基礎技術　投球モーションのフォームと特徴
7	ソフトボールの技術と指導法	ピッチャーの基礎技術　投球モーションのフォームと特徴
8	ソフトボールの技術と指導法	ピッチャーの基礎技術　投球モーションのフォームと特徴
9	ソフトボールの技術と指導法	守備の基礎技術　ポジション別の技術
10	ソフトボールの技術と指導法	守備の基礎技術　ポジション別の技術
11	ソフトボールの技術と指導法	バントの基礎技術　バスターの基礎技術
12	ソフトボールの技術と指導法	バントの基礎技術　バスターの基礎技術
13	ソフトボールの技術と指導法	走塁の基礎技術
14	ソフトボールの技術と指導法	走塁の基礎技術
15	集団技能の理解（１）	試合形式での守備側の実践練習
16	集団技能の理解（１）	試合形式での守備側の実践練習

17	集団技能の理解（1）	試合形式での守備側の実践練習
18	集団技能の理解（1）	試合形式での守備側の実践練習
19	集団技能の理解（2）	試合形式での攻撃側の実践練習
20	集団技能の理解（2）	試合形式での攻撃側の実践練習
21	集団技能の理解（2）	試合形式での攻撃側の実践練習
22	総合的ゲーム展開	ゲームの中でチームおよび個人の課題発見と克服
23	総合的ゲーム展開	ゲームの中でチームおよび個人の課題発見と克服
24	総合的ゲーム展開	ゲームの中でチームおよび個人の課題発見と克服
25	総合的ゲーム展開	ゲームの中でチームおよび個人の課題発見と克服
26	総合的ゲーム展開	ゲームの中でチームおよび個人の課題発見と克服
27	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
28	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
29	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト
30	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト

35102

科目コード	35102				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) [ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	坂本　博秋		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボール競技の基礎・基本の習得はもちろんのこと、常に実戦を見据えたプレーを意識させ自己の競技力向上に努めることを狙いとする。

＜授業の到達目標＞
バレーボール競技における基礎的ルールや特性を理解し、スポーツそのものが持つ意義、そして安全に配慮しながら楽しむことを自他共に共有し活動できる力を身につける。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが必要に応じて映像、データ等を活用し理解を深めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バレーボール競技に必要な知識やスキルを各自習得し、ゲーム内容をイメージさせておくこと。(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
バレーボール競技を通じて、「健康増進、体力の向上、または競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能」を習得すると共に「科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力」の育成を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲と授業態度 50%、 スキル習得度 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修に当たっての諸注意
2	競技特性	競技の成り立ちの説明と現在の状況について
3	ゲームとルール	ルールの理念及びルールからみた競技特性
4	ゲームの構造	サーブ→レセプションアタック
5	ゲームの構造	ディグ→ディグアタック
6	準備運動	ストレッチ及びウォーミングアップの方法
7	基礎技術１	基本姿勢と足の運び
8	基礎技術２	基本姿勢とローリング
9	基礎技術３	オーバーハンドパス（ショート）
10	基礎技術４	オーバーハンドパス（ロング、直上）
11	基礎技術５	アンダーハンドパス（ショート）
12	基礎技術６	アンダーハンドパス（ロング、回転）
13	基礎技術７	ボールコントロール（２人１組によるパス）
14	基礎技術８	ボールコントロール（円陣パス、ランニングパス）
15	基礎技術９	ディグとステップ
16	基礎技術１０	レセプション
17	基礎技術１１	セットとハイセット
18	基礎技術１２	サーブとその種類
19	基礎技術１３	アタックとスイング
20	基礎技術１４	ブロックジャンプとステップ
21	基礎トレーニング１	体幹トレーニング１
22	基礎トレーニング２	体幹トレーニング２
23	基礎トレーニング３	上半身・下半身１
24	基礎トレーニング４	上半身・下半身２
25	基礎トレーニング５	ハードル・ラダー
26	基礎トレーニング６	コーンドリル

27	基礎トレーニング７	ロング走・シャトルラン
28	基礎トレーニング８	松葉式サーキット
29	基礎トレーニング９	クールダウン・ストレッチ
30	まとめ	スキル習得度の確認

35102

科目コード	35102				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎)[ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	森　　億		
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボール競技の基本・基礎の習得はもちろんのこと、パフォーマンス発揮に必要である「心」「技」「体」「脳」についての知識を高め、自己の競技力向上に努めることをねらいとする。また利己的思考だけではなく、利他的思考も習得し、社会の一員である自覚を持った行動が導き出せるようにする。

＜授業の到達目標＞
バスケットボール競技における基礎的ルールや特性を理解し、スポーツそのものが持つ意義、そして安全に配慮しながら楽しみむことを、自他ともに共有し活動できる力を身につける。

＜授業の方法＞
実践練習が中心ではあるが、それに伴うミーティングやグループワーク等を適宜実施し、知見を深めさせていく。　また、情報や仲間の意見や考え方等をバスケプラスやDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バスケットボール競技に必要な知識やスキルを各自習得し、トレーニングをイメージさせておくこと。各自、プログラムされたメニューを１時間以上実施しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
知識・理解（DP2:健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）及び汎用性技能（DP5:科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている。）を習得する科目である。バスケットボール競技を通じて、その特性や競技性を習得するとともに、本学のディプロマ・ポリシーである「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる能力」の育成を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
技能 60%、レポート 20%、受講態度 20%

＜教科書＞

＜参考書＞
高妻 容一・森 億その他（2010年7月）
バスケットボール選手のメンタルトレーニング
バースボールマガジン社
森　億（2018年2月5日）
脳にノーと言えれば、スポーツパフォーマンスは上がる！
ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	年間計画及びねらいの確認
2	目標設定の仕方を学ぶ	GROWモデルについての知見の習得及び作成
3	個人ファンダメンタル①	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
4	個人ファンダメンタル②	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
5	個人ファンダメンタル③	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
6	個人ファンダメンタル④	ディフェンスファンダメンタル（フットワーク・ディナイ・クローズアウト等）
7	個人ファンダメンタル⑤	ディフェンスファンダメンタル（フットワーク・ディナイ・クローズアウト等）
8	プライメトリックトレーニング	ジャンプ力強化トレーニング
9	ブレイントレーニング①	身体と脳の関係について
10	ブレイントレーニング②	脳処理について
11	ブレイントレーニング③	記憶と生活習慣について
12	ウエイトトレーニング①	上半身及び体幹周りのトレーニング
13	ウエイトトレーニング②	下半身及び体幹周りのトレーニング
14	チームファンダメンタル①	1対1、2対2の攻防について
15	チームファンダメンタル②	1対1、2対2の攻防について
16	チームファンダメンタル③	3対3、4対4の攻防について
17	チームファンダメンタル④	3対3、4対4の攻防について

18	チームファンダメンタル⑤	3対3、4対4の攻防について
19	メンタルトレーニング①	あがり・緊張状態について
20	メンタルトレーニング②	フロー状態について
21	総合練習①	スクリーンメージ（5対5の攻防）
22	総合練習②	スクリーンメージ（5対5の攻防）
23	総合練習③	スクリーンメージ（5対5の攻防）
24	総合練習④	スクリーンメージ（5対5の攻防）
25	総合練習⑤	スクリーンメージ（5対5の攻防）
26	実践練習①	ゲーム（実践形式）
27	実践練習②	ゲーム（実践形式）
28	実践練習③	ゲーム（実践形式）
29	実践練習④	ゲーム（実践形式）
30	実践練習⑤	ゲーム（実践形式）

35102

科目コード	35102				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) [ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	前田　誠一		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義は、ハンドボールの持つ特徴、すなわち、様々な運動形態を含み、かつ手軽に行えるボールゲームとしての特徴と、チームスポーツとしての教育的な特徴を十分に活かした指導をするための基礎的な能力、専門的知識と実践力を養成する事を狙いとする。

＜授業の到達目標＞
ハンドボールの成り立ちやゲーム特性、及びこの競技に特有の技術・戦術を、実践を通して理解する。これらの理解をもとに、ハンドボール競技の指導法について学習することを目標とする。その結果、ゲーム中の改善点を摘出でき、ゲームをより優位な状況で展開できる知識が身につく。

＜授業の方法＞
基本的に実習形式で行うが、理論説明の為の講義、ビデオを用いての分析・解説を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付け、科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

＜教科書＞
＜参考書＞
笹倉清則（2003）
「Tactics of Handba in The Word」
財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治（2012）
「基本が身につく　ハンドボール　練習メニュー200」
池田書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修にあたっての諸注意
2	競技特性	競技の成り立ちの説明と原始的なゲームや簡易ゲーム
3	ゲームとルール	ルールの理念及びルールからみた競技特性
4	ゲームの局面構造(1)	セットの攻撃⇒戻りの防御⇒セットの防御⇒速攻の理解(1)
5	ゲームの局面構造(2)	セットの攻撃⇒戻りの防御⇒セットの防御⇒速攻の理解(2)
6	攻撃の個人技術(1)	パス、シュート、フェイント(1)
7	攻撃の個人技術(2)	パス、シュート、フェイント(2)
8	防御の個人技術(1)	タックル、キャッチ＆ウォーク、シュートブロック(1)
9	防御の個人技術(2)	タックル、キャッチ＆ウォーク、シュートブロック(2)
10	対人技術・戦術(1)	１対１状況での攻撃及び防御(1)
11	対人技術・戦術(2)	１対１状況での攻撃及び防御(2)
12	攻撃の基礎戦術システム(1)	ポジションプレー、ポジション・システムチェンジプレー(1)
13	攻撃の基礎戦術システム(2)	ポジションプレー、ポジション・システムチェンジプレー(2)
14	防御の基礎戦術システム(1)	６・０防御、５・１防御、３・２・１防御(1)
15	防御の基礎戦術システム(2)	６・０防御、５・１防御、３・２・１防御(2)
16	速攻の基礎戦術システム(1)	１次速攻、２次速攻、３次速(1)
17	速攻の基礎戦術システム(2)	１次速攻、２次速攻、３次速攻(2)
18	戻りの防御の基礎戦術システム(1)	相手の速攻に対する防御システム(1)
19	戻りの防御の基礎戦術システム(2)	相手の速攻に対する防御システム(2)

20	攻撃コンビネーション(1)	２対１、２対２、３対２、３対３、４対３、４対４(1)
21	攻撃コンビネーション(2)	２対１、２対２、３対２、３対３、４対３、４対４(2)
22	防御コンビーション(1)	１対２、２対２、２対３、３対３、３対４、４対４(1)
23	防御コンビーション(2)	１対２、２対２、２対３、３対３、３対４、４対４(2)
24	攻撃トレーニング(1)	攻撃テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(1)
25	攻撃トレーニング(2)	攻撃テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(2)
26	防御トレーニング(1)	防御テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(1)
27	防御トレーニング(2)	防御テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(2)
28	速攻トレーニング	速攻テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て
29	戻りの防御トレーニング	戻りの防御テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て
30	総まとめ	各局面での組み立てを意識したゲーム

35102

科目コード	35102				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎) [ｻｯｶｰ] 《通年》				担当者名	桂　秀樹		
配当年次	1	配当学期	集中	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サッカーは世界で一番盛んなスポーツと言われている。それは、ボール1つあれば「いつでも・どこでも・誰とでも」プレーができる極めてシンプルなスポーツだからである。そのサッカーに対する理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
サッカーの技術・戦術の練習法を学び、またその指導法についても学ぶ。ルールやゲーム分析についても学び、サッカーに対する総合的な理解を深め、指導または改善方法を考案できる。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが、資料・映像等も必要に応じて活用し、技術・戦術や指導法についての講義授業も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するサッカーの技術・戦術・指導に関する書籍・DVDを参照し、毎時間課される次週課題について1時間の予習。毎時間課 され る授業課題について1時間の復習にあてる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を養成する科目である。初年次生に対し、チームスポーツの基礎的知識と技能の基礎を学ぶことを通してチームスポーツに対する理解を深め、指導や改善方法を考案することができるようにする。チームスポーツ指導理論・実習Ⅱ（応用）、Ⅲ（発展）、Ⅳ（実践）の基礎的科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲20%、技術・戦術・ゲームの内容理解度 40%、専門的理解度40%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業内容の説明、導入
2	サッカーの特性と歴史	サッカーの概要と歴史、ルールの変革
3	現代サッカーの特徴	世界と日本のサッカーの傾向と特徴
4	コーチングの基礎（1）	競技者とのコミュニケーション
5	コーチングの基礎（2）	競技者のモチベーションを高める
6	コーチングプラン（1）	シーズン全体のプランニング
7	コーチングプラン（2）	シーズンに向けてのプランニング
8	コーチングプラン（3）	シーズン中の中期的プランニング
9	コーチングプラン（4）	シーズン中の月間プランニング
10	コーチングプラン（5）	シーズン中の週間プランニング
11	コーチングプラン（6）	トレーニングプラン
12	コーチングプラン（7）	オフシーズン中のプランニング
13	テクニックの指導（1）	ボールタッチ、ボールコントロールの指導
14	テクニックの指導（2）	各種キック、パスの指導
15	テクニックの指導（3）	ドリブル、フェイントの指導
16	ボールポゼッションの指導（1）	３対１、４対１、４対２などのボールポゼッションの指導
17	ボールポゼッションの指導（2）	６対４、７対４などのボールポゼッションの指導
18	個人戦術の指導（1）	個人の守備戦術の指導
19	個人戦術の指導（2）	個人の攻撃戦術の指導
20	グループ戦術の指導（1）	２対１、２対２の指導
21	グループ戦術の指導（2）	３対２、３対３の指導
22	グループ戦術の指導（3）	４対３、５対４の指導
23	チーム戦術の指導（1）	チームとしての守備戦術の指導
24	チーム戦術の指導（2）	チームとしての攻撃戦術の指導
25	ゲームのコーチング（1）	ゲームの準備
26	ゲームのコーチング（2）	ゲーム中の状況分析

27	ゲームのコーチング（３）	映像を使ったゲーム分析
28	競技者の評価	競技者を評価する項目
29	コーチングの評価（１）	プログラムの評価
30	コーチングの評価（２）	指導実践の評価

35102

科目コード	35102				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅰ(基礎)[硬式野球]《通年》				担当者名	金　無英		
配当年次	1	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
チームスポーツに関わる多くの局面について観察し、文献・資料などからチームスポーツに関する基礎的な知識を得る。その上で、現場において指導を行うという観点から、基礎体力を身につけ、基礎的な実技習得も含め、実践的な指導法について学習する。

＜授業の到達目標＞
反復練習により必要な基礎体力、基本的な技術力、ゲーム力を身につけ、技術練習の方法、種類を知り実施する。またチーム練習により集団行動を行うことで協調性を養う。

＜授業の方法＞
実習形式で行う。講義、映像教材を用いての分析・解説も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自の課題解決に取り組む。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力を養成するための基礎科目であり、初年次生に対し、深い専門性と実践力を身に付けた人材の育成を目指すものである。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲　20%、技術・戦術・ゲームの内容・理解度　40%、専門的理解度　40%|受講態度とスキル習得度を総合的に判断して評価する。|

＜教科書＞
＜参考書＞
西大立目　永（1995.12.10）
必携野球の審判法
大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	服装、心構え、評価などの説明
2	チームスポーツの特性	授業内容の説明、映像教材視聴
3	ウォーミングアップ	ストレッチ、ボディコントロール
4	ウォーニングアップ	ランニング、体幹トレーニング
5	基礎技術１	キャッチボール(捕球)
6	基礎技術１	キャッチボール（スローイング）
7	基礎技術２	ゴロ捕球（基本姿勢、グラブの扱い方）
8	基礎技術２	ゴロ捕球（捕球～スローイング、足の使い方）
9	基本技術３	フライ捕球（基本姿勢、グラブの扱い方）
10	基本技術３	フライ捕球（捕球～スローイング、足の使い方）
11	基本技術４	投手の技術（下半身の使い方）
12	基本技術４	投手の技術（腕の使い方）
13	基本技術５	捕手の技術（キャッチング）
14	基本技術５	捕手の技術（スローイング）
15	基本技術６	内野手の技術（ポジショニング）
16	基本技術６	内野手の技術（カバーリング）
17	基本技術６	内野手の技術（サインプレイ）
18	基本技術７	外野手の技術（ポジショニング）
19	基本技術７	外野手の技術（カバーリング）
20	基本技術８	走塁（第１リード）
21	基本技術８	走塁（第２リード）
22	基礎技術８	走塁（スタート）
23	基礎技術８	走塁（スライディング）

24	審判法	ルール・審判講習
25	ゲーム形式１	試合（シートバッティング）
26	ゲーム形式２	試合（紅白戦）
27	リーグ戦	試合・運営方法の学習
28	トーナメント戦	試合・運営方法の学習
29	到達度の確認	レポート作成
30	総括	ルール、技術、指導理論、審判法

32420

科目コード	32420				区　分	コア科目			
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅰ(基礎)[ﾏｰﾁﾝｸﾞ]《通年》				担当者名	中家　淳悟			
配当年次	1	配当学期	集中	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。総合芸術と位置付けられているマーチングの理解を深め、基本技術、基本動作、マーチングの起源や歴史、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の基礎を学ぶ。

＜授業の到達目標＞
マーチングの基本的な知識や動作、各楽器の起源や歴史、取り扱い方を習得する。

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（練習方法の実践）・討論（練習効果の検証）・まとめ（練習方法を生かした作品作り）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマポリシー５（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう理論的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられている。「様々な表現を理解し豊かな人間性とコミュニケーション能力を備えた人」を育成するための基礎科目であり、初年次生に対し、実習を通して、多様な音楽表現について基本的な理解を深め、基礎技術を習得し、指導理論を伸ばすための機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	マーチングの歴史（１）	西洋音楽史
3	マーチングの歴史（２）	マーチングの起源と歴史
4	管楽器の基礎知識（１）	管楽器の起源と歴史
5	管楽器の基礎知識（２）	管楽器の構造、取り扱い方
6	打楽器の基礎知識（１）	打楽器の起源と歴史
7	打楽器の基礎知識（２）	打楽器の構造、取り扱い方
8	カラーガードの基礎知識（１）	カラーガードの起源と歴史
9	カラーガードの基礎知識（２）	カラーガードの手具の構造、取り扱い方
10	管楽器の基本技術（１）	トランペットの基本技術について学ぶ
11	管楽器の基本技術（２）	メロフォンについて学ぶ
12	管楽器の基本技術（３）	バリトンについて学ぶ
13	管楽器の基本技術（４）	ユーフォニアムについて学ぶ
14	管楽器の基本技術（５）	テューバについて学ぶ
15	打楽器の基本技術（１）	スネアードラムについて学ぶ
16	打楽器の基本技術（２）	テナードラムについて学ぶ
17	打楽器の基本技術（３）	バスドラムについて学ぶ
18	打楽器の基本技術（４）	シンバルについて学ぶ
19	打楽器の基本技術（５）	鍵盤楽器について学ぶ
20	カラーガードの基本技術（１）	フラッグについて学ぶ
21	カラーガードの基本技術（２）	セーバーについて学ぶ
22	カラーガードの基本技術（３）	ライフルについて学ぶ
23	マーチングの基本動作（１）	立位姿勢について学ぶ
24	マーチングの基本動作（２）	楽器の構え方について学ぶ
25	マーチングの基本動作（３）	バイシクルステップ
26	マーチングの基本動作（４）	ストレートレッグ
27	マーチングの基本動作（５）	フォワードマーチ

28	マーチングの基本動作（6）	バックフォワードマーチ
29	マーチングの基本動作（7）	スライド
30	総括	授業のまとめ

40212

科目コード	40212				区　分	柔道整復実技科目		
授業科目名	整復学実技Ⅲ(上肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	河野　儀久、簀戸　崇史、東　千尋		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に対する整復・固定法を学びます。1年生で学んだ総論と理論の知識を活用し、臨床で通用する実技の技術を修得してもらいます。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師の技術として必要な上肢の外傷に関する口頭説明能力および整復・固定法の修得を目標とする。

＜授業の方法＞
柔道整復学理論で学んだ知識をもとに整復・固定法の実技を学習します。実技の修得には反復することが求められますので、授業内では実技の練習を繰り返しおこないます。また、実技の修得確認のための試験を複数回実施します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として、60分以上柔道整復学理論の学習することを望みます。加えて、授業内の実技試験の対策として６０分以上の復習をしっかり行ってください。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科のディプロマポリシー５（科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている）と関連付けられています。上肢骨折に対する整復・固定の知識と技術を学ぶことで、高齢者、スポーツ現場など様々な場面における傷害発生時に医療の専門的な処置を行う実践力を修得するための科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲6%・試験94%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会（2012）
「柔道整復学・実技編　改訂第2版」
南江堂
全国柔道整復学校協会（2003）
「包帯固定学」
南江堂
全国柔道整復学校協会（2009）
「柔道整復学・理論編　改訂第5版」
南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション(1)　　内	授業内容と成績評価の方法を説明する。
2	オリエンテーション(2)	授業の進め方と予定について説明する。
3	上肢骨折固定法（1）－鎖骨骨折理論①－	鎖骨に関する解剖学について説明する。
4	上肢骨折固定法（1）－鎖骨骨折理論②－	鎖骨骨折の理論について説明する。
5	上肢骨折固定法（1）－鎖骨骨折実技①－	鎖骨骨折の実技について説明する。
6	上肢骨折固定法（1）－鎖骨骨折実技②－	鎖骨骨折の問診・整復実技を習得する。
7	上肢骨折固定法（1）－鎖骨骨折実技③－	鎖骨骨折の固定法実技を習得する。
8	上肢骨折固定法（1）－鎖骨骨折実技④－	鎖骨骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。（実技確認試験）
9	上肢骨折固定法（2）－上腕骨外科頸骨折理論①－	上腕骨外科頸骨折の理解に必要な解剖学について説明する。
10	上肢骨折固定法（2）－上腕骨外科頸骨折理論②－	上腕骨外科頸骨折の理論について説明する。
11	上肢骨折固定法（2）－上腕骨外科頸骨折実技①－	上腕骨外科頸骨折の実技について説明する。
12	上肢骨折固定法（2）－上腕骨外科頸骨折実技②－	上腕骨外科頸骨折の問診・整復実技を習得する。
13	上肢骨折固定法（2）－上腕骨外科頸骨折実技③－	上腕骨外科頸骨折の固定法実技を習得する。
14	上肢骨折固定法（2）－上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。（実技確認試験）

	実技④－	
15	上肢骨折固定法（3）－第5中手骨頸部骨折理論①－	第5中手骨頸部骨折の理解に必要な解剖学について説明する。
16	上肢骨折固定法（3）－第5中手骨頸部骨折実技①	第5中手骨頸部骨折の固定実技を習得する①
17	上肢骨折固定法（3）－第5中手骨頸部骨折②－	第5中手骨頸部骨折の固定実技を習得する②
18	上肢骨折固定法（4）－第2指PIP関節背側脱臼理論－	第2指PIP関節背側脱臼の理解に必要な解剖学について説明する。
19	上肢骨折固定法（4）－第2指PIP関節背側脱臼実技①－	第2指PIP関節背側脱臼の固定実技を習得する①
20	上肢骨折固定法（4）－第2指PIP関節背側脱臼実技②－	第2指PIP関節背側脱臼の固定実技を習得する②
21	上肢骨折固定法（4）－橈骨遠位端部骨折理論①－	橈骨遠位端部の解剖について説明する。
22	上肢骨折固定法（4）－橈骨遠位端部骨折理論②－	橈骨遠位端部骨折の理論について説明する。
23	上肢骨折固定法（4）－橈骨遠位端部骨折実技①－	橈骨遠位端部骨折の実技について説明する。
24	上肢骨折固定法（4）－橈骨遠位端部骨折実技②－	橈骨遠位端部骨折の問診・整復実技を習得する。
25	上肢骨折固定法（4）－橈骨遠位端部骨折実技③－	橈骨遠位端部骨折の固定法実技を習得する。
26	上肢骨折固定法（4）－橈骨遠位端部骨折実技④－	橈骨遠位端部骨折の問診・整復・固定実技を総合的に習得する。（実技確認試験）
27	上肢骨折整復・固定法まとめ(1)	鎖骨骨折・外科頚骨折の実技総合学習
28	上肢骨折整復・固定法まとめ(2)	第5中手骨頸部骨折、第2指PIP関節背側脱臼固定法の総合復習
29	上肢骨折整復・固定法まとめ(3)	
30		

35202

科目コード	35202				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用)［陸上］《通年》				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
個人スポーツ指導理論・実習では、陸上競技の基本的な運動種目（短距離走、長距離走、障害走、跳躍種目、投擲種目）の技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、陸上競技の指導法・研究法を学ぶことを目的とします。

＜授業の到達目標＞
各種体力要因を効果的に高めるトレーニング手段や、その実施手順、トレーニング計画を作成する上での留意点など、実際のトレーニング現場を念頭に置いた実践的なトレーニング法、指導法についての理解を深めること。

＜授業の方法＞
実技実習を中心に展開していきますが、配布資料を用いた理論説明のための講義も行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各テーマに関して、参考書や資料などに目を通し、予備知識を得ておくと理解し易い。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー「健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力」を修得するための科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
技能レベル 30%、レポート 20%、受講態度 50%

＜教科書＞
＜参考書＞
尾縣 貢（2007年9月1日）
ぐんぐん強くなる!陸上競技
ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト（1）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト（2）	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	トレーニング理論（1）	トレーニングの基本的課題と方法に関する講義
5	トレーニング理論（2）	トレーニングの実施手順に関する講義
6	走の技術（1）	短距離走における合理的な技術の検討
7	走の指導法（1）	短距離走における効果的な指導の検討
8	走の技術（2）	障害走における合理的な技術の検討
9	走の指導法（2）	障害走における効果的な指導の検討
10	走の技術（3）	中・長距離走における合理的な技術の検討
11	走の指導法（3）	中・長距離走における効果的な指導の検討
12	跳の技術（1）	水平種目（走幅跳・三段跳）における合理的な技術の検討
13	跳の指導（1）	水平種目（走幅跳・三段跳）における効果的な指導の検討
14	跳躍の技術（2）	垂直種目（走高跳・棒高跳）における合理的な技術の検討
15	跳躍の指導（2）	垂直種目（走高跳・棒高跳）における合理的な指導の検討
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習
17	トレーニング理論（3）	トレーニング周期の原理に関する講義
18	トレーニング理論（4）	トレーニング計画の立て方に関する講義
19	投の技術（1）	サークル種目（砲丸投・円盤投）における合理的な技術の検討
20	投の指導（1）	サークル種目（砲丸投・円盤投）における効果的な指導の検討
21	投の技術（2）	やり投げにおける合理的な技術の検討
22	投の指導（2）	やり投げにおける効果的な指導の検討
23	混成競技の技術	混成競技における合理的な技術の検討
24	混成競技の指導	混成競技における効果的な指導の検討
25	トレーニング理論（5）	陸上競技におけるタレント発掘のあり方に関する講義

26	トレーニング理論（6）	ジュニア競技の育成に関する講義
27	後期の復習	後期学習内容の確認と復習
28	コントロールテスト（3）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
29	コントロールテスト（4）	専門的体力・スキルの評価（走能力、跳能力など）
30	コントロールテスト（5）	１年を通じてのコントロールテストの分析・解釈

35202

科目コード	35202				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用)［剣道］《通年》				担当者名	平田　佳弘		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、全日本剣道連盟が制定（1975）した剣道の理念、すなわち「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」に基づく正しい剣道について理解を深め、基本練習や応用練習を行う。さらに、昇段審査において四段合格を目指し、剣道において技を繰り出す時の正しい「攻め」、正しい「防御」方法を学び、正しい剣道とは何かを追求していく。

＜授業の到達目標＞

剣道指導者として、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人に対して、またそれぞれの年齢の初心者、中級者、熟練者に対して、その集団の技量に応じた段階的な指導を、理論的に実践的にできるようになることを目標とする。

＜授業の方法＞

実技を中心に進めるが、講義も数時間実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

剣道指導要領（全日本剣道連盟）を熟読しておくこと。毎時間に取り上げる内容について、剣道指導要領の対応する部分を熟読し、質問・自分の課題等をまとめておくこと。1コマにつき、予習1時間、復習1時間は行い、記録したノートを定期的に提出すること。内容をチェックします。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は体育学科ディプロマポリシー２「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられています。現代社会において果たす体育・スポーツの役割を深く理解するとともに、剣道の競技力向上と専門的知識を学び、剣道指導者としての総合的能力を培う授業です。学校体育としての剣道、生涯スポーツとしての剣道を深く理解し、スポーツと武道の違いとは何かを追求し、剣道指導者としての総合的実践力を高めます。さらに昇段審査に挑戦し、四段取得を目指し、剣道指導者、専門家としての資質

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 30%、授業記録ノート点 20%、実技試験 50%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

全日本剣道連盟(2012.1.1)
剣道指導要領
財団法人全日本剣道連盟

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	剣道稽古の目的と心構え	授業内容の説明・オリエンテーション
2	基本技術の復習（1）	切り返しについて（1）
3	基本技術の復習（2）	切り返しについて（2）
4	基本技術の復習（3）	切り返しについて（3）
5	基本的打突 面・胴・小手・突き（1）	気・剣・体の一致した技の練習
6	基本的打突 面・胴・小手・突き（2）	気・剣・体の一致した技の練習
7	基本的打突 面・胴・小手・突き（3）	気・剣・体の一致した技の練習
8	応用技能（1）	出ばな技、応じ技（1）
9	応用技能（2）	出ばな技、応じ技（2）
10	応用技能（3）	出ばな技、応じ技（3）
11	打ちこみ稽古	打ちこみ稽古　（大きく面、大きく小手面など）
12	振りかぶりを小さく鋭く打ち込む	小さい振りかぶりからの技練習
13	体当たりを入れて打ち込みを行う	体当たりで相手を崩しての技練習
14	追い込み稽古（1）	基本技術を中心に追い込みを行う（1）
15	追い込み稽古（2）	基本技術を中心に追い込みを行う（2）
16	追い込み稽古（3）	基本技術を中心に追い込みを行う（3）
17	互角稽古（1）	互角稽古及び区分稽古を行う（1）
18	互角稽古（2）	互角稽古及び区分稽古を行う（2）

19	互角稽古（3）	互角稽古及び区分稽古を行う（3）
20	互角稽古（4）	互角稽古及び区分稽古を行う（4）
21	互角稽古（5）	互角稽古及び区分稽古を行う（5）
22	引き立て稽古（1）	高段者や有段者に稽古をもらう（1）
23	引き立て稽古（2）	高段者や有段者に稽古をもらう（2）
24	引き立て稽古（3）	高段者や有段者に稽古をもらう（3）
25	引き立て稽古（4）	高段者や有段者に稽古をもらう（4）
26	引き立て稽古（5）	高段者や有段者に稽古をもらう（5）
27	試合稽古（1）	学生主体で試合を運営する（1）
28	試合稽古（2）	学生主体で試合を運営する（2）
29	試合稽古（3）	学生主体で試合を運営する（3）
30	試合稽古（4）	学生主体で試合を運営する（4）

35202

科目コード	35202				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用)[ﾀﾞﾝｽ]《通年》				担当者名	小澤　尚子		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
基礎ステップやリズム練習、即興表現を通してダンスの基礎的な技能を習得する。また、グループでの小作品づくり、観賞を通して、自己表現の可能性を拡げ、ダンスの要素である「踊る、創る、観る」力をバランス良く養う。また、舞台を上演するための制作的な仕事について理解、習得することを目的とする。

＜授業の到達目標＞
作品創作の実践を通して、テクニカルな要素(照明、音響、舞台美術等)、制作的な作業を含めた総合芸術としての舞踊作品を成立させるために必要なプロセス、要素を検証し、総合芸術としての舞踊作品を上演するために必要な職業的知見を獲得する。また、ダンスの動作のステップ、バランス、ジャンプ、ターンなどの技能を身に付け、作品へのイメージを膨らませて自身のソロ作品を創ることができるようになる。

＜授業の方法＞
クロスフロアやダンスのコンビネーション（振付）を覚えて、基礎ステップやリズムどり、即興表現などを練習していく。また、鏡や動画を用いて自身の動きを確認し、フィードバックする。さらに、学生同士で見合いながら、指導のポイントをとらえていく。定期試験は振り付け作品とソロ作品の創作・発表を試験課題として実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業内容に関連する参考図書、参考資料等に目を通し、課題意識を持って授業に参加すること（1～2時間）復習：授業で配布した資料をファイリングする。授業で行ったダンスのウォームアップと振付等をフィードバックし、次回の授業までに覚えておく（1～2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身につける科目である。また、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付ける機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、授業記録と技能 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義のルール、概要の説明など
2	制作について	舞台上演法について
3	テクニカルシートの書き方(照明、音響プラン)	テクニカルシートの書き方(照明、音響プラン)
4	身体練習１　基礎技術の確認	基礎技術
5	身体練習２　コンビネーション（脚上げ）	タンジュ、ジュッテ、バットマンの基礎技術
6	身体練習３　コンビネーション（ターン）	ターン系の基礎技術
7	身体練習４　コンビネーション（ジャンプ）	ジャンプ系の基礎技術
8	身体練習５　コンビネーション（その他）	その他の動きの基礎技術
9	習作　グループワーク1（モチーフ）	グループに分かれ、動きを考案
10	習作　グループワーク2（フレーズ）	グループに分かれ、動きをつなげる
11	習作　グループワーク3（イメージ）	グループに分かれ、動きを通して表現性を創発
12	発表・再検討	改善する箇所を相談し、修正する
13	グループワーク・踊り込み練習	複数回練習し、考案したフレーズをよりスムーズにする
14	発表・評価	発表、評価を通して、動きの習熟度を確認
15	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認
16	舞踊の種類と運動の特性1(前期振り返り)	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明
17	舞踊の種類と運動の特性2（身体練習）	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明

18	表現体としての身体とそのメカニズム	表現体としての踊るからだのメカニズムについて確認
19	ダンス作品の創作・振付１（モチーフ）	ダンス作品の創作・振付としてのモチーフの概要
20	ダンス作品の創作・振付2（フレーズ）	ダンス作品の創作・振付としてのフレーズの概要
21	ダンス作品の創作・振付3（イメージ）	ダンス作品の創作・振付としてのイメージの概要
22	ソロ作品を創作（1）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
23	ソロ作品を創作（2）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
24	ソロ作品を創作（3）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
25	ソロ作品を創作（4）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
26	踊り込み・吟味	踊り込みをおこない、より作品性を問う
27	作品の発表・合評1	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
28	作品の発表・合評2	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
29	作品の発表・合評3	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
30	今後の課題と構想	今後の課題を発見し、実現するための構想を練る

35203

科目コード	35203				区　分	コア		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用)[ﾗｸﾞﾋﾞｰ]《通年》				担当者名	小村　淳		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義においては、ラグビーのルールやハンドリング・キッキング・モール・ラック・スクラム・ラインアウトなどの 基本技術（テクニック・スキル）やフィットネスの幅広い知識を教授するとともに、個人的技能のスキルアップからユニッ トスキル・チームスキルの習得へと展開する。

＜授業の到達目標＞
最終的にはゲーム形式でラグビーを実施することを目的とし、その上で 現場において指導を行うという観点から、競技の特性や選手の能力、安全対策、戦略の実践指導について理解を深めさ せることを目的とする。

＜授業の方法＞
実技学習ではグループに分け、（1）グリッドシステム（2）チャンネルシステム（3）視聴覚機器（4）講義を取り入れ て学習する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシーに （増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている）に対応した科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本的技能の発達　　40%、実技テスト　　30%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
授業中に適宜紹介する。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修にあたっての諸注意
2	個人スキル練習（グリッド）　Ⅰ	ハンドリング・キッキング
3	個人スキル練習（グリッド）　Ⅱ	ランニング・タックル・コンタクト
4	個人スキル練習（グリッド）　Ⅲ	ハンドリング・キッキング・ランニング・タックル・コンタクト等 ※まとめ
5	個人スキルテスト（１）	ハンドリング・キッキング
6	個人スキルテスト（２）	ランニング・タックル・コンタクト
7	個人スキルテスト（３）	コンタクト（タックル・ヒットプレー）
8	BKプレーについての講義	ビデオ鑑賞をさせBKプレーについての役割、仕組み等について
9	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅰ	BKラインの構成、ラインの作り方（オープンパス攻撃）
10	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅱ	BKラインの構成、ラインの作り方（・センタースイッチプレイ・とばしパス攻撃等）
11	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅲ	BKラインの構成、ラインの作り方(オープンパス攻撃・センタースイッチプレイ・とばしパス攻撃・FBのライン参加攻撃等)　※まとめ
12	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅰ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる（マンツーマンDF）
13	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅱ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる（マンツーマン、ドリフトDF）
14	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅲ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる(マンツーマン、ドリフト、ツメDF等)　※まとめ
15	バリエーションプレー（BK）　Ⅰ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅰ
16	バリエーションプレー（BK）　Ⅱ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅱ
17	バリエーションプレー（BK）　Ⅲ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅲ
18	オープンゲーム（実践）　Ⅰ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅰ
19	オープンゲーム（実践）　Ⅱ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅱ

20	オープンゲーム（実践） Ⅲ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅲ　※まとめ
21	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅰ	セットプレーからの攻撃（スクラム・ラインアウト・ペナルティー）
22	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅱ	モール・ラックからの攻撃（プラットホーム・ドライビングモール等）
23	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅲ	セットプレーからの攻撃（スクラム・ラインアウト・ペナルティー）モール・ラックからの攻撃（プラットホーム・ドライビングモール等）　※まとめ
24	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅰ	セットプレーからの各ポジションの役割を理解させる
25	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅱ	ラック・モールの防御法
26	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅲ	セットプレーからの各ポジションの役割を理解させるラック・モールの防御法　※まとめ
27	ゲーム（実践）　Ⅰ	FWのユニットスキルの成果を試す
28	ゲーム（実践）　Ⅱ	BKのユニットスキの成果を試す
29	ゲーム（実践）　Ⅲ	チームスキルの成果を試す
30	ゲーム（実践）　Ⅳ	FWユニット・BKユニット・チームスキルの成果を試す　※まとめ

35203

科目コード	35203				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) [ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	山本　清人		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの基本的な技術（例えば、ボールの持ち方、投げ方、バットの握り方、グ ラブの操作方法など）を活かし応用する技術を学ぶ。また、守備の基本（投球、守備）から攻撃の基本（打撃、走塁）などの個人技術を更に高いレベルでの習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞

(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃, 安定したボ ール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 (3) 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができる。

＜授業の方法＞

実技を中心にグランドにて実習し、バッティングなど理論が必要なときは随時説明をする。　１．グループワーク（予習内容に関する確認）２．実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）　　タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。３．ディスカッション（問題提示に対する回答）４．省察活動（まとめ）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

（予習）授業時間に配布された資料を読んで次回の目的・目標を設定し、具体的方法を考えてくる。（１時間）（復習）授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深めるとともに、指導方法等をまとめる。　（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は体育学科のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）と関連付けられています。ソフトボール競技を通して日常的にスポーツに親しみ、かつ楽しむことを目指し、豊かな人間性を修得するための科目であり、プレーを通して体力を向上させるとともに健康を増進させ、チームスポーツで得られる他者を尊重しこれと協同する精神、公平さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うことで思考力や判断力を実践的に活用することのできる人格を修得することを目指しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席意欲40%、予習10%、、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

＜教科書＞

＜参考書＞

財団法人日本ソフトボール協会
ソフトボール指導者教本
日本体育社株式会社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中級レベル)	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中級レベル)	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
3	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中級レベル)	投球の応用技術　投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中級レベル)	投球の応用技術　投球モーションのフォームと特徴
5	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中級レベル)	守備の応用技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲
6	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中級レベル)	守備の応用技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲
7	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中級レベル)	打撃の応用技術
8	ソフトボールの技術と指導法(応用編　中	打撃の応用技術

	級レベル）	
9	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	バントの応用技術　バスターの応用技術
10	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	バントの応用技術　バスターの応用技術
11	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	走塁の応用技術
12	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
13	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
14	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
15	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
16	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
17	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
18	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
19	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
20	ソフトボールの技術と指導法（応用編　中級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
21	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
22	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
23	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
24	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
25	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
26	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
27	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
28	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
29	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト
30	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト

35203

科目コード	35203				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) [ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	坂本　博秋		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボール競技の基礎・基本の習得はもちろんのこと、常に実戦を見据えたプレーを意識させ自己の競技力向上に努めることを狙いとする。

＜授業の到達目標＞
バレーボール競技における基礎的ルールや特性を理解し、スポーツそのものが持つ意義、そして安全に配慮しながら楽しむことを自他共に共有し活動できる力を身につける。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが必要に応じて映像、データ等を活用し理解を深めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バレーボール競技に必要な知識やスキルを各自習得し、ゲーム内容をイメージさせておくこと。(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
バレーボール競技を通じて、「健康増進、体力の向上、または競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能」を習得すると共に「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習能力」の育成を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲と授業態度 50%、 スキル習得度 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修に当たっての諸注意
2	ウエイトトレーニング１	上半身・体幹トレーニング
3	ウエイトトレーニング２	下半身・体幹トレーニング
4	プライオメトリックストレーニング	ジャンプ力強化トレーニング
5	持久走	持久力の強化
6	ゲーム分析１	ローテ別レセプションアタック
7	ゲーム分析２	ディグアタックとそのコース
8	総合練習（アタック）１	３人組コンビネーションアタック
9	総合練習（アタック）２	５人組コンビネーションアタック
10	総合練習（アタック）３	ディグからのハイセットアタック
11	総合練習（アタック）４	クイックアタックとバックロー（パイプ攻撃）
12	総合練習（アタック）５	シンクロ攻撃（ファーストテンポ）
13	総合練習（アタック）６	リバウンドからの二段攻撃
14	総合練習（ブロック）１	マンツーマンコミットブロック
15	総合練習（ブロック）２	バンチリードブロック
16	総合練習（ブロック）３	ハイセットへの対応（３枚ブロック）
17	総合練習（簡易ゲーム）１	３対３バックアタックゲーム
18	総合練習（簡易ゲーム）２	４対４シンクロアタックゲーム
19	総合練習（６人）１	レセプションアタックとリードブロック
20	総合練習（６人）２	ディグアタックとコミットブロック
21	総合練習（６人）３	フリーボールからのシンクロ攻撃（ファーストテンポ）
22	実践練習１	ゲーム形式
23	実践練習２	ゲーム形式
24	実践練習３	ゲーム形式
25	実践練習４	ゲーム形式

26	実践練習５	ゲーム形式
27	実践練習６	ゲーム形式
28	実践練習７	ゲーム形式
29	実践練習８	ゲーム形式
30	まとめ	戦術理解度の確認

35203

科目コード	35203				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用)［ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ］《通年》				担当者名	森　　億		
配当年次	2	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボール競技の基本・基礎の習得はもちろんのこと、パフォーマンス発揮に必要である「心」「技」「体」「脳」についての知識を高め、自己の競技力向上に努めることをねらいとする。また利己的思考だけではなく、利他的思考も習得し、社会の一員である自覚を持った行動が導き出せるようにする。

＜授業の到達目標＞
バスケットボール競技における基礎的ルールや特性を理解し、スポーツそのものが持つ意義、そして安全に配慮しながら楽しみむことを、自他ともに共有し活動できる力を身に付けること。

＜授業の方法＞
実践練習が中心ではあるが、それに伴うミーティングやワークショップ等を適宜実施し、知見を深めさせていく。　また、情報や仲間の意見や考え方等をバスケプラスやDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バスケットボール競技に必要な知識やスキルを各自習得し、トレーニングをイメージさせておくこと。各自、プログラムされたメニューを１時間以上実施しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
態度・志向性（DP7:体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている）及び知識・理解（DP2:健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）を習得する科目である。バスケットボール競技を通じて、その特性や競技性を習得するとともに、本学のディプロマ・ポリシーである「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる能力」の育成を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
技能 60%、レポート 20%、受講態度 20%

＜教科書＞
＜参考書＞
高妻 容一・森 億その他（2010年7月）？
バスケットボール選手のメンタルトレーニング ？
ベースボールマガジン社
森　億（2018年2月5日）
脳にノーと言えれば、スポーツパフォーマンスは上がる！
ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	年間計画及びねらいの確認
2	目標設定の仕方を学ぶ	GROWモデルについての知見の習得及び作成
3	個人ファンダメンタル①	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
4	個人ファンダメンタル②	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
5	個人ファンダメンタル③	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
6	個人ファンダメンタル④	ディフェンスファンダメンタル（フットワーク・ディナイ・クローズアウト等）
7	個人ファンダメンタル⑤	ディフェンスファンダメンタル（フットワーク・ディナイ・クローズアウト等）
8	ブレイントレーニング①	身体と脳の関係について
9	ブレイントレーニング②	脳処理について
10	ブレイントレーニング③	記憶と生活習慣について
11	ウエイトトレーニング①	上半身及び体幹周りのトレーニング
12	ウエイトトレーニング②	下半身及び体幹周りのトレーニング
13	プライメトリックトレーニング	ジャンプ力強化トレーニング ？
14	チームファンダメンタル①	1対1、2対2の攻防について
15	チームファンダメンタル②	1対1、2対2の攻防について
16	チームファンダメンタル③	3対3、4対4の攻防について
17	チームファンダメンタル④	3対3、4対4の攻防について

18	チームファンダメンタル⑤	3対3、4対4の攻防について
19	メンタルトレーニング①	あがり・緊張状態について
20	メンタルトレーニング②	フロー状態について
21	総合練習①	スクリーンメージ（5対5の攻防）
22	総合練習②	スクリーンメージ（5対5の攻防）
23	総合練習③	スクリーンメージ（5対5の攻防）
24	総合練習④	スクリーンメージ（5対5の攻防）
25	総合練習⑤	スクリーンメージ（5対5の攻防）
26	実践練習①	ゲーム（実践形式）
27	実践練習②	ゲーム（実践形式）
28	実践練習③	ゲーム（実践形式）
29	実践練習④	ゲーム（実践形式）
30	実践練習⑤	ゲーム（実践形式）

35203

科目コード	35203				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用)[ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	前田　誠一		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義は、非常にスピーディーで、より戦略的な現代ハンドボールの特徴を踏まえ、専門的知識と実践力を身につけた指導者の養成を行う。

＜授業の到達目標＞
現代のハンドボールにおいて必要となるより発展的な技術・戦術、 ゲームのあらゆる局面における様々な戦術システム、及びゲームにおけるその戦術的な活用について理解する.。その結果、ゲーム中の改善点を摘出でき、ゲームをより優位な状況で展開できる知識が身につく。

＜授業の方法＞
理論説明の為の講義、ビデオを用いての分析・解説、及び実技の実習形式で行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。授業ノートを作り、その日に行ったこと、ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。〈予習事項〉次回のj授業テーマ（あるいは教員が示すキーワード）について、テキスト、Web、参考文献等を通して、事前に自分の意見をまとめ、討論に備えておく。（1時間程度）※簡易レポートの提出を含む〈復習事項〉授業内容（講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかったのか」に

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付け、体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的 スキルを身に付ける。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

＜教科書＞
＜参考書＞
笹倉清則（2003）
「Tactics of Handba in The Word」
財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治（2012）
「基本が身につく　ハンドボール　練習メニュー200」
池田書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修にあたっての諸注意
2	競技特性	競技の成り立ちの説明と原始的なゲームや簡易ゲーム
3	ゲームとルール	ルールの理念及びルールからみた競技特性
4	ゲームの局面構造(1)	セットの攻撃⇒戻りの防御⇒セットの防御⇒速攻の理解(1)
5	ゲームの局面構造(2)	セットの攻撃⇒戻りの防御⇒セットの防御⇒速攻の理解(2)
6	攻撃の個人技術(1)	パス、シュート、フェイント(1)
7	攻撃の個人技術(2)	パス、シュート、フェイント(2)
8	防御の個人技術(1)	タックル、キャッチ＆ウォーク、シュートブロック(1)
9	防御の個人技術(2)	タックル、キャッチ＆ウォーク、シュートブロック(2)
10	対人技術・戦術(1)	１対１状況での攻撃及び防御(1)
11	対人技術・戦術(2)	１対１状況での攻撃及び防御(2)
12	攻撃の基礎戦術システム(1)	ポジションプレー、ポジション・システムチェンジプレー(1)
13	攻撃の基礎戦術システム(2)	ポジションプレー、ポジション・システムチェンジプレー(2)
14	防御の基礎戦術システム(1)	６・０防御、５・１防御、３・２・１防御(1)
15	防御の基礎戦術システム(2)	６・０防御、５・１防御、３・２・１防御(2)
16	速攻の基礎戦術システム(1)	１次速攻、２次速攻、３次速攻(1)
17	速攻の基礎戦術システム(2)	１次速攻、２次速攻、３次速攻(2)

18	戻りの防御の基礎戦術システム(1)	相手の速攻に対する防御システム(1)
19	戻りの防御の基礎戦術システム(2)	相手の速攻に対する防御システム(2)
20	攻撃コンビネーション(1)	２対１、２対２、３対２、３対３、４対３、４対４(1)
21	攻撃コンビネーション(2)	２対１、２対２、３対２、３対３、４対３、４対４(2)
22	防御コンビーション(1)	１対２、２対２、２対３、３対３、３対４、４対４(1)
23	防御コンビーション(2)	１対２、２対２、２対３、３対３、３対４、４対４(2)
24	攻撃トレーニング(1)	攻撃テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(1)
25	攻撃トレーニング(2)	攻撃テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(2)
26	防御トレーニング(1)	防御テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(1)
27	防御トレーニング(2)	防御テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て(2)
28	速攻トレーニング	速攻テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て
29	戻りの防御トレーニング	戻りの防御テーマに基づく個人技術からシステムまでの組み立て
30	総まとめ	各局面での組み立てを意識したゲーム

35203

科目コード	35203				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用) [ｻｯｶｰ] 《通年》				担当者名	桂　秀樹		
配当年次	2	配当学期	集中	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サッカーは世界で一番盛んなスポーツと言われている。それは、ボール1つあれば「いつでも・どこでも・誰とでも」プレーができる極めてシンプルなスポーツだからである。そのサッカーに対する理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
サッカーの技術・戦術の練習法を学び、またその指導法についても学ぶ。ルールやゲーム分析についても学び、サッカーに対する総合的な理解を深め、指導または改善方法を考案できる。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが、資料・映像等も必要に応じて活用し、技術・戦術や指導法についての講義授業も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するサッカーの技術・戦術・指導に関する書籍・DVDを参照し、毎時間課される次週課題について1時間の予習。毎時間課 され る授業課題について1時間の復習にあてる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を養成する科目である。２年次生に対し、チームスポーツの応用的知識と技能の応用を学ぶことを通してチームスポーツに対する理解を深め、指導や改善方法を考案することができるようにする。チームスポーツ指導理論・実習Ⅰ（基礎）の応用科目であり、Ⅲ（発展）、Ⅳ（実践）との関連科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲20%、技術・戦術・ゲームの内容理解度 40%、専門的理解度40%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業内容の説明、導入
2	サッカーの特性と歴史	サッカーの概要と歴史、ルールの変革
3	現代サッカーの特徴	世界と日本のサッカーの傾向と特徴
4	コーチングの応用（１）	競技者とのコミュニケーション
5	コーチングの応用（２）	競技者のモチベーションを高める
6	コーチングプラン（１）	シーズン全体のプランニング
7	コーチングプラン（２）	シーズンに向けてのプランニング
8	コーチングプラン（３）	シーズン中の中期的プラン
9	コーチングプラン（４）	シーズン中の月間プラン
10	コーチングプラン（５）	シーズン中の週間プラン
11	コーチングプラン（６）	トレーニングプラン
12	コーチングプラン（７）	オフシーズン中のプランニング
13	テクニックの指導（１）	ボールタッチ、ボールコントロールの指導
14	テクニックの指導（２）	各種キック、パスの指導
15	テクニックの指導（３）	ドリブル、フェイントの指導
16	ボールポゼッションの指導（１）	３対１、４対１、４対２などのボールポゼッションの指導
17	ボールポゼッションの指導（２）	６対４、７対４などのボールポゼッションの指導
18	個人戦術の指導（１）	個人の守備戦術の指導
19	個人戦術の指導（２）	個人の攻撃戦術の指導
20	グループ戦術の指導（１）	２対１、２対２の指導
21	グループ戦術の指導（２）	３対２、３対３の指導
22	グループ戦術の指導（３）	４対３、５対４の指導
23	チーム戦術の指導（１）	チームとしての守備戦術の指導
24	チーム戦術の指導（２）	チームとしての攻撃戦術の指導
25	ゲームのコーチング（１）	ゲームの準備
26	ゲームのコーチング（２）	ゲーム中の状況分析

27	ゲームのコーチング（３）	映像を使ったゲーム分析
28	競技者の評価	競技者を評価する項目
29	コーチングの評価（１）	プログラムの評価
30	コーチングの評価（２）	指導実践の評価

35203

科目コード	35203				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅱ(応用)［硬式野球］《通年》				担当者名	金　無英		
配当年次	2	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
チームスポーツに関わる多くの局面について観察し、文献・資料などからチームスポーツに関わる基礎的な知識を得る。その上で、現場において指導を行うという観点から、基礎体力を身につけ、基礎的な実技習得も含め、実践的な指導法について学習する。

＜授業の到達目標＞
反復練習により必要な基礎体力、応用的な技術力、ゲーム力を身につけ、技術練習の方法、種類を知り実施する。またチーム練習により連携・情報伝達を円滑に行い、チームとしての協調性を養う。

＜授業の方法＞
実習形式で行う。講義、映像教材を用いての分析・解説も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自の課題解決に取り組む。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力を養成するための応用科目であり、二年次生に対し、深い専門性と実践力を身に付けた人材の育成を目指すものである。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲　20%、技術・戦術・ゲームの内容・理解度　40%、専門的理解度　40%｜受講態度とスキル習得度を総合的に判断して評価する。｜

＜教科書＞
＜参考書＞
西大立目　永（1995.12.10）
必携野球の審判法
大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	服装、心構え、評価などの説明
2	チームスポーツの特性	授業内容の説明、映像教材視聴
3	ウォーミングアップ	ストレッチ、ボディコントロール
4	ウォーニングアップ	ランニング、体幹トレーニング
5	基礎技術１	キャッチボール(スナップスロー)
6	基礎技術１	キャッチボール（ランニングスロー）
7	基礎技術２	ゴロ捕球（基本姿勢、ハンドリング）
8	基礎技術２	ゴロ捕球（逆シングル）
9	基本技術３	フライ捕球（基本姿勢、ハンドリング）
10	基本技術３	フライ捕球（ランニングキャッチ）
11	基本技術４	投手の技術（ストレート）
12	基本技術４	投手の技術（変化球）
13	基本技術５	捕手の技術（ワンバン捕球）
14	基本技術５	捕手の技術（バント処理）
15	基本技術６	内野手の技術（牽制）
16	基本技術６	内野手の技術（ダブルプレー）
17	基本技術６	内野手の技術（バント処理）
18	基本技術７	外野手の技術（中継へのスローイング）
19	基本技術７	外野手の技術（ダイレクト返球）
20	基本技術８	走塁（バントのケース）
21	基本技術８	走塁（ヒットエンドランのケース）
22	基礎技術８	走塁（スチール）
23	基礎技術９	ベースコーチ（判断・指示）

24	審判法	ルール・審判講習
25	ゲーム形式１	試合（シートバッティング）
26	ゲーム形式２	試合（紅白戦）
27	リーグ戦	試合・運営方法の学習
28	トーナメント戦	試合・運営方法の学習
29	到達度の確認	レポート作成
30	総括	ルール、技術、指導理論、審判法

32421

科目コード	32421				区　分	コア科目		
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅱ(応用)[ﾏｰﾁﾝｸﾞ]《通年》				担当者名	中家　淳悟		
配当年次	2	配当学期	集中	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰで学んだことから応用的な技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の応用形を身につけ様々な表現方法について学ぶ。

＜授業の到達目標＞
マーチングの応用的な知識や動作、各楽器の応用的な技術・指導力を身につける。

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（効果的で応用的な練習方法の提案）・フィールドワーク（応用的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（応用的な練習方法を生かした作品作り）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマポリシー５（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう理論的・批判的思考力を身に付けている）と関連付けられている。「様々な表現を理解し豊かな人間性とコミュニケーション能力を備えた人」を育成するための応用科目であり、初年次配当の「音楽表現指導理論・実習Ⅰ」のステップ履修科目でもある。実習を通して、多様な音楽表現について応用的な理解を深め、技術を習得し、指導理論を多目的に伸ばすための機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の技術（1）	ブレスコントロール
3	管楽器の技術（2）	ロングトーン
4	管楽器の技術（3）	リップスラー
5	管楽器の技術（4）	タンギング（1）、シングルタンギング
6	管楽器の技術（5）	タンギング（2）、ダブルタンギング
7	管楽器の技術（6）	タンギング（3）、トリプルタンギング
8	打楽器の技術（1）	シングルストローク（トラディッショナルグリップ）
9	打楽器の技術（2）	ダブルストローク（トラディッショナルグリップ）
10	打楽器の技術（3）	トリプルストローク（トラディッショナルグリップ）
11	打楽器の技術（4）	シングルストローク（マッチドッグリップ）
12	打楽器の技術（5）	ダブルストローク（マッチドッグリップ）
13	打楽器の技術（6）	トリプルストローク（マッチドッグリップ）
14	カラーガードの技術（1）	スピン（フラッグ）
15	カラーガードの技術（2）	トス（フラッグ）
16	カラーガードの技術（3）	コンビネーション（フラッグ）
17	カラーガードの技術（4）	スピン（セーバー）
18	カラーガードの技術（5）	トス（セーバー）
19	カラーガードの技術（6）	コンビネーション（セーバー）
20	カラーガードの技術（7）	スピン（ライフル）
21	カラーガードの技術（8）	トス（ライフル）
22	カラーガードの技術（9）	コンビネーション（ライフル）
23	マーチングの動作（1）	ラインでの動作
24	マーチングの動作（2）	ボックスでの動作
25	マーチングの動作（3）	フォローザリーダーでの動作

26	マーチングの動作（４）	ローテーションでの動作
27	マーチングの動作（５）	ジャズウォーク
28	マーチングの動作（６）	ジャズラン
29	マーチングの動作（７）	コンビネーション
30	総括	授業のまとめ

53030

科目コード	53030				区　分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅰ　《通年》				担当者名	飯出　一秀、古山　喜一、河野　儀久、坂本　賢広、簀戸　崇史			
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
患者様と接する臨床実習が大学附属接骨院で開始されるが、その臨床実習を開始するにあたり過不足の無い内容を実習を通して学ぶ。その為には、安心・安全な医療を提供し、国民から必要とされている接骨院がどの様な機能を果たせば良いのか、あるいは安価で質の良い医療を提供する為に我々はどの様な社会的基盤づくりが必要なのかといった柔道整復術に関わる方策問題に始まり、実際に患者様から痛みの原因を患者様の背景を含めて探り出す医療面接技法に到るまでを学習する。

＜授業の到達目標＞
患者に寄り添った施術を理解し、病態情報の的確な評価、後療法のプログラムの立案、ゴール設定、管理ができるようになる。

＜授業の方法＞
接骨院実習および少人数制のグループ単位を基本とし、実技・実習形態で行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科ディプロマポリシー７に関連付けられている「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」を備え、整復臨床実習Ⅱの現場実習にスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
単元ごとの実技試験（50%）、実習レポート（50%）で評価する。

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会・監修
運動学
医歯薬出版
＜参考書＞
ヘレン・Ｊ．ヒスロップ，ジャクリーン・モントゴメリー
新・徒手筋力検査法
協同医書出版社
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	接骨院実習・ガイダンス	実習内容の説明　　グループ決め
2	接骨院実習・身体計測	肢長・周囲径等
3	接骨院実習・関節可動域測定法	人体の面と線及び運動
4	接骨院実習・関節可動域測定法	上肢の計測
5	接骨院実習・関節可動域測定法	体幹及び下肢の計測
6	接骨院実習・関節可動域測定法	総合１
7	接骨院実習・関節可動域測定法	総合２
8	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	上肢の徒手筋力検査（MMT）
9	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	下肢の徒手筋力検査（MMT）
10	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	体幹の徒手筋力検査（MMT）
11	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	総合１
12	接骨院実習・徒手筋力検査（MMT）	総合２
13	接骨院実習・神経学的検査法	上肢・下肢・体幹の神経学的検査法
14	接骨院実習・柔道整復師の保険施術について、施術協定、保険外診療など	保険で使用する傷病名、保険給付の仕組み
15	接骨院実習・接骨院の受付、施術者、スタッフの心掛けルール	接骨院での服装、挨拶、言葉使い、患者の立場になって、リスク管理等
16	接骨院実習・施術	上肢の手技療法1(stretching)

17	接骨院実習・施術	上肢の手技療法２（massage）
18	接骨院実習・施術	上肢の運動療法
19	接骨院実習・施術	下肢・体幹の手技療法1(stretching)
20	接骨院実習・施術	下肢・体幹の手技療法２（massage）
21	接骨院実習・施術	下肢・体幹の運動療法
22	接骨院実習・物理療法	物理療法機器の適応と禁忌及び実際の取り扱い１
23	接骨院実習・物理療法	物理療法機器の適応と禁忌及び実際の取り扱い2
24	接骨院実習・診察技法	問診に必要な技法と態度
25	接骨院実習・診察技法	臨床における施術録（カルテ）の書き方
26	接骨院実習・診察技法	紹介状・お礼状の書き方・問診のシュミレーション
27	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際（ロールプレイ）1
28	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際（ロールプレイ）２
29	接骨院実習・診察技法	問診・視診・触診・理学検査の実際（ロールプレイ）3
30	まとめ	総復習

25305

科目コード	25305				区　分	コア科目		
授業科目名	スポーツアナリティクス実習 《通年》				担当者名	早田　剛、仙波　慎平		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
近年，様々な競技でデータの活用が進んでおり，スポーツアナリストが活躍するようになった。スポーツアナリティクスと呼ばれるデータ分析は統計学を背景とした手法が用いられ，スポーツ統計とも呼ばれており，データサイエンスとも密接なかかわりを持つ。この実習では，スポーツにおけるデータの測定・分析を実践的に学ぶ。

＜授業の到達目標＞
高度情報化社会はスポーツ界にも押し寄せており、特に近年のトップスポーツでは「スポーツも情報戦の時代」と言われている。情報をうまくつかうことは、アスリートのパフォーマンス向上のみならずトップスポーツのマネジメントにおいて必要不可欠である。本授業では、スポーツ界のさまざまなフィールドにおいて、情報の収集、分析、提供を効果的に行い、意思決定者を強力に支援できるエキスパートになるための基礎を学び、社会・職業生活に応用可能な知見の修得を目指す。

＜授業の方法＞
本授業では、アスリートとしての「指導を受ける側」、指導者としての「指導する側」双方の競技力向上への取り組みに資する、情報技術や映像技術、情報分析についての技術を戦略的に活用する方法について、実際のトップレベルの競技場面での活用事例などを交えながら学習し、受講生自身が自らの活動に活かせる能力を育成することを目指す。そのため、授業において課されるグループワークや課題への取り組み、プレゼンテーションを重要視する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学部のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）と関連付けられている。また、学内の認定資格（スポーツアナリスト）の取得に関わる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組態度40%。課題レポート点30%。実習課題の提出・評価点30%。

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	映像技術（1）	競技場面を撮影する際の基本知識・技術
3	映像技術（2）	映像撮影に必要とされる機器について
4	映像技術（3）	アプリ・タブレット端末等を用いた撮影技術
5	情報技術（1）	データアーカイブ
6	情報技術（2）	ネットワークを用いた即時フィードバック
7	情報技術（3）	特殊環境でのネットワーク活用
8	動作分析（1）	走動作に関する映像を撮影し，分析する。
9	動作分析（2）	跳躍動作に関する映像を撮影し，分析する。
10	動作分析（3）	投動作に関する映像を撮影し，分析する。
11	動作分析（4）	打動作に関する映像を撮影し，分析する。
12	動作分析（5）	シュート動作に関する映像を撮影し，分析する。
13	動作分析（6）	シュート動作に関する映像を撮影し，分析する。
14	ゲーム分析（1）	ゲーム分析のねらいと方法
15	ゲーム分析（2）	ベースボール型スポーツにおける実践①
16	ゲーム分析（3）	ベースボール型スポーツにおける実践②
17	ゲーム分析（4）	ベースボール型スポーツにおけるゲーム分析実践
18	ゲーム分析（5）	ネット型スポーツにおける実践①
19	ゲーム分析（6）	ネット型スポーツにおける実践②
20	ゲーム分析（7）	ネット型スポーツにおけるゲーム分析実践
21	ゲーム分析（8）	ゴール型スポーツにおける実践①

22	ゲーム分析（9）	ゴール型スポーツにおける実践②
23	ゲーム分析（１０）	ゴール型スポーツにおけるゲーム分析実践
24	ゲーム分析（１１）	武道におけるにおける実践①
25	ゲーム分析（１２）	武道における実践②
26	ゲーム分析（１３）	武道における試合分析
27	ゲーム分析（１４）	ダンス系スポーツにおける実践①
28	ゲーム分析（１５）	ダンス系スポーツにおける実践②
29	ゲーム分析（１６）	ダンス系スポーツにおける分析評価
30	ゲーム分析（１７）	まとめ

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	長谷　浩也		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。classroom上での意見も交流も実施する。それらの成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。課題管理などclassroomを使用し、展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、「現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力」の習得に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、レポート・課題の内容 70%、両方を総合し、評価する。

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4

23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	村上　尚徳			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。classroom上での意見も交流も実施する。それらの成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。課題管理などclassroomを使用し、展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、「現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力」の習得に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、レポート・課題の内容 70%、両方を総合し、評価する。

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4

23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	浅田　栄里子		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを身に付ける。　|２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）をオンラインを含め身に付ける。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等 30%、レポート・課題 30%、ゼミ論文 40%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5

24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	前田　一誠		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、「現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力」の習得に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文・レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4

23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	中西　紘士		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、事前に先行研究（論文等）を各自でWeb検索し、レポート（課題）作成したものを元にディスカッションをする。そして、その成果をGoogle classroom上に蓄積することによって、研究成果（PCでのレポート）へと集約させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：発表準備のレジュメ、プレゼン等（１時間程度）復習：発表内容の省察、修正（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマポリシー2（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。）と関連付けられている。次世代の学校に求められている課題に自身がどのように取り組んでいくのかを理論と実践の両面から迫っていける資質・能力を身につけることを目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文に関するレポート・課題の内容 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5

24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	高橋　直樹		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。また、Google Classroom等のデジタル技術も活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文作成に向けた各自の研究課題 70%

＜教科書＞
斎藤富由起・守谷賢二（2019年）
教育心理学の最前線
八千代出版
＜参考書＞
別途資料を配布する。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠの目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

		正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	研究レポート最終確認①	各自の研究成果の発表
28	研究レポート最終確認②	各自の研究成果の発表
29	研究レポート最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	伊住　継行		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞

１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞

課題や資料配布はGoogleクラスルームで行う。また，適宜，Googleドキュメントやスプレッドシートを活用し，意見交流を行う，そのつもりでノートパソコンなどのデバイスを準備する。授業では，ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー２（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。）及びディプロマポリシー７（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。）に関連付けられている。現代の教育課題の解決に向けて多様なアプローチを考え、批判的に考える能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な教育実践力の育成をめざす。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）　30%、ゼミ論文　40%

＜教科書＞

森口佑介　(2019/11/13)
自分をコントロールする力 非認知スキルの心理学（講談社現代新書）
講談社
山田剛史・林創(2011/5/30)
大学生のためのリサーチリテラシー入門: 研究のための８つの力
ミネルヴァ書房

＜参考書＞

特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。(論文の書き方や文献検索の方法など)
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。

15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導①　2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導①　3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	細井　健		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得する。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指します。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを身につける。２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につける。

＜授業の方法＞
(1)講義（教員による解説と問いの提示） (2)グループワーク（学習内容に関する教え合い） (3)ディスカッション（模擬授業を対象とした問いに対する回答） (4)省察活動（まとめと発表）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進めます。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめます。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定します。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシー2 「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。」に関連しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等 30%、レポート・課題の内容 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4

23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5
24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	井上　聡			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業の目的は、将来、日本の英語教育を担う若手教員を養成することです。ゼミ授業は指導力と英語力の養成を中心に行います。英語科教育の専門書を用い、プレゼンテーションを通して、英語教員としての見通しを強化し、難度の高い英語読解教材を用い、構文解析力の強化を図ります。教員・学生との協議を通して、問題発見・解決を図り、研究の方向性を定めます。さらに、学内の教育改善に関する活動にも参画していただく予定です。

＜授業の到達目標＞
１．英語科教育に対して自らの方向性を定めることができる。２．ゼミ生とともに自律的に英語学習に取り組むことができる。３．研究テーマを定め、論理的に言語化することができる。

＜授業の方法＞
１．プレゼンテーション　２．ディスカッション　３．勉強会※授業中のデータの共有はすべてGoogle Classroomで行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：プレゼンテーション資料作成またはレポート作成（2時間程度）※課題の管理はすべてGoogle Classroomで行います。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のDP③（豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力を身に付けている。）と関連付けられています。キャリア形成の一環として、自身、大学、社会の観点から問題発見・解決に取り組み、言語化を通して、他者を説得する力を身につけましょう。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
グループワークへの貢献度 30%、プレゼンテーション 40%、レポート課題 30%

＜教科書＞
鳥飼玖美子他（2021年2月）
よくわかる英語教育学
ミネルヴァ書房
＜参考書＞
竹岡広信（2018年10月）
英文読解の原則125
駿台文庫
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的・内容・授業方法・評価の仕方等
2	先行研究のレビュー(1)	学ぶ立場から教える立場へコミュニケーション能力とは何か理論と実践グローバル化から新型コロナ禍へ
3	先行研究のレビュー(2)	英語教育と異文化コミュニケーション母語と第二言語、ESLとEFL言語の生得性と学習幼児はどうやって言語を学ぶのか
4	先行研究のレビュー(3)	言語と思考第二言語習得に関する研究バイリンガリズム研究第二言語習得の年齢
5	先行研究のレビュー(4)	動機付け学習方略と自律性情動自己効力感
6	先行研究のレビュー(5)	文法訳読法直接教授法オーディオリンガルメソッドナチュラルアプローチ
7	先行研究のレビュー(6)	コミュニカティブアプローチ内容重視アプローチ協同学習言語教育における通訳翻訳の役割
8	先行研究のレビュー(7)	４技能とは何か４技能の総合的な指導評価、測定、テスト作成CEFR(1) 複文化主義
9	先行研究のレビュー(8)	CEFR(1) 2001年版CEFR(2) 増補版CEFR(3) 能力記述日本の英語教育におけるCEFRの受容
10	先行研究のレビュー(9)	日本の英語教育がCEFRから学ぶこと言語と権力、アイデンティティ英語と社会・文化英語帝国主義
11	先行研究のレビュー(10)	コミュニケーションの定義行為としてのことば（ことばとコンテクスト）WTC（Willingness to communicate）非言語コミュニケーション
12	先行研究のレビュー(11)	教室内コミュニケーション幕末ー明治ー大正ー昭和初期戦時中から戦後の英語教育ブームへ学校英語教育改革への動き
13	先行研究のレビュー(12)	政治と経済主義の教育改革メディア英語講座と英語教育学習指導要領とは何か学習

		指導要領（英語　小学校）
14	先行研究のレビュー(13)	学習指導要領と学修評価学習指導要領（英語　中学校）学習指導要領（英語　高等学校）検定教科書　小学校
15	先行研究のレビュー(14)	検定教科書　中学校検定教科書　高等学校小学校教員養成課程（コアカリキュラム）英語教員免許に関連する制度
16	先行研究のレビュー(15)	中学校・高等学校コアカリキュラム(1)中学校・高等学校コアカリキュラム(2)大学入試改革（英語民間試験導入）大学における英語教育
17	先行研究のレビュー(16)	小中接続中高接続高大接続国語教育との連携
18	先行研究のレビュー(17)	教室内での使用言語「形式」への焦点化(1)「形式」への焦点化(2)オンライン授業
19	先行研究のレビュー(18)	リフレクションフィードバック学習者の個人差教員の信条、学習者の信条
20	先行研究のレビュー(19)	AIと英語教育「読む力」と「コミュニケーション力」主体性日本人に適した英語教育の創造
21	先行研究のレビュー(20)	言語にかかわる研究(1)言語にかかわる研究(2)認知にかかわる研究意味にかかわる研究
22	先行研究のレビュー(21)	文化に関わる研究コミュニケーションに関わる研究心理に関わる研究教育に関わる研究
23	先行研究のレビュー(22)	哲学に関わる研究音声に関わる研究テストに関わる研究
24	研究指導(1)	テーマ・研究課題の選定(1)
25	研究指導(2)	テーマ・研究課題の選定(2)
26	研究指導(3)	テーマ・研究課題の選定(3)
27	研究指導(4)	テーマ・研究課題の選定(4)
28	研究指導(5)	テーマ・研究課題の選定(5)
29	研究指導(6)	テーマ・研究課題の選定(6)
30	研究のまとめ	研究成果（途中経過）の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	松尾　健太郎		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、「現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力」の習得に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）70%、両方を総合し、評価する。

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導①	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導②	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導②　2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導②　3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導②　4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導②　5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5

24	研究指導②　6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導②　7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導②　8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導②　9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導②　10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導②　11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
「AI（人工知能）」、「e-Learning」、「電子教科書」をキーワードとして、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、「現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力」の習得に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、レポート・課題の内容と到達度（知識・理解）　70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎 1	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎 2	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎 3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表（第１回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第２回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第３回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第４回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第５回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第６回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）／研究の前提となるスキルを身につける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導① 1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導① 2	研究テーマ、課題をしぼる。
18	研究指導① 3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導② 1	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション
20	研究指導② 2	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 2
21	研究指導② 3	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 3
22	研究指導② 4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 4
23	研究指導② 5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 5

24	研究指導② 6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 6
25	研究指導② 7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 7
26	研究指導② 8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 8
27	研究指導② 9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 9
28	研究指導② 10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 10
29	研究指導② 11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション 11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	森下　裕三		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
社会人に求められる基礎的知識を習得する。リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、課題作成およびディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果へと集約させたものを発表し、相互評価とフィードバックをおこなう。授業資料の配布には Google Classroom を活用し、課題提出には Google docs などを利用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー2（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている）、およびディプロマポリシー7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている）と関連付けられている。研究活動を通じて、問題意識の形成や問題解決能力といった社会人として求められる能力の育成を目標としている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 10%、課題提出 30%、研究発表 30%、レポート提出 30%

＜教科書＞
特に指定しない

＜参考書＞
後藤芳文・伊藤史織・登本洋子（2014年11月10日）
学びの技：14歳からの探求・論文・プレゼンテーション
玉川大学出版部
酒井聡樹（2017年7月15日）
これからレポート・卒論を書く若者のために　第２版
共立出版
山口裕之（2013年7月26日）コピペと言われないレポートの書き方教室
新曜社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の授業方法・評価などの説明
2	目標を設定する	自分の興味があるテーマを設定する
3	周辺知識の見つけ方	多様な資料にパラパラとたくさん目を通す
4	関心領域の見つけ方	自分がどんなことに興味をもっているのかを知る
5	論題（問い）の作り方	自分の興味・関心から、オリジナリティの高い問いを見つける
6	図書館の本の探し方	いろいろな図書館から本を探す
7	雑誌論文の探し方	雑誌論文の利点を知る
8	統計資料の探し方	統計によって、物事の本当の姿が見えてくる
9	フィールドワークやその他の調査方法	テーマを見直すための調査
10	アンケートの作り方・アンケートの集計	信頼度を高めるアンケート調査と表計算ソフトの使い方
11	表・グラフの書き方と図式化	統計結果や情報を分かりやすく見栄えよく示すために
12	論文の構成と下準備	論文のアウトラインを作成する
13	基本知識と問題の背景	専門家ではない読者を想定する
14	反論を踏まえた根拠	反対の立場の意見を踏まえて、読み手や聞き手を説得する
15	前期のまとめ	前期で学んだ内容の振り返りとまとめ

16	発表資料の作成手順	箇条書きからスタートさせる
17	効果的なスライド作成と説明の順序	見やすさ（読みやすさ）、わかりやすさ、美しさを意識したスライド作成
18	発表の聞き方と効果的な質問の仕方	クローズド・クエスチョンとオープン・クエスチョン
19	レポート、論文、感想文、エッセイ	自分の経験や体験を踏まえた意見を書いてはいけない
20	文章の書き方	論文のための書き言葉を知る
21	章・節・段落の分け方	話のまとまりを階層構造であらわす
22	論文の書き方①：表紙・目次・序論	良い論文の体裁を知る
23	論文の構成②：本論・結論	自分の主張したい内容を読み手に理解してもらうために
24	論文の構成③：参考文献の書き方	引用した資料と参考にした資料の一覧を作る
25	研究論文の評価方法	評価シートを使った相互評価の方法とその意義を知る
26	研究発表①	これまでの成果を踏まえて研究内容を発表する
27	相互評価①	研究発表を聞いて相互評価をする
28	研究発表②	これまでの成果を踏まえて研究内容を発表する
29	研究発表③	研究発表を聞いて相互評価をする
30	研究のまとめ	研究内容の相互評価とフィードバック

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	赤松　久美子		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅠ（基礎）では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身に付ける。

＜授業の方法＞
ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
キャリアを見据えて、テーマを決め、興味関心のある文献をリサーチし、互いにディスカッションすることで、リサーチ・リテラシーを身に付ける。教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」に関連する科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）30%、ゼミ論文執筆に向けての課題レポート40%・ゼミ論文30%

＜教科書＞
桑田てるみ他（2015）
「学生のレポート・論文作成トレーニング改訂版」
実教出版
日本ポジティブ心理学協会（2016.12）
折れない心のつくり方～はじめてのレジリエンスワークブック～
すばる舎

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠ（基礎）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究の基礎1	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（論文の書き方や文献検索の方法など）
3	研究の基礎２	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献の読み方など）
4	研究の基礎3	専門領域に合わせた研究の進め方について理解する。（文献のまとめ方など）
5	研究の基礎固め 1	先行研究のレビュー・発表（第１回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
6	研究の基礎固め 2	先行研究のレビュー・発表（第2回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
7	研究の基礎固め 3	先行研究のレビュー・発表（第3回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
8	研究の基礎固め 4	先行研究のレビュー・発表（第4回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
9	研究の基礎固め 5	先行研究のレビュー・発表（第5回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
10	研究の基礎固め 6	先行研究のレビュー・発表（第6回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
11	研究の基礎固め 7	先行研究のレビュー・発表（第7回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
12	研究の基礎固め 8	先行研究のレビュー・発表（第8回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
13	研究の基礎固め 9	先行研究のレビュー・発表（第9回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
14	研究の基礎固め 10	先行研究のレビュー・発表（第10回目）/研究の前提となるスキルを身に付ける。
15	前期のまとめ	前期の授業内容をまとめ、理解を深める。
16	研究指導1	研究テーマ、課題を考える。
17	研究指導2	研究テーマ、課題をしぼる。

18	研究指導3	研究テーマ、課題を決める。
19	研究指導4	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション１
20	研究指導5	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション2
21	研究指導6	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション3
22	研究指導7	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション4
23	研究指導8	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション5
24	研究指導9	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション6
25	研究指導10	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション7
26	研究指導11	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション8
27	研究指導12	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション9
28	研究指導13	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション10
29	研究指導14	研究テーマに沿った調査・課題制作、ディスカッション11
30	研究のまとめ	研究成果の発表と総括

36304

科目コード	36304				区　分	コア科目		
授業科目名	体力学実習 《通年》				担当者名	吉岡　利貢、浦部　隼希、石村　和博、梶谷　亮輔、品田　直宏、髙山　慎、田中　耕作		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本実習は、各種体力・形態の測定方法を実際に体験しながら学ぶ科目である。また、測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝える方法、測定結果をトレーニングに活かす方法を学ぶことを目的とする。

＜授業の到達目標＞
1）各種体力・形態を測定することができる2）測定結果を分析・評価し、分かりやすくコーチ・選手に伝えることができる3）測定結果をトレーニングに活かすことができる

＜授業の方法＞
実習

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
オンデマンド教材による予習をした上で実習に臨み、実習後には所定のレポートを提出すること

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている」および「「体育・スポーツに携わる指導者に求められる、豊かな人間性、幅広い教養に根差した公共的使命感や倫理観、協調できる社会的スキルを身に付けている」に対応した科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業レポート70%、総合レポート30%

＜教科書＞
＜参考書＞
西薗 秀嗣（2004年4月）
スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法
大修館書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	体力学とは
2	体力測定の歴史（1）ラボテスト	実験室における各種体力測定の歴史を学ぶ
3	体力測定の歴史（2）フィールドテスト	フィールドにおける各種体力測定の歴史を学ぶ
4	形態の計測法	マルチン式人体計測法、ボディラインスキャナによる計測法
5	形態の評価	計測結果の理解と効果的なフィードバックの方法
6	体脂肪率・筋厚の測定法	皮脂厚法、空気置換法、超音波法による測定
7	体脂肪率・筋厚の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
8	最大挙上重量の測定法	1RMの測定法
9	最大挙上重量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
10	等速性最大筋力の測定法	股関節、膝関節および足関節の測定
11	等速性最大筋力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
12	ペダリングパワーの測定法	ハイパワー自転車エルゴメータによる下肢パワーの測定
13	ペダリングパワーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
14	各種競技動作の分析法	3次元動作解析システムを用いた各種競技動作の分析
15	各種競技動作の評価	分析結果の理解と効果的なフィードバックの方法
16	最大酸素摂取量の測定法（1）	トレッドミルを用いた最大酸素摂取量の測定
17	最大酸素摂取量の測定法（2）	自転車エルゴメータを用いた最大酸素摂取量の測定
18	最大酸素摂取量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
19	ランニングエコノミーの測定法	最大下強度および超最大強度のランニングエコノミーの測定
20	ランニングエコノミーの評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
21	無酸素性作業閾値の測定法	呼気ガスおよび乳酸を用いた無酸素性作業閾値の測定
22	無酸素性作業閾値の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
23	心拍数・心拍出量の測定法	心拍数およびインピーダンス法を用いた心拍出量の測定
24	心拍数・心拍出量の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法

25	跳躍能力の測定法	マットスイッチシステムを用いた各種跳躍能力の測定
26	跳躍能力の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
27	疾走速度の測定法	レーザードップラー方式距離計測装置を用いた疾走速度の測定
28	疾走速度の評価	測定結果の理解と効果的なフィードバックの方法
29	フィードバックプレゼンテーション（1）	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
30	今後の課題と構想	今後の課題を発見し、実現するための構想を練る

34404

科目コード	34404				区　分	コア科目		
授業科目名	子どもと創る運動・遊びⅡ　《通年》				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「子どもと創る運動・遊びⅡ」は、本学卒業選択科目ではあり、財団法人こども教育支援財団の認定資格「子育て支援プロジェクトリーダー」と「乳幼児ケアヘルパー(基礎)」取得における必修科目である。本授業では、子どもや子どもの保護者等を対象とした事業を授業の中で企画し、子どもと地域の子育て家庭等を招く。実際に講座や行事等の運営を通して、実践力を身につけることを目的とする。

＜授業の到達目標＞

講座や行事等の実践を通して、子育て支援の在り方を理解し、企画・運営力を養成する。そして子ども理解を深め、発達に応じた援助ができるようになる。

＜授業の方法＞

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等)を取り入れ、グループ演習と実践活動により授業を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で、必要な資料や教材作りに取り組む等、準備学習(60分程度)を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

こども発達学科のディプロマポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、グローバルな保育者養成育成を目指す」ための科目である。そして、コミュニケーション能力を取得しましょう。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 30%、（積極性・協調性・相互促進性など）実践活動の実践力 30%、レポート課題 40%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

特に指定なし

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標と注意事項、成績評価法、実践活動内容について説明する
2	実践内容についてのグループ討議	IPUわくわくスポーツフェスタ、スタンプラリー、学園祭遊びの広場等の実践内容を決定する
3	企画案の作成	実施グループ別の活動
4	遊び指導法	種々の遊び指導法の理解と安全管理
5	グループ別事業の企画立案1	事業内容とスタッフが担う役割の理解
6	グループ別事業の企画立案2	事業企画の立案
7	事業企画の準備	事業企画の準備と確認
8	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(1)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認①（事業運営に必要な役割とその具体的な内容の理解）
9	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(2)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認②（事業運営における確認ポイントの理解）
10	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(3)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認③（未就園児を対象とした安全管理）
11	事業運営の実践１	運営1（役割遂行における連携方法）
12	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(4)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認④（効果的な企画内容のプレゼンテーション方法）
13	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(5)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認⑤（事業運営における最終確認ポイントの理解）
14	事業運営の実践2	運営2（未就園児の発達に適した遊びの理解）
15	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(6)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認⑥（親子を対象とした集団遊びの指導法）
16	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(7)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認⑦（事業における遊び指導のふりかえりと課題の明確化）
17	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(8)	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】準備と確認⑧（保護者との関わり方）
18	事業運営の実践3	運営3（未就園児を対象とした言葉遊び）
19	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(9)	子どもを対象とした事業の企画・運営の実際
20	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(10)	親子を対象とした事業の注意点

21	事業運営の実践4	【事業Ⅰ】の実践
22	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(11)	効果的な広報と参加者募集の方法
23	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(12)	雨天準備等の配慮事項について（屋外事業の注意点と雨天時のプログラムの立案方法）
24	【事業Ⅰ】【事業Ⅱ】の準備(13)	【事業Ⅱ】準備と確認（未就園児を対象とした魅力的な製作遊び）
25	事業運営の実践5	【事業Ⅱ】の実践
26	事業の評価(1)	事業評価の観点（年間計画と事業内容）
27	事業の評価(2)	スタッフとしての役割遂行の内容と評価
28	事業の評価(3)	事業参加者（地域の親子）の意見の分析
29	事業評価と事業計画	事業評価を反映させた事業計画の立案方法
30	全体総括	実践活動およびレポート内容について全体の振り返り

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「ゼミナールⅠ(基礎)」は、本学卒業必修科目である。「子どもの心に寄り添う保育」について考えることのできる保育者の育成をねらいとしていく。そのためにはまず、自然やもの、人の面白さや不思議さ、美しさなどに感動する心を育むことをねらいとする。子ども達と製作を行い、よりよい造形活動の在り方とはどのようなものかを学んでほしい。子どもが瞳を輝かせて取り組めるような造形活動やその活動の具体的な援助方法を考えるという作業を通して、保育士や幼稚園教諭に必要な「心に寄り添う」表現や技術の養成をしたいと考えている。

＜授業の到達目標＞

造形表現を中心とした保育・幼児教育に関する専門知識と技術を身につけている。

＜授業の方法＞

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク等)を取り入れ、作品制作、美術館鑑賞、子どもの行事企画運営、学会参加等の実践活動により授業を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で必要な資料や作品作りに取り組むなど、準備学習(60分程度)を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

こども発達学科のディプロマポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、グローバルな保育者養成育成を目指す」ための科目である。⑦(主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネシ?メント能力と生涯学習力を身に付けている。)と⑧(広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。)とに関連付けられています。豊かなコミュニケー

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50%　（積極性・協調性・相互促進性など）課題(作品・レポート)、発表等 50%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

村田夕紀
楽しい"造形"がいっぱい　2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ
ひかりのくに
村田夕紀
まずは絵あそびから始めよう！3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ
ひかりのくに
村田夕紀低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい！0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ
ひかりのくに

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標と注意事項、成績評価法、実践活動について説明する。
2	こども発達学科・ゼミナール理解	3年生一年間の履修確認を行い、目標設定をする。
3	こども発達学科・ゼミナール理解	クラス内の相互理解を図る。
4	造形表現の教材研究(1)	地域の美術館について調べる。
5	造形表現の教材研究(2)	美術館鑑賞①
6	造形表現の教材研究(3)	作品を制作する。
7	造形表現の教材研究(4)	作品を制作する。
8	造形表現の教材研究(5)	作品を制作する。
9	造形表現の教材研究(6)	作品を制作する。
10	造形表現の教材研究(7)	作品提出と鑑賞会
11	プレゼンテーションとは①	役割りとその具体的な内容の確認
12	プレゼンテーション作成①	発表内容のプレゼンテーション作成
13	プレゼンテーションに挑戦しよう①	プレ発表
14	ゼミナール活動報告会(1)	報告会に出席し、発表する。

15	前期総括	前期の振返りと夏季休暇、保育・教育実習について
16	後期の目標設定	後期の履修確認を行い、目標設定を行う。
17	造形表現の教材研究(8)	美術館鑑賞②
18	造形表現の教材研究(9)	作品を制作する。
19	造形表現の教材研究(10)	作品を制作する。
20	造形表現の教材研究(11)	作品を製作する。
21	造形表現の教材研究(12)	作品を制作する。
22	企画案の作成	実践内容について討議
23	事業企画の準備	行事の準備
24	事業運営の実践	子どもを対象とした事業の企画・運営の実際
25	造形表現の教材研究(13)	作品提出と鑑賞会
26	プレゼンテーションとは②	役割りとその具体的な内容の確認
27	プレゼンテーション作成②	発表内容のプレゼンテーション作成
28	プレゼンテーションに挑戦しよう②	プレ発表
29	ゼミナール活動報告会(2)	報告会に出席し、発表する。
30	全体総括	3年生の一年間を振返り、残り一年間の大学生活を具体的に計画する。

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	酒井　健太朗		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「哲学」と聞いてどのようなことを思い浮かべるだろうか？「難しい」？あるいは「役に立ちそうもない」？哲学についてしばしば提出されるこの２つの見解（もちろんこれらだけには限らないのだが）は、哲学の持つ特質に依拠している。すなわち、哲学はあらゆる学問の中でも一二を争うほど抽象的な思考能力を必要とするのである。この抽象性のゆえに、たしかに哲学の議論はしばしば「難解」であり、また「役に立ちそうもない」という印象を持たれるのであろう。しかし、哲学が抽象的な思考能力を必要とすることは、必ずしも、それの対象とするトピック

＜授業の到達目標＞
（１）文献の内容を精確に読解できる。（２）他者の意見を十全に理解することができる。（３）自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。

＜授業の方法＞
文献の講読を行う。毎回１人の担当者を決めレジュメを切ってきてもらう。そのレジュメに基づき議論を行い、文献の内容についての理解を深めることを通じて哲学的思考力を養う。なお、使用する文献は参加者の興味関心に応じて初回の授業時に決定する。課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
事前学習：担当者がレジュメを切るための準備を行うのはもちろんであるが、担当者以外も文献を熟読し内容を理解したうえで質問等を考えておく。（1-2時間）事後学習：当日の議論の内容、その議論の結果さらに生じた疑問点などについて各自でまとめておく。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目はこども発達学科ディプロマポリシー⑦（主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネジメント能力と生涯学習力を身に付けている）と⑧（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に関連付けられています。テクストを購読しその内容について議論を行うことは、この両者に非常に深く関わっています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	哲学という学問についての解説、講読文献・担当者の決定
2	文献講読1	宇宙の始まりの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
3	文献講読2	宇宙の始まりの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献講読3	水槽の中の脳の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
5	文献講読4	水槽の中の脳の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読5	意識の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
7	文献講読6	意識の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	レポートの書き方講座（基礎）	成績評価に必要なレポートの執筆方法の基礎的な部分の解説
9	文献講読7	日常の中の推論の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
10	文献講読8	日常の中の推論の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読9	他者の痛みの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
12	文献講読10	他者の痛みの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読11	AIの思考の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
14	文献講読12	AIの思考の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
15	ゼミ前半のまとめ	ゼミ前半部の文献講読結果のまとめを教員を中心に参加者全員で行う
16	文献講読13	意味の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
17	文献講読14	意味の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
18	文献講読15	デザイナーベビーの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
19	文献講読16	デザイナーベビーの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
20	文献講読17	ジェンダーの問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
21	文献講読18	ジェンダーの問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う

22	文献講読19	道徳と宗教の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
23	文献講読20	道徳と宗教の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
24	レポートの書き方講座（応用）	成績評価に必要なレポートの執筆方法の応用的な部分の解説
25	文献講読21	道徳と直観の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
26	文献講読22	道徳と直観の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
27	文献講読23	芸術の基準の問題について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
28	文献講読24	芸術の基準の問題について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
29	文献講読25	これまで行ってきた文献購読について獲得した知見を、担当者ごとに発表する
30	ゼミ全体のまとめ	１年間のゼミの文献講読結果のまとめを教員を中心に参加者全員で行う

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	本庄　慶樹			
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業（ゼミナール）では、将来様々の形で子どもとの教育と発育に関わるときに子どもの自主的な発問を促し、問題解決に導く能力を育成することを目的とする。特にICTの利活用能力は不可欠であり、そのスキルを活かし方を探求していく。ICTを理活用して子どもに問題解決能力を養育する方法を研究する。

＜授業の到達目標＞
子どもの自主的な探究心を育み科学的な解答を持ちながら導いていく。子どもに「なぜ」の疑問を持たせ考えさせ正しい推論と正しい解答、問題解決能力を持つ子どもを育てることに必要なことを探求できる能力を身につけていく。

＜授業の方法＞
・情報の収集から現代の状況把握と未来の予想を行う。・先行研究から知見を深める。・ICTを利活用した実践的な制作。（音楽・映像メディア、CG、DTP、WEB、GAME、etc）・ICTの利活用スキルの更なる習得と指導する能力を身に付ける。・子どもへの実践活動

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
30コマ（１コマ90分）は、課題の整理と成果発表の場であり、それ以外に課題発表準備や成果物の制作時間が必要である。個人差はあるが、120分相当の取り組みを要する。また、これ以外にフィールドワークとして実践活動（幼稚園、保育園等へd出向いての活動）の準備、実践、結果総括の時間が必要である。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための、問題解決力、論理的思考力、情報リテラシー・数量的スキル等の力を身に付けている。（DP5）の集大成といえるが、身に付けた上で、広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、子どもの教育へのICT利活用能力を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。(DP8)

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
個人レポート課題 30%　グループワークへの貢献度 30%、フィールドワークへの貢献度 30%、

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	研究目的・目標、研究方法
2	研究方法１	文献・レビュー
3	研究方法２	文献・レビュー
4	研究方法３	フィールドワーク
5	研究方法４	データ処理
6	研究基礎１	
7	研究基礎２	
8	研究基礎３	
9	研究基礎４	
10	研究基礎５	
11	研究基礎６	
12	研究基礎７	
13	前期まとめ	
14	中間発表	
15	中間発表振り返り	中間発表についてのブラッシュアップと、今後について
16	研究目的	課題を見つけ出し研究の目的を考える
17	研究テーマ	各自のテーマ発表と、グループワーク
18	研究方法ディスカッション	
19	先行研究調査	
20	研究活動１	
21	研究活動２	
22	研究活動３	
23	研究活動４	
24	研究活動５	

25	研究活動６	
26	研究活動７	
27	研究成果まとめ１	発表シナリオ
28	研究成果まとめ１	データ処理
29	研究成果まとめ１	レポート制作
30	研究成果発表	発表と口頭試問

25206

科目コード	25206				区　分	コア科目		
授業科目名	スポーツ栄養学実習 《通年》				担当者名	保科　圭汰		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ栄養学の知識を基に自身の食生活を適切に管理できるようになるための実践方法を学ぶ。また、脱水状態の把握や血糖値の変化など生理学的応答と栄養補給の関係を理解するとともに食事調査の手法を理解し栄養教育・栄養指導のスキルを習得する。

＜授業の到達目標＞
本講義では、スポーツ現場において用いられる食事調査やコンディション把握に関する測定を実践し、科学的根拠に基づいた栄養サポートについて知る。また、献立の立案や栄養指導について学び、自身の競技に向けたコンディショニングのみならず、指導者としての知識・スキルを身につけることを目標とする。

＜授業の方法＞
実習として授業テーマに基づいた測定やグループワーク等を行う。また、パソコンを用いて栄養指導媒体の作成やプレゼンテーションを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習として授業テーマに関連したキーワードについてインターネットや参考書等で調べ、理解を深めること。不明な点があれば授業時間に提示する参考図書・参考資料を用いて調べること。　（2時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」に関連した科目であり、身体の構造や消化吸収を学び、栄養学をスポーツ科学の観点から理解する。また、自身の食生活を理解するとともに、栄養指導に必要なスキルを習得する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲 30%、課題提出 30%、最終レポート 40%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	スポーツ栄養サポートの概念	スポーツ栄養学の概念、スポーツ栄養マネジメントとは
2	食事調査、食事記録の方法①	食事調査の意義、方法
3	食事調査、食事記録の方法②	食事調査の分析
4	エネルギー消費量の算定①	要因加算法を用いたエネルギー消費量の算定
5	エネルギー消費量の算定②	各種エネルギー消費量の算定方法の原理、加速度計法によるエネルギー消費量の算定
6	身体組成の計測と体重管理①	身体組成の原理、インピーダンス法による測定
7	身体組成の計測と体重管理②	皮下脂肪厚法による測定、体重管理の計画
8	生化学データと食事①	尿検査データの解釈、脱水状態の把握
9	生化学データと食事②	貧血に関わる指標と食事
10	生化学データと食事③	血糖値の変化と補食の関係
11	献立の立案と栄養計算①	献立の計画方法
12	献立の立案と栄養計算②	競技別の献立作成
13	献立の立案と栄養計算③	競技別の献立作成（発表、見直し）
14	献立の立案と栄養計算④	生活環境別の献立作成
15	献立の立案と栄養計算⑤	生活環境別の献立作成（発表、見直し）
16	栄養教育の方法	栄養教育と行動科学
17	栄養指導の計画①	行動計画の考え方
18	栄養指導の計画②	集団教育と個人教育
19	ジュニアアスリートへの食育①	ジュニアアスリートに対する食育の計画立案
20	ジュニアアスリートへの食育②	栄養指導媒体の作成
21	ジュニアアスリートへの食育③	ジュニアアスリートを対象とした食育の実践
22	期分けに応じた栄養指導①	期分けに応じた栄養指導の計画立案
23	期分けに応じた栄養指導②	栄養指導媒体の作成
24	期分けに応じた栄養指導③	期分けに応じた栄養指導の実践

25	目的別の栄養指導①	目的別の栄養指導の計画立案
26	目的別の栄養指導②	栄養指導媒体の作成
27	目的別の栄養指導③	目的別の栄養指導の実践
28	補食の立案	運動後に適した補食の立案
29	補食の作成	立案した補食の作成
30	まとめ	本授業のまとめ

53062

科目コード	53062				区　分	キャリア形成		
授業科目名	特別演習Ⅲ［社会調査士］《通年》				担当者名	小堀　浩志、國枝　陽輔		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

「経営・マネジメント」「商学・マーケティング」「会社に関する法的問題」「現代経済」等の各領域について，担当教員の専門領域や学生が関心のある現代社会のトピックについて取り扱う。調査の企画から報告書の作成まで、社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習することを目的とする。調査実施のすべての段階を経験し、社会調査を実践の場で実施できる人材を育成することを目標とする。現状の意識と行動と事実との関係性を調査ベースに追求していく。先行研究調査、文献調査を踏まえRQと仮説を明確にし、質問紙とインタビュー調査

＜授業の到達目標＞

「社会調査士」の資格を取得するための必須科目（G科目）である。「社会調査法」「プロジェクト研究（社会調査系）」「マーケティングリサーチ」の科目を単位取得済み、あるいは履修中であること。「情報分析論」「統計学」を履修すること。調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程をひととおり実習を通じて体験的に学習する授業である。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成する。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を行い問題設定の考え方，問題の解決方策，結果発表等のスキルを身につける。

＜授業の方法＞

自分のノートPCを授業【PC演習時】に持ってこられること、MS-Excelが使用できることが履修条件である。学内外でインタビュー調査も実施する。これによって、調査企画・個人情報の管理・調査倫理・調査票の作成・集計・コーディング・エラーチェック・統計的分析・報告書の作成といった社会調査全般の技術を習得し、併せて調査に臨む姿勢を学ぶ。既存文献調査を含めた調査課題の理解、ネット情報検索、論点の設定、調査企画書の作成、質問紙調査、インタビュー調査の実施、調査データの整理、傾向の把握、統計的推定、統計的検定作業の実施、報告書作成と進めていく。前期はフィールドワークを中心とした観察をベースに質的な研究手法による分析、後期はアンケート調査を主体に量的な企業活動に対する課題を抽出し提案を行う量的な研究をチームで行う。企業やフィールドへ出かけていき、ヒアリング、質的・量的調査・分析を行いながら、課題解決の提案、実際の解決活動を行う。キックオフミーティング、中間、最終のプレゼンテーションを実施していく。classroomを活用しながらチーム内における収集データ、分析データの情報共有、プレゼンデータの共同作成を行っていく。演習時にはPCの持ち込みが必須である。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

毎回、次週の演習範囲を明示する。授業で積極的に発言・ディスカッションできるように次週のテーマに関わる情報収集、準備学習をすること（毎週最低でも1時間の予習が必要）。また、演習の度にまとめ・報告を提出する。次週の演習までに提出することが必要である（毎週最低でも1時間の復習時間が必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

演習を通じて、社会や企業活動、経済活動に必要な情報を収集し、課題解決のため意見を交わし提案するコミュニケーション能力を身に付ける。　同時に現実の課題に対し、経営活動での知識や情報をもとに論理的・数量的に分析する力、戦略的に問題解決に向けた意思決定をする力を身に付ける。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業への積極的な取り組み:30%、調査報告:20%、レポート:50%　6回以上の欠席は評価対象外とする。提出課題は、classroomへの提出が必要。これは、演習内容の理解と進捗を確認するものである。理解ミスや不足点を各自にclassroom上でコメントを返す。また、次週の演習冒頭で宿題・進捗に対するコメントをフィードバックし、理解度と調査内容の完成度を高めていく。

＜教科書＞

＜参考書＞

金井雅之・渡邉大輔・小林盾(2012)
『社会調査の応用―量的調査編:社会調査士E・G科目対応』
弘文堂
大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編著(2013)
『新・社会調査へのアプローチ----論理方法----』
ミネルヴァ書房

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の内容、進め方、成績基準、諸注意
2	社会調査とは、	調査の倫理、種類、調査事例、質的調査とは何かを理解する。
3	調査事例、質的調査の紹介	フィールドノート、参与観察、インタビュー

4	方法論のエッセンス(フィールドワークについて)	現象学的観察、観察から概念化、理論・推論のパターン、論理的に考える方法論、仮説創造、アブダクションについて
5	〔グループ作業〕グループ討議およびテーマ設定	フィールドワークの各段階説明（初期・中期・後期）データ収集におけるフィールドノーツの書き方
6	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	グループ作業を行う。町に出て、駅近辺あるいはショッピングモールで観察
7	〔グループ作業〕フィールドワーク演習	フィールドノーツを作成（データ収集）、出来事が起こっている最中のメモを取っていく
8	〔グループ作業〕フィールドワーク	暗黙知獲得の方法論、創造のプロセス　第２ステップ（仮説の一般化）、コーディング作業
9	〔グループ作業〕フィールドワーク	コーディング作業、カテゴリー化、GTAの演習
10	〔グループ作業〕フィールドワークについて（１）	グループテーマで研究
11	〔グループ作業〕フィールドワークについて（２）	グループテーマで研究、ディスカッション
12	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（１）	グランデッド・セオリー・アプローチ方法論の演習を実施
13	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（２）	シナリオロジックの明示、メタファ
14	〔グループ作業〕シナリオシンキングについて（３）	比喩（メタファー）、シナリオ作り（４つの世界の想定）
15	前期のまとめ	発表会
16	観察企業参加挨拶（目的理解期間）	会社紹介
17	ワークショップ（目的理解期間）	イノベーションを起こそう！
18	テーマ紹介、調査テーマの決定、スケジュールの組み方	仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
19	情報収集（グループワーク）	グループで調査テーマを決める、問題（群）を決める、テーマに沿って必要な情報収集
20	調査企画書の作成（１）（グループワーク）	調査テーマ・仮説構成について、量的調査の方法、理論仮説（概念化）と作業仮説
21	調査企画書の作成（２）（グループワーク）	情報収集結果に基づきワーディング、選択肢作成、ヒアリング項目の洗い出し。
22	調査の実施（１）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
23	調査の実施（２）（グループワーク）	質問紙調査、ヒアリング調査、観察調査
24	調査データの整理（グループワーク）	単純集計表・クロス集計確認、平均、分散、分位数、標準偏差、調査結果の大まかな傾向の把握
25	調査全体の分析（１）（グループワーク）	発表の方向性確認、不足情報の収集
26	調査全体の分析（２）（グループワーク）	中間発表資料の作成
27	中間発表（最終プレゼン準備）	全体討議、意見交換、不足情報の確認
28	最終発表会に向けた修正、追加情報収集、追加調査、追加資料作成(最終プレゼン準備)	グループ討議、仮説の確認作業、発表資料の作成
29	最終資料完成作業（最終プレゼン準備）	プレゼン準備、リハ
30	最終発表会	グループ単位で発表・討議する。

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	早田　剛		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し､体育･スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに､各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
①授業態度：30%|②課題提出・意見交換：50%|③自主学習・積極性：20%

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
松橋・高岡
スポーツまちづくりの教科書
青弓社
畑・小野里
基本・スポーツマネジメント
大修館書店
柳沢・木村・清水テキスト 体育・スポーツ経営学
大修館書店
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	テーマ設定	現在の体育・スポーツに関する課題・問題を探る
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	課題発表(1)	1回目の課題・問題に関する発表．次回の発表に向けた問題を討議する
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	課題発表(2)	2回目の課題・問題に関する発表．次回の発表に向けた問題を討議する
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	課題発表(3)	3回目の課題・問題に関する発表．次回の発表に向けた問題を討議する
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャ	教師力養成に向けた講座(5)

	リア教育(5)	
11	これまでのまとめ	3回の報告内容について総括し，現在の課題・問題について整理する.
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	先行研究を調べる	整理された課題・問題をもとに，先行研究をレビューする.
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	課題発表(4)	先行研究のレビューし，新たな視点を検討する(1).
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	課題発表(5)	先行研究のレビューをし，新たな視点を検討する(2).
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座4)
19	課題発表(6)	先行研究のレビューをし，新たな視点を検討する(3).
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	研究テーマの選定(1)	これまでの課題発表をまとめ，研究テーマを設定する.
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	研究テーマの選定(2)	研究テーマの発表をし，今後の方向性について討議する.
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	研究方法の検討	研究テーマに沿った研究方法について討議する.
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	調査対象の検討	研究テーマに沿った調査対象について討議する.
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	研究計画の作成	テーマを設定し，具体的な研究研究を作成する.
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠと総括と課題発表

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	木下　祥一			
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し､体育･スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに､各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表 50%、体育人の育成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%

＜教科書＞
必要に応じて
＜参考書＞
特になし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1)
3	研究テーマの検討①	広義に「教育学」に関する研究論文をレビューし、自分の興味のある研究テーマを発見する。①では、論文検索の方法について取り扱う。
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2)
5	研究テーマの検討②	広義に「教育学」に関する研究論文をレビューし、自分の興味のある研究テーマを発見する。②では、論文検索を行い、興味のある研究論文をいくつかピックアップする。
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3)
7	研究テーマの検討③	広義に「教育学」に関する研究論文をレビューし、自分の興味のある研究テーマを発見する。③では、②で選んだ研究論文を要約してみる。
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4)
9	研究構想①	初発の問題意識を文章化し、他者と問題意識を共有するにはどのように表現すればよいか検討する。
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5)
11	研究構想②	問題意識を具体的な問題へと落とし込み、それぞれが取り扱う研究の「問題の所在」

		について検討する。
12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1)
13	研究構想③	「問題の所在」を解決するために、何を明らかにするのか、「研究の目的」について検討する。
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2)
15	研究構想④	「研究の目的」を達成するために最も相応しい、研究材料と、その研究方法について検討する。
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3)
17	研究構想⑤	研究の意義について検討する。
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座4)
19	序章の構想①	研究構想①～⑤を踏まえ、それらをまとめることにより、研究論文の「序章」を作成し始める。
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5)
21	序章の構想②	章構成について検討する。
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1)
23	先行研究の検討①	研究の構想を踏まえ、自身が行おうとする研究分野は、これまでどのような研究蓄積があるのか検討する。まずは、「先行研究群」を整理する。
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2)
25	先行研究の検討②	先行研究について論文や文献のリストを作成する。
26	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3)
27	先行研究の検討③	先行研究の収集を行う。
28	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4)
29	序章の作成	これまでに集めた「材料」を基に、序章を作成する。
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠと総括と課題発表

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し､体育･スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに､各自､社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(1)	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(2)	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(3)	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(4)	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(5)	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(6)	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(7)	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(8)	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(9)	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価(10)	献立の作成
12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価	献立の作成

	（11）	
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（12）	献立の作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（13）	調理実習
15	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（14）	献立作成・調理実習のまとめ
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究（１）	文献の探し方・読み方
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読（１）
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読（2）
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読（3）
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読（4）
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ（１）
22	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ（2）
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（１）	研究計画の作成（１）
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（2）	研究計画の作成（2）
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（3）	研究計画の発表
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（4）	研究計画の考察
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（5）	実験・測定・調査の実施
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（6）	実験・測定・調査のデータ分析
29	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（7）	実験・測定・調査のデータ発表
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠの総括と課題発表

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	江波戸　智希		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し､体育･スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに､各自､社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」および5「科学的根拠や思考を持って、体育・スポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付けている」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業への取組(グループへの貢献度含む)50%、課題 50%

＜教科書＞
＜参考書＞
NSCAジャパン
NSCA決定版ストレングストレーニング＆コンディショニング　第4版
Book House HD
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方　目標設定
2	課題発見・問題解決実習①	目標共有とグループワーク
3	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習①	コンディショニングとは　要因　グループワーク
4	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習②	運動能力・フィジカルパフォーマンスとは　｜フィジカル・体力とは　要因
5	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習③	怪我とは　怪我予防のための要因
6	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習④	フィジカルパフォーマンスの階層
7	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑤	競技スポーツのパフォーマンスとは
8	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑥	競技スポーツのフィジカルパフォーマンスとは
9	スポーツ現場での課題発見・問題解決実習⑦	リハビリ、リコンディショニングの階層
10	フィジカル測定評価実習①	フィールドテスト①　パワー・スピード・アジリティ
11	フィジカル測定評価実習②	フィールドテスト②　持久力・スピード持久力
12	フィジカル測定評価実習③	ラボテスト①　動作分析
13	フィジカル測定評価実習④	ラボテスト②　筋電図
14	フィジカル測定評価実習⑤	ラボテスト③　代謝系

15	前期まとめ	前期まとめと後期向けての課題
16	グループ研究①	テーマ・仮説設定
17	グループ研究②	文献考証
18	グループ研究③	仮説の設定
19	グループ研究④	予備実験
20	グループ研究⑤	本実験
21	グループ研究⑥	本実験②
22	グループ研究⑦	データの整理・解析
23	グループ研究⑧	データの整理・解析②
24	グループ研究⑨	考察
25	グループ研究⑩	発表資料作り
26	グループ研究発表	発表
27	個人研究演習①	ゼミ論のテーマ設定
28	個人研究演習②	進捗発表会
29	個人研究演習③	進捗発表会
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠの統括と課題

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	石村　和博		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは，自身のスポーツパフォーマンスを分析し競技力向上を目指す取り組みを行う．主にスポーツバイオメカニクス的手法を用いた計測・分析ができる基礎的な能力を養うことを目的とする．また次年度の卒業論文作成を見越して，研究を実施するのに必要な知識（文献検索，統計分析など）の取得も目指す．PCは常に持参すること．

＜授業の到達目標＞
スポーツパフォーマンスに関する調査・研究を通して，体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する．自らのパフォーマンスの現状を評価し課題を発見し，その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける．

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する．必要に応じて，フィードワークの実施やPPT，資料を作成し，課題発表を行う．さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う．

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
自身が興味のある先行研究を調べる（2～3時間）．調査・研究する課題の発表準備（3時間）．基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は，体育学科ディプロマポリシー2「健康増進，体力の向上，また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている．」と関連付けられている．体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ，4年次配当ゼミナールⅡ・卒業研究に必要な資質・能力を育成する．

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
プロジェクト研究50%，論文抄読20%，ゼミ活動への取り組み30%

＜教科書＞
＜参考書＞
ゴードン・ロバートソンほか
身体運動のバイオメカニクス研究法
大修館書店
阿江道良ほか
スポーツバイオメカニクス20講
朝倉書店
PETER O'DONOGHUERESEARCH METHODS FOR SPORTS PERFORMANCE ANAYSIS
ROUTEDGE

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	動作分析の原理と方法	ビデオカメラを使用した身体運動の撮影方法と，注意点について学ぶ．
3	動作の撮影	様々な身体動作を撮影する．
4	床反力計の原理と使用方法	床反力計を使用した身体運動時の床反力の記録方法と，注意点について学ぶ．
5	床反力の記録	様々な動作の床反力を記録する．
6	筋電計の原理と使用方法	筋電計を使用した身体運動時の筋電図記録方法と，注意点について学ぶ．
7	筋電図の記録	各種動作時の筋電図を記録する．
8	データの処理・分析方法（1）	PCに取り込んだデータの処理方法や分析方法を学ぶ（1）
9	データの処理・分析方法（2）	PCに取り込んだデータの処理方法や分析方法を学ぶ（2）
10	統計分析（1）	体育・スポーツ科学に必要な統計分析について学ぶ（1）
11	統計分析（2）	体育・スポーツ科学に必要な統計分析について学ぶ（2）
12	文献検索（1）	文献の検索方法を学ぶ
13	文献検索（2）	興味ある文献を検索し，精読する
14	論文抄読（1）	検索した論文の抄読会を行う（1）
15	論文抄読（2）	検索した論文の抄読会を行う（2）
16	研究計画書（1）	研究計画書とは何かを学ぶ
17	研究計画書（2）	研究計画書を作成してみる
18	研究計画書（3）	研究計画書を完成させる

19	プロジェクト研究（1）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（1）
20	プロジェクト研究（2）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（2）
21	プロジェクト研究（3）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（3）
22	プロジェクト研究（4）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（4）
23	プロジェクト研究（5）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（5）
24	プロジェクト研究（6）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（6）
25	プロジェクト研究（7）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（7）
26	プロジェクト研究（8）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（8）
27	プロジェクト研究（9）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（9）
28	プロジェクト研究（１０）	各グループで立案した研究計画書に則り，研究を実施する（１０）
29	プロジェクト研究発表（1）	各プロジェクトの研究成果の発表を2週に渡って実施する
30	プロジェクト研究発表（2）	各プロジェクトの研究成果の発表（2）

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	嘉門　良亮		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、社会人としての適性や課題を見極め、課題解決への糸口を見出すことにある。|本科目は、2つの内容によって構成される。|①体育・スポーツ科学（特に担当教員嘉門の専門である体育・スポーツ社会学）をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした学習。|②社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する学習。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。|①自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。|②体育・スポーツに関する専門的な研究領域に触れ、体育・スポーツに携わる専門家として必要な思考法や身体性を学び身に付ける。|③自らの学習経験を自省的に考察し、課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
受講者の興味関心に基づいた研究発表のプレゼンテーションと、全体でのディスカッションを中心に行なう。|その他、受講生の興味関心に沿って、学術論文や学術書の輪読を行う。|必要に応じて、現場実習を交えフィードワークを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
各自の研究関心に基づいた発表（40%）、ディスカッションへの参加と貢献（30%）、レポート課題（30%）

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
ピエール・ブルデュー（石崎晴己訳）1991/12/30
構造と実践
藤原書店
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	自分史を書く	スポーツ歴を中心軸に、自分史を作成する。|自らを題材に人生観を展望するきっかけにする。
3	自分史（発表）①	各自で発表し、他者と比較する。|自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
4	自分史（発表）②	各自で発表し、他者と比較する。|自己の経験を客観的かつ論理的に説明可能なものにする。
5	P.ブルデュー「スポーツ社会学のための計画表」『構造と実践』pp280-287.を読む	「スポーツ社会学」という学問の性質をブルデューから学ぶ。
6	自分の関心に沿った論文・資料の探し方、テーマ設定の仕方	キーワードの設定、検索方法、概略の把握など、資料検索について学ぶ。
7	論文紹介（発表）①	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
8	論文紹介（発表）②	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
9	論文紹介（発表）③	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
10	論文紹介（発表）④	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。
11	論文紹介（発表）⑤	論文一本を選定し、内容を要約しコメントを付けて発表、議論する。|全体を通しての討論
12	ゼミとしてのテーマ設定	受講者の興味関心を総合し、共通するテーマや議論の土台を確認し、全体で読み進めるべき書籍を選定する。

13	輪読・発表①	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
14	輪読・発表②	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
15	前期総括（ふりかえり）	前期の取り組みについてふりかえり、改善点や取り組むべき課題を再確認する。
16	輪読・発表③	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
17	輪読・発表④	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
18	輪読・発表⑤	報告担当者が内容を報告しコメントする。それを基に全体でディスカッションする。
19	総合討論	これまでの議論をふりかえり、いくつかのテーマに絞って討議を行い、より理解を深める。
20	論文の書き方①	論文の構成と種類について
21	論文の書き方②	問題関心の確認とテーマの設定、研究の意義について
22	論文の書き方③	先行研究の検討、研究方法、議論の土台の設定の仕方について
23	論文の書き方④	データの収集、調査の方法について
24	論文の書き方⑤	データの読み方、提示の仕方、データから導き出せる事実について
25	研究計画の立案、検討	各自の関心に沿って研究計画を立案してみる。
26	論文指導①	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
27	論文指導②	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
28	論文指導③	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
29	論文指導④	各自の関心に沿った先行研究を検討したミニ論文を作成する。
30	全体のふりかえり、まとめ	１年間を振り返り、軌跡を確認し、次年度へ向けた準備、課題を確認する。

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	梶谷　亮輔		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、トレーニングやコーチングにおける文献の抄読会を中心に授業を展開し、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶ。また、バイオメカニクス的分析手法を用いて、動作を測定する技術の習得、科学的データを読み解く能力を育成する。

＜授業の到達目標＞
本ゼミナールでは、スポーツパフォーマンス向上のための科学的知見について学ぶこと、そして実際に科学的なデータを取り扱い、自らの競技パフォーマンス向上のために科学的な視点を持つことを目指す。

＜授業の方法＞
文献研究、測定実習、データ分析、測定の結果を用いた討論を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
自身の興味ある分野について、授業内で紹介する方法で文献研究を行なってください。※トレーニングやコーチング、または自分の専門分野に関する文献研究を1週間で1本行う。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識を習得すると共に、これらを実践できる力を習得するための科目

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲 30%、課題研究 70%。※文献研究発表および課題研究発表について、適時教員からフィードバック

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミの指導計画、ゼミの概要、評価方法
2	研究の手順	研究の実施手順の説明
3	文献研究①	コーチング・トレーニング領域の主なジャーナルの紹介
4	文献研究②	文献の探し方、読み方
5	文献研究③	論文抄読（コーチング）
6	文献研究④	論文抄読（コーチング）
7	討論	コーチングに関する討論
8	文献研究⑤	論文抄読（トレーニング）
9	文献研究⑥	論文抄読（トレーニング）
10	討論	トレーニングに関する討論
11	文献研究⑦	論文抄読（専門競技）
12	文献研究⑧	論文抄読（専門競技）
13	討論	専門競技に関する討論
14	文献研究発表①	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
15	文献研究発表②	興味関心のあるテーマについて文献研究、発表
16	測定実習①	走種目の動作測定
17	データ分析①	走種目の動作分析
18	討論①	測定結果に基づく討論
19	測定実習②	跳種目の動作測定
20	データ分析②	跳種目の動作分析
21	討論②	測定結果に基づく討論
22	測定実習③	投種目の動作測定
23	データ分析③	投種目の動作分析
24	討論③	測定結果に基づく討論
25	課題研究	研究計画の作成(1)
26	課題研究	研究計画の作成(2)
27	発表方法	プレゼンテーションの作成方法
28	課題研究	研究計画の作成(3)
29	課題研究	研究計画の作成(4)

30	課題研究発表	研究計画の発表

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	平塚　卓也		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し､体育･スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに､各自､社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ名は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
小課題 20%，調査・研究発表の質 30%、最終課題 50%

＜教科書＞
特になし

＜参考書＞
オモー グルーペ，　ミハエル クリューガー
スポーツと教育―ドイツ・スポーツ教育学への誘い
ベースボールマガジン社
朝岡正雄
指導者のためのスポーツ運動学
大修館書店
三木四郎器械運動の動感指導と運動学
明和出版

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方について
2	体育・スポーツ研究の領域	体育・スポーツの領域と本ゼミナールの対象範囲について
3	スポーツ教育の生成と展開（1）	ギムナスティクの教育思想及び方法について
4	スポーツ教育の生成と展開（2）	トゥルネンの教育思想及び方法について
5	スポーツ教育の生成と展開（3）	パブリックスクールにおけるスポーツ教育の教育思想及び方法
6	スポーツ教育の生成と展開（4）	戦前日本における学校体育の教育思想及び方法について
7	スポーツ教育の生成と展開（5）	戦後日本における学校体育の教育思想及び方法について
8	運動の学習及び指導（1）	人間の運動学習について
9	運動の学習及び指導（2）	動感の形成位相について
10	運動の学習及び指導（3）	身体知の獲得について
11	運動の学習及び指導（4）	運動の観察について
12	運動の学習及び指導（5）	運動の指導について
13	問を立てる（1）	文献の調査・収集方法について
14	問を立てる（2）	自身の問題関心に関連する文献を調査、報告、議論し、問を深める。

15	問を立てる（３）	自身の問題関心に関連する文献を調査、報告、議論し、問を深める。
16	問を立てる（４）	自らの問題関心に関連する文献リストを作成し、報告する。
17	先行研究の検討（１）	先行研究として論文を1本取り上げ、その内容をまとめるとともに、先行研究の限界及び課題を報告し、議論する。
18	先行研究の検討（２）	先行研究として論文を1本取り上げ、その内容をまとめるとともに、先行研究の限界及び課題を報告し、議論する。
19	先行研究の検討（３）	先行研究として論文を1本取り上げ、その内容をまとめるとともに、先行研究の限界及び課題を報告し、議論する。
20	先行研究の検討（４）	先行研究として論文を1本取り上げ、その内容をまとめるとともに、先行研究の限界及び課題を報告し、議論する。
21	研究の方法（１）	先行研究の限界及び課題を克服する研究方法について検討する。
22	研究の方法（２）	先行研究の限界及び課題を克服する研究方法について検討する。
23	研究の方法（３）	先行研究の限界及び課題を克服する研究方法について検討する。
24	研究の方法（４）	先行研究の限界及び課題を克服する研究方法について検討する。
25	研究課題の設定	具体的な研究課題を設定し、研究計画を作成する。
26	研究計画の発表（１）	研究計画を報告、議論する。
27	研究計画の発表（２）	研究計画を報告、議論する。
28	研究計画の発表（３）	研究計画を報告、議論する。
29	研究計画の発表（４）	研究計画を報告、議論する。
30	全体のまとめ	ゼミナールⅠの総括し、卒業論文に向けての課題を整理する。

25304

科目コード	25304				区　分	コア科目		
授業科目名	運動生理学実習 《通年》				担当者名	前川　真姫、早田　剛、黒川　隆志、國友　亮佑、田中　耕作、十河　直太		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、主に健康増進、生活習慣病の予防のために、運動を実際の生活に取り入れる場合に必要な基礎知識、測定や評価を理解し修得することを目的とする。これまでに「生理学」「運動生理学（基礎）」「トレーニング演習」「スポーツバイオメカニクス（基礎）」「運動学」等にて学習した内容をもとに、身体運動に伴って生じる各器官（運動器系、神経-筋骨格系、呼吸器系、循環器系）の生理反応や身体機能について測定・評価を行う。実習を通じて、身近な生理現象から運動生理学について理解を深める。なお、競技力向上のための運動生理学について

＜授業の到達目標＞
各種測定機器を用いて、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能を測定・評価することができる。得られたデータについて論理的に考察し、レポートにまとめることができる。実習を通じ、身体運動に伴って生じる各器官の生理反応や身体機能について理論を理解し、実践に繋げることができる。

＜授業の方法＞
本授業は、複数の教員が担当するオムニバス授業である。テーマに沿った内容を資料やパワーポイント等を用いて解説し、測定・評価を行う。講義ノート・実験データおよび考察をもとに、予習と復習を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業で提示するテーマの内容について、事前に配布資料や指示された参考資料を読む（1時間程度）。講義ノート・実験データを基にレポート課題や復習を行う（1時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学部のディプロマポリシー2（健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）と関連付けられている。また、学内の認定資格（測定スペシャリスト）の取得に関わる。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度・学習意欲 40%、測定結果の考察やレポート課題 60%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	講義概要の解説	授業概要、授業の進め方、成績評価等の説明
2	各種測定と評価（１）	運動生理学測定法の歴史的変遷
3	各種測定と評価（２）	身体組成とその測定法
4	各種測定と評価（３）	基礎体温と概日リズム
5	各種測定と評価（４）	エネルギー代謝からみた競技・健康づくり
6	各種測定と評価（５）	乳酸測定1（LT測定）
7	各種測定と評価（６）	乳酸測定2（クーリングダウンの効果）
8	各種測定と評価（７）	まとめ
9	各種測定と評価（８）	筋電図について
10	各種測定と評価（９）	筋収縮における筋電図測定
11	各種測定と評価（１０）	筋電図を解析する
12	各種測定と評価（１１）	運動時の呼吸循環系応答：最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
13	各種測定と評価（１２）	運動時の呼吸循環系応答：暑熱環境下における最大下運動時の酸素摂取量、心拍数、RPEの測定実習
14	各種測定と評価（１３）	呼吸循環応答の測定データの分析と考察
15	各種測定と評価（１４）	まとめ
16	各種測定と評価（１５）	骨粗鬆症と運動の効果
17	各種測定と評価（１６）	骨の測定評価
18	各種測定と評価（１７）	疲労に対する筋電図測定
19	各種測定と評価（１８）	疲労に対する筋電図解析

20	各種測定と評価（１９）	筋肥大トレーニングのメカニズム
21	各種測定と評価（２０）	筋肥大（物理的ストレス）に実践と評価
22	各種測定と評価（２１）	筋肥大（物理的ストレス）に実践と評価
23	各種測定と評価（２２）	まとめ
24	各種測定と評価（２３）	Velocity Based Training測定と評価
25	各種測定と評価（２４）	運動時の呼吸循環系応答：最大酸素摂取量の測定実習
26	各種測定と評価（２５）	最大酸素摂取量の評価
27	各種測定と評価（２６）	呼吸循環応答の測定データの分析と考察
28	各種測定と評価（２７）	姿勢の改善に伴う、心理的側面や身体機能の測定・評価
29	各種測定と評価（２８）	免疫と腸内環境
30	各種測定と評価（２９）	まとめ

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	古山　喜一		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い学生の研究を支援する。したがって本ゼミナールは、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。 具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を設定できるよう様々なアドバイスや共同討議を取り入れたゼミナール形式とする。ゼミナールⅠ（基

＜授業の到達目標＞
柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

＜授業の方法＞
現段階において明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（予習・復習等）研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目はDP8及び9に関連づけられている。授与の方針と当該授業科目との関連　「医療人としてのコミュニケーション能力や他者との中で協働する力」、「科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応することができる力」を育成する基礎科目であり、医療人である前に一般社会人として通用する人間力や社会人基礎力を与える機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【Web授業】①課題提出50%　　②意見交換50%【対面授業】課題達成度（50%）、学習意欲（30%）、レポート（20%）で評価する。

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	文献研究1	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う1
3	文献研究2	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う2
4	文献研究3	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う3
5	文献研究4	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う4
6	文献研究5	研究分野を決定するために各分野の論文抄読を行う5
7	研究テーマ発表1	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する１
8	研究テーマ発表2	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する2
9	研究テーマ発表3	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する3
10	研究テーマ発表4	各自が自分の研究テーマを発表し、全員から意見をもとに検討する4
11	研究計画の立案1	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する１
12	研究計画の立案2	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する2
13	研究計画の立案3	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する3
14	研究計画の立案4	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する4
15	研究計画の立案5	先行研究を踏まえ自分が立案した研究計画の新規性をを発表する5
16	研究テーマについて実験・調査の実施1	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する1
17	研究テーマについて実験・調査の実施2	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する2
18	研究テーマについて実験・調査の実施3	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する3
19	研究テーマについて実験・調査の実施4	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する4
20	研究テーマについて実験・調査の実施5	研究テーマについて小規模に実験・調査の実施を実施し、問題点や課題を検討する5
21	研究内容について共同討議1	各自の研究内容について発表し共同討議する1
22	研究内容について共同討議2	各自の研究内容について発表し共同討議する2
23	研究内容について共同討議3	各自の研究内容について発表し共同討議する3

24	研究内容について共同討議4	各自の研究内容について発表し共同討議する4
25	研究内容について共同討議5	各自の研究内容について発表し共同討議する5
26	総括1	研究進捗状況発表会1
27	総括2	研究進捗状況発表会2
28	総括3	研究進捗状況発表会3
29	総括4	研究進捗状況発表会4
30	総括5	研究進捗状況発表会5

55007

科目コード	55007				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する

＜授業の到達目標＞
専門領域の現状を理解し、課題を見出すことができる。|課題に沿った論文の検索、精査をすることができる。|精査した内容を客観的に評価し内容をプレゼンテーションすることができる。

＜授業の方法＞
グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査）|省察活動（課題に対するまとめ、プレゼンスライド作成、実践活動）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、１時間程度）|復習：振り返りレポート（毎回、１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は健康科学科のディプロマポリシー７（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習能力を身に付ける）に関連付けられている。単に知識を習得・活用するだけではなく、現在の医療・スポーツ健康関連における課題を発見し、独自の改善策を提案できる様な汎用能力の習得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題40%、プレゼンテーション・レポート 40%、取り組み姿勢と受講態度・意欲 20%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	柔道整復師の衛生管理について①	柔道整復師の衛生管理の現状把握1
2	柔道整復師の衛生管理について②	柔道整復師の衛生管理の現状把握2
3	柔道整復師の衛生管理について③	柔道整復師の衛生管理の現状把握3
4	柔道整復師の衛生管理について④	柔道整復師の衛生管理の問題点1
5	柔道整復師の衛生管理について⑤	柔道整復師の衛生管理の問題点2
6	医療現場の衛生管理について①	医療現場の衛生管理について1
7	医療現場の衛生管理について②	医療現場の衛生管理について2
8	医療現場の衛生管理について③	医療現場の衛生管理について3
9	医療現場の衛生管理について④	柔道整復師と他の医療資格との比較1
10	医療現場の衛生管理について⑤	柔道整復師と他の医療資格との比較2
11	情報整理①	衛生管理について1
12	情報整理②	衛生管理について2
13	情報整理③	衛生管理について3
14	まとめ	前半のまとめ1
15	まとめ	前半のまとめ2
16	疑問・問題点の抽出及び整理①	疑問・問題点の抽出及び整理1
17	疑問・問題点の抽出及び整理②	疑問・問題点の抽出及び整理2
18	疑問・問題点の抽出及び整理③	疑問・問題点の抽出及び整理3
19	実験計画①	実験計画1
20	実験計画②	実験計画2
21	実験の実施①	実験の実施1
22	実験の実施②	実験の実施2
23	実験の実施③	実験の実施3
24	実験結果に対する考察①	考察1
25	実験結果に対する考察②	考察2
26	実験結果に対する考察③	考察3

27	実験結果に対する考察④	考察とまとめ1
28	実験結果に対する考察⑤	考察とまとめ2
29	プレゼンテーション①	プレゼンテーション1
30	プレゼンテーション②	プレゼンテーション2

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	坂本　賢広		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
研究論文の構成を理解すること。論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることを目標としている。更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることを目標としている。

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し、分かりやすいプレゼンテーションを検討する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科のディプロマポリシー７（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）と関連付けている。研究への取組み、実践教育を通じて医療・健康に関わる従事者としての論理的な思考を深めるための機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題達成度 100％

＜教科書＞
公益社団法人全国柔道整復学校協会 監修　彼末一之　編集
生理学　改訂第4版
南江堂
＜参考書＞
編者　赤間高雄　発行者　曽根良介（2014年3月31日）
はじめて学ぶ　健康・スポーツ科学シリーズ8?　スポーツ医学【内科】
(株)化学同人
編著者　藤本敏夫　大久保衛　発行者　前田茂（2020年9月30日）
やさしいスチューデントトレーナーシリーズ　新スポーツ医学【改訂新版】
嵯峨野書院
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠにおける年間の進行方法について
2	スポーツ医学とは	スポーツと医学について
3	スポーツ医学（内科）とは	内科系スポーツ障害について
4	メディカルチェック	メディカルチェックの内容について
5	アスリートの健康管理	アスリートの健康管理体制について
6	スポーツ医学（内科）（1）	循環器系および呼吸器系について
7	スポーツ医学（内科）（2）	消化器系と腎・泌尿器系について
8	スポーツ医学（内科）（3）	血液・免疫・アレルギーについて
9	スポーツ医学（内科）（4）	内分泌代謝系について
10	スポーツ医学（内科）（5）	熱中症について
11	測定と評価（1）	心拍数について
12	測定と評価（2）	乳酸について
13	測定と評価（3）	酸化ストレスについて
14	まとめ	前半まとめ（1）
15	まとめ	前半まとめ（2）
16	スポーツ医学（内科）（6）	スポーツ活動と疲労について
17	スポーツ医学（内科）（7）	女性スポーツ医学について
18	スポーツ医学（内科）（8）	スポーツ精神医学について

19	スポーツ医学（内科）（9）	アンチドーピングについて
20	スポーツ医学（内科）（10）	スポーツ活動による血液性状について
21	スポーツ医学（内科）（11）	運動強度について
22	測定と評価（4）	酸化ストレスおよび抗酸化力について
23	測定と評価（5）	心拍数からみた運動強度について
24	測定と評価（6）	呼気ガス分析について
25	研究計画（1）	研究計画（1）
26	研究計画（2）	研究計画（2）
27	実験の実施	実験の実施
28	実験結果に対する考察（1）	考察（１）
29	実験結果に対する考察（2）	考察（2）
30	プレゼンテーション	プレゼンテーション

40301

科目コード	40301				区　分	柔道整復学実技			
授業科目名	整復学実技Ⅴ(下肢・固定法Ⅰ)《連続》				担当者名	小玉　京士朗、坂本　賢広、東　千尋			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

＜授業の概要＞
固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは股関節、大腿骨、膝蓋骨の外傷（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

＜授業の到達目標＞
１．下肢に生じる外傷の病態把握の習得ができる。２．症状に対する治療法の判断、処置方法、整復方法を理解し実施できる。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（疾患に対する治療手法（整復動作、固定動作））２．講義（教員による疾患概要、治療手法指導）３．ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する講義の事前課題（実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度））復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および８（習得した知識・技術等を総合的に活用し、自らが立案した課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。基礎専門科目で修得した下肢骨折、脱臼に対する学修能力をPB（問題解決学習）を通じて、症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、疾患に対し治療する計画性や考え方を多目的に伸ばし汎用能力の習得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実技試験35%、定期試験35%、学習意欲30%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会
柔道整復学・理論編
南江堂
全国柔道整復学校協会
柔道整復学・実技編
南江堂

＜参考書＞
全国柔道整復学校協会
柔道整復学・包帯固定学
南江堂

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義の内容，評価方法，受講態度について
2	固定法	固定法に対する指導管理、固定の理解と指導について
3	大腿骨頚部骨折（1）	大腿骨頚部骨折における概要について
4	大腿骨頚部骨折（2）	大腿骨頚部骨折における整復法について
5	大腿骨頚部骨折（3）	大腿骨頚部骨折における固定法（クラーメル固定）について
6	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における概要について
7	股関節脱臼（2）	股関節脱臼における整復法について
8	股関節脱臼（3）	股関節脱臼における固定法（クラーメル固定）について
9	股関節における評価（1）	関節可動域、下肢長について
10	股関節における評価（2）	ケーススタディによる評価方法（動作分析）について
11	股関節における評価（3）	MMT、代償運動について
12	大腿骨骨幹部骨折（1）	大腿骨骨幹部骨折における概要について
13	大腿骨骨幹部骨折（2）	大腿骨骨幹部骨折における整復法について

14	大腿骨骨幹部骨折（３）	大腿骨骨幹部骨折における固定法について
15	下腿骨骨骨折（１）	下腿骨骨骨折における概要について
16	下腿骨骨骨折（２）	下腿骨骨骨折における整復法、固定法（クラーメル固定）について
17	下腿骨骨骨折（３）	下腿骨骨骨折における整復法、固定法（ギプス固定）について
18	下肢外傷の応急処置（１）	下肢外傷の応急処置（救急搬送固定）
19	下肢外傷の応急処置（２）	下肢外傷の応急処置（循環、神経学的所見の確認）
20	下肢外傷における評価（１）	関節可動域訓練と可動域について
21	下肢外傷における評価（２）	アライメントとマルアライメントについて
22	下肢外傷における評価（３）	筋周径と運動療法について
23	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（１））	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
24	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（２）　）	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について
25	ケーススタディ（股関節周囲の運動器疾患（３）　）	股関節周囲の運動器疾患に対する評価（視診から鑑別疾患、対処法の指示）について
26	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（１）　）	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（画像評価）について
27	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（２）　）	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（理学所見）と治療指針について
28	ケーススタディ（膝関節周囲の運動器疾患（３）　）	膝関節周囲の運動器疾患に対する評価（視診から鑑別疾患、対処法の指示）について
29	総復習（１）	大腿骨頚部骨折、股関節脱臼、股関節周囲の評価について
30	総復習（２）	大腿骨骨幹部骨折、下腿骨骨折および評価について

40302

科目コード	40302				区　分	柔道整復実技			
授業科目名	整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)《連続》				担当者名	小玉　京士朗、坂本　賢広			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

＜授業の概要＞
固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

＜授業の到達目標＞
１．下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。２．症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（疾患に対する治療手法（理学検査、固定動作））２．講義（教員による疾患概要、所見手法指導）３．ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる力」を育成する応用科目である。基礎専門科目で修得した下肢の軟部組織損傷に対する知識を基に、実技を通して課題を遂行して行き、それぞれの症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、臨床現場に備える機会を提供する。本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および８（習得した知識・技術等を総合的に活

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲10%、学習評価・実技試験90%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修
柔道整復学・理論編
南江堂
全国柔道整復学校協会監修
柔道整復学・実技編
南江堂
全国柔道整復学校協会監修
包帯固定学
南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	下肢機能の評価	下肢関節の可動域測定法
2	下肢機能の評価	下肢機能の筋力評価（MMT）
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理論実技
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理学検査
5	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの固定法
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理学検査
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの固定法
9	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の理論実技
10	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
11	膝部の整復固定実技	膝蓋骨脱臼の理論実技
12	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
13	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法１

14	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法２
15	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理論実技
16	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理学検査
17	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の固定法
18	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査１
19	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査２
20	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査１
21	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査2
22	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理論実技
23	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理学検査
24	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の固定法
25	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理学検査
26	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の固定法
27	まとめ1	総復習１
28	まとめ2	総復習2
29	まとめ3	総復習3
30	まとめ4	総復習4

40302

科目コード	40302				区　分	柔道整復実技			
授業科目名	整復学実技Ⅵ(下肢・固定法Ⅱ)[2018年度入学生用]				担当者名	小玉　京士朗、坂本　賢広			
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	柔道整復師養成施設必修科目

＜授業の概要＞
固定とは一定期間患部をある肢位に保持し、運動を制限することにより、損傷組織を良好な治癒環境に導くものである。整復学実技Ⅵでは大腿部、膝関節部、下腿部の外傷（軟部組織損傷）に対する病態把握の習熟、固定法や理学検査を中心に実技実習を行ない学修する。

＜授業の到達目標＞
１．下肢に生じる外傷（軟部組織損傷）の病態把握の習得ができる。２．症状に対する治療法の判断、処置方法を理解し実施できる。

＜授業の方法＞
１．グループワーク（疾患に対する治療手法（理学検査、固定動作））２．講義（教員による疾患概要、所見手法指導）３．ディスカッション（臨床実践例を通じた病態把握、治療指針の判断）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：実施する疾患に対する下調べ（毎回、30分程度）復習：実施した疾患や治療方法に関する確認試験（毎回、20分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、自ら解決することができる力」を育成する応用科目である。基礎専門科目で修得した下肢の軟部組織損傷に対する知識を基に、実技を通して課題を遂行して行き、それぞれの症例に対する鑑別、治療計画の組み立て型について理解を深め、臨床現場に備える機会を提供する。本科目は健康科学科のディプロマポリシー6（柔道整復学を中心とした、健康科学、体育学、スポーツ医学の学際的領域で他者と協調できるスキル習得）および８（習得した知識・技術等を総合的に活

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲10%、学習評価・実技試験90%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会監修
柔道整復学・理論編
南江堂
全国柔道整復学校協会監修
柔道整復学・実技編
南江堂
全国柔道整復学校協会監修
包帯固定学
南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	下肢機能の評価	下肢関節の可動域測定法
2	下肢機能の評価	下肢機能の筋力評価（MMT）
3	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理論実技
4	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの理学検査
5	大腿部の評価固定実技	大腿四頭筋肉離れの固定法
6	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理論実技
7	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの理学検査
8	大腿部の評価固定実技	ハムストリングス肉離れの固定法
9	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の理論実技
10	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
11	膝部の整復固定実技	膝蓋骨脱臼の理論実技

12	膝部の整復固定実技	膝蓋骨骨折の固定法
13	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法１
14	膝部の整復固定実技	膝関節外傷における応急処置固定法２
15	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理論実技
16	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の理学検査
17	膝部の整復固定実技	側副靭帯損傷の固定法
18	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査１
19	膝部の整復固定実技	十字靭帯損傷の理学検査２
20	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査１
21	膝部の整復固定実技	半月板損傷の理学検査2
22	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理論実技
23	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の理学検査
24	下腿部の整復固定実技	アキレス腱損傷の固定法
25	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の理学検査
26	足関節及び足部の整復固定実技	足関節・足部の靭帯損傷の固定法
27	まとめ1	総復習１
28	まとめ2	総復習2
29	まとめ3	総復習3
30	まとめ4	総復習4

35301

科目コード	35301				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展)［陸上］《通年》				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
個人スポーツ指導理論・実習では、陸上競技の基本的な運動種目（短距離走、長距離走、障害走、跳躍種目、投擲種目）の技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、陸上競技の指導法・研究法を学ぶことを目的とします。

＜授業の到達目標＞
バイオメカニクス的・運動生理学的手法を用いて、自分の特性（動き、代謝特性など）を把握・改善する能力を身につける。

＜授業の方法＞
実技実習、配布資料を用いた理論説明、ビデオや分析機器を用いた分析・解析を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
参考図書およびルールブックを熟読の上、授業に参加すること。また、トレーニング日記をつけることを義務づける。（所要時間1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている」を修得するための科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
技能レベル 30%、レポート 20%、受講態度 50%

＜教科書＞
＜参考書＞
尾縣 貢（2007年9月1日）
ぐんぐん強くなる!陸上競技
ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト（1）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト（2）	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	陸上競技を科学する（1）	各種目における生理学的特性に関する講義
5	陸上競技を科学する（2）	測定項目の選定とその測定方法に関する講義と実習
6	測定:短距離種目（1）	血中乳酸濃度の測定（100m、200m）
7	測定:短距離種目（2）	血中乳酸濃度の測定（400m）
8	測定:中距離種目（1）	血中乳酸濃度の測定（800m）
9	測定:中距離種目（2）	血中乳酸濃度の測定（1500m）
10	測定:長距離種目（1）	血中乳酸濃度の測定（5000m）
11	測定:長距離種目（2）	最大酸素摂取量の測定
12	分析と評価	エネルギー動態からみた各種目における自己能力の分析と評価
13	陸上競技を科学する（3）	各種目に必要とされる「動き」に関する講義
14	陸上競技を科学する（4）	陸上競技とバイオメカニクスに関する講義
15	陸上競技を科学する（5）	バイオメカニクス的手法に関する講義と実習
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習（レポートの提出）
17	測定:短距離種目（1）	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（100m）
18	測定:短距離種目（2）	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（400m）
19	測定:障害走（1）	ビデオを用いての疾走動作の測定（110mH）
20	測定:障害走（2）	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（400mH）
21	測定:長距離種目	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（5000m）
22	測定:跳躍種目（1）	ビデオを用いての助走・踏切・跳躍動作の測定と分析（走幅跳）
23	測定:跳躍種目（2）	ビデオを用いての助走・踏切・跳躍動作の測定と分析（走高跳）
24	測定:投擲種目	ビデオを用いての投動作の測定と分析（やり投、砲丸投）
25	分析と評価（1）	「動き」からみた走種目における自己動作の分析と評価

26	分析と評価（2）	「動き」からみた跳躍種目における自己動作の分析と評価
27	後期の復習	後期学習内容の確認と復習（レポートの提出）
28	コントロールテスト（3）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
29	コントロールテスト（4）	専門的体力・スキルの評価（走能力、跳能力など）
30	コントロールテスト（5）	１年を通じてのコントロールテストの分析・解釈

35301

科目コード	35301				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展)［剣道］《通年》				担当者名	平田　佳弘		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、全日本剣道連盟が制定（1975）した剣道の理念、すなわち「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」に基づく正しい剣道について理解を深め、基本練習や応用練習、試合練習を行う。さらに、昇段審査において四段合格を目指し、剣道において技を繰り出す時の正しい「攻め」、正しい「防御」方法を学び、正しい剣道とは何かを追求していく。また、剣道大会や武道大会を企画したり、運営したりする、学校現場、社会体育現場で求められる剣道専門家としての総合力を培う。

＜授業の到達目標＞

剣道指導者として、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人に対して、またそれぞれの年齢の初心者、中級者、熟練者に対して、その集団の技量に応じた段階的な指導を、理論的に実践的にできるようになることを目標とする。地域貢献として地域の小学生を集め、少年剣道大会を企画・運営できる力を身につける。

＜授業の方法＞

実技を中心に進めるが、剣道試合審判規則については講義の場合がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

剣道指導要領（全日本剣道連盟）を熟読しておくこと。予習1時間、復習1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は体育学科ディプロマポリシー7「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。」と関連付けられています。剣道指導者に求められる専門的知識や指導力、さらに自ら課題を発見し、科学的根拠に基づいた課題解決に取り組んでいくことが出来る指導力、実践力を培う。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、実技試験 60%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

全日本剣道連盟
剣道指導要領
財団法人全日本剣道連盟

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	剣道稽古の心構えと留意事項	授業内容の説明・オリエンテーション
2	基本稽古（1）	切り返し（1）
3	基本稽古（2）	切り返し（2）
4	基本稽古（3）	切り返し（3）
5	基本打突（1）	気・剣・体の一致した面・小手・胴・突き技（1）
6	基本打突（2）	気・剣・体の一致した面・小手・胴・突き技（2）
7	基本打突（3）	気・剣・体の一致した面・小手・胴・突き技（3）
8	応用技術（1）	払い技、すりあげ技、捲き技（1）
9	応用技術（2）	払い技、すりあげ技、捲き技（2）
10	応用技術（3）	払い技、すりあげ技、捲き技（3）
11	打ち込み稽古（1）	打ち込みを行う（1）
12	打ち込み稽古（2）	打ち込みを行う（2）
13	打ち込み稽古（3）	打ち込みを行う（3）
14	追い込み稽古（1）	追い込みを行う（1）
15	追い込み稽古（2）	追い込みを行う（2）
16	追い込み稽古（3）	追い込みを行う（3）
17	互角稽古（1）	まわり稽古・区分稽古（1）
18	互角稽古（2）	まわり稽古・区分稽古（2）
19	互角稽古（3）	まわり稽古・区分稽古（3）
20	互角稽古（4）	まわり稽古・区分稽古（4）

21	互角稽古（5）	まわり稽古・区分稽古（5）
22	元立ち稽古（1）	元立ち稽古を行う（1）
23	元立ち稽古（2）	元立ち稽古を行う（2）
24	元立ち稽古（3）	元立ち稽古を行う（3）
25	元立ち稽古（4）	元立ち稽古を行う（4）
26	元立ち稽古（5）	元立ち稽古を行う（5）
27	試合稽古（1）	学生主体で試合を運営していく（1）
28	試合稽古（2）	学生主体で試合を運営していく（2）
29	試合稽古（3）	学生主体で試合を運営していく（3）
30	試合稽古（4）	学生主体で試合を運営していく（4）

35301

科目コード	35301				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) [ﾀﾞﾝｽ]《通年》				担当者名	小澤　尚子		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
基礎ステップやリズム練習、即興表現を通してダンスの基礎的な技能を習得する。また、グループでの小作品づくり、観賞を通して、自己表現の可能性を拡げ、ダンスの要素である「踊る、創る、観る」力をバランス良く養う。また、作品と音楽、照明の特徴、関連性について、過去の作品を例に検証しながら、舞台上演の効果についての理解を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
作品創作過程を通して、舞台上演に必要不可欠である衣裳と舞台メークを中心に、役柄との関わり、舞台空間との関わり、照明との関わりの重要性を理解し、舞踊の舞台で統一のとれた効果的な装いについて学んでいく。また、ダンスの動作のステップ、バランス、ジャンプ、ターンなどの基礎練習を怠らず、完成度の高い技能を身に付け、作品へのイメージを膨らませて自身のソロ作品を創ることができるようになる。

＜授業の方法＞
クロスフロアやダンスのコンビネーション（振付）を覚えて、基礎ステップやリズムどり、即興表現などを練習していく。また、鏡や動画を用いて自身の動きを確認し、フィードバックする。さらに、学生同士で見合いながら、指導のポイントをとらえていく。定期試験は振り付け作品とソロ作品の創作・発表を試験課題として実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業内容に関連する参考図書、参考資料等に目を通し、課題意識を持って授業に参加すること（1～2時間）復習：授業で配布した資料をファイリングする。授業で行ったダンスのウォームアップと振付等をフィードバックし、次回の授業までに覚えておく（1～2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付ける科目である。また健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身につける機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、授業記録と技能 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義のルール、概要の説明など
2	舞踊作品における音響、照明の特徴	過去の作品を例に検証
3	舞踊作品における音響、照明の効果	過去の作品を例に検証
4	身体練習１　基礎技術の確認	基礎技術
5	身体練習２　コンビネーション（脚上げ）	タンジュ、ジュッテ、バットマンの基礎技術
6	身体練習３　コンビネーション（ターン）	ターン系の基礎技術
7	身体練習４　コンビネーション（ジャンプ）	ジャンプ系の基礎技術
8	身体練習５　コンビネーション（その他）	その他の動きの基礎技術
9	習作　グループワーク1（モチーフ）	グループに分かれ、動きを考案
10	習作　グループワーク2（フレーズ）	グループに分かれ、動きをつなげる
11	習作　グループワーク3（イメージ）	グループに分かれ、動きを通して表現性を創発
12	発表・再検討	改善する箇所を相談し、修正する
13	グループワーク・踊り込み練習	複数回練習し、考案したフレーズをよりスムーズにする
14	発表・評価	発表、評価を通して、動きの習熟度を確認
15	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認
16	舞踊の種類と運動の特性1(前期振り返り)	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明
17	舞踊の種類と運動の特性2（身体練習）	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明
18	表現体としての身体とそのメカニズム	表現体としての踊るからだのメカニズムについて確認
19	ダンス作品の創作・振付１（モチーフ）	ダンス作品の創作・振付としてのモチーフの概要

20	ダンス作品の創作・振付2（フレーズ）	ダンス作品の創作・振付としてのフレーズの概要
21	ダンス作品の創作・振付3（イメージ）	ダンス作品の創作・振付としてのイメージの概要
22	ソロ作品を創作（1）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
23	ソロ作品を創作（2）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
24	ソロ作品を創作（3）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
25	ソロ作品を創作（4）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
26	踊り込み・吟味	踊り込みをおこない、より作品性を問う
27	作品の発表・合評1	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
28	作品の発表・合評2	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
29	作品の発表・合評3	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
30	今後の課題と構想	今後の課題を発見し、実現するための構想を練る

35302

科目コード	35302				区　分	コア		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) [ﾗｸﾞﾋﾞｰ] 《通年》				担当者名	小村　淳		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義においては、ラグビーのルールやハンドリング・キッキング・モール・ラック・スクラム・ラインアウトなどの 基本技術（テクニック・スキル）やフィットネスの幅広い知識を教授するとともに、個人的技能のスキルアップからユニッ トスキル・チームスキルの習得へと展開する。

＜授業の到達目標＞
最終的にはゲーム形式でラグビーを実施することを目的とし、その上で 現場において指導を行うという観点から、競技の特性や選手の能力、安全対策、戦略の実践指導について理解を深めさ せることを目的とする。

＜授業の方法＞
実技学習ではグループに分け、（1）グリッドシステム（2）チャンネルシステム（3）視聴覚機器（4）講義を取り入れ て学習する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー に(体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている)した科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本的技能の発達　　40%、実技テスト　　30%

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
授業中に適宜紹介する。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修にあたっての諸注意
2	個人スキル練習（グリッド）　Ⅰ	ハンドリング・キッキング
3	個人スキル練習（グリッド）　Ⅱ	ランニング・タックル・コンタクト
4	個人スキル練習（グリッド）　Ⅲ	ハンドリング・キッキング・ランニング・タックル・コンタクト等 ※まとめ
5	個人スキルテスト（１）	ハンドリング・キッキング
6	個人スキルテスト（２）	ランニング・タックル・コンタクト
7	個人スキルテスト（３）	コンタクト（タックル・ヒットプレー）
8	BKプレーについての講義	ビデオ鑑賞をさせBKプレーについての役割、仕組み等について
9	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅰ	BKラインの構成、ラインの作り方（オープンパス攻撃）
10	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅱ	BKラインの構成、ラインの作り方（・センタースイッチプレイ・とばしパス攻撃等）
11	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅲ	BKラインの構成、ラインの作り方(オープンパス攻撃・センタースイッチプレイ・とばしパス攻撃・FBのライン参加攻撃等)　※まとめ
12	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅰ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる（マンツーマンDF）
13	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅱ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる（マンツーマン、ドリフトDF）
14	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅲ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる(マンツーマン、ドリフト、ツメDF等)　※まとめ
15	バリエーションプレー（BK）　Ⅰ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅰ
16	バリエーションプレー（BK）　Ⅱ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅱ
17	バリエーションプレー（BK）　Ⅲ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅲ
18	オープンゲーム（実践）　Ⅰ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅰ
19	オープンゲーム（実践）　Ⅱ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅱ

20	オープンゲーム（実践） Ⅲ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅲ　※まとめ
21	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅰ	セットプレーからの攻撃（スクラム・ラインアウト・ペナルティー）
22	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅱ	モール・ラックからの攻撃（プラットホーム・ドライビングモール等）
23	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅲ	セットプレーからの攻撃（スクラム・ラインアウト・ペナルティー）モール・ラックからの攻撃（プラットホーム・ドライビングモール等）　※まとめ
24	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅰ	セットプレーからの各ポジションの役割を理解させる
25	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅱ	ラック・モールの防御法
26	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅲ	セットプレーからの各ポジションの役割を理解させるラック・モールの防御法　※まとめ
27	ゲーム（実践）　Ⅰ	FWのユニットスキルの成果を試す
28	ゲーム（実践）　Ⅱ	BKのユニットスキの成果を試す
29	ゲーム（実践）　Ⅲ	チームスキルの成果を試す
30	ゲーム（実践）　Ⅳ	FWユニット・BKユニット・チームスキルの成果を試す　※まとめ

35302

科目コード	35302				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) [ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	山本　清人		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの発展的な技術（例えば、状況に応じたプレー選択・判断など）を学ぶ。また、守備の発展技術（投球、守備）から攻撃の発展技術（打撃、走塁）などの個人技術の習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞
(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃, 安定したボ ール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 (3) 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができる。

＜授業の方法＞
実技を中心にグランドにて実習し、バッティングなど理論が必要なときは随時説明をする。　１．グループワーク（予習内容に関する確認）２．実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）　　タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。３．ディスカッション（問題提示に対する回答）４．省察活動（まとめ）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（予習）授業時間に配布された資料を読んで次回の目的・目標を設定し、具体的方法を考えてくる。（１時間）（復習）授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深めるとともに、指導方法等をまとめる。　（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は体育学科のディプロマポリシー7（体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。）と関連付けられています。ソフトボール競技を通して日常的にスポーツに親しみ、かつ楽しむことを目指し、豊かな人間性を修得するための科目であり、プレーを通して体力を向上させるとともに健康を増進させ、チームスポーツで得られる他者を尊重しこれと協同する精神、公平さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うことで思考力や判断力を実践的に活用することのできる人格を

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、予習10%、、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

＜教科書＞
＜参考書＞
財団法人日本ソフトボール協会
ソフトボール指導者教本
日本体育社株式会社
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	指導者としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
3	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	投球の発展技術　投球モーションのフォームと特徴
4	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	投球の発展技術　投球モーションのフォームと特徴
5	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	守備の発展技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲
6	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	守備の発展技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲
7	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	打撃の発展技術
8	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	打撃の発展技術

9	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	バントの発展技術　バスターの発展技術
10	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	バントの発展技術　バスターの発展技術
11	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	走塁の発展技術
12	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
13	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
14	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
15	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
16	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
17	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
18	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
19	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
20	ソフトボールの技術と指導法（発展編　上級レベル）	試合形式での守備・攻撃の実践練習
21	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
22	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
23	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
24	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
25	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
26	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察
27	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
28	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
29	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト
30	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト

35302

科目コード	35302				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) [ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	坂本　博秋		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボール競技の基礎・基本の習得はもちろんのこと、常に実戦を見据えたプレーを意識させ自己の競技力向上に努めることを狙いとする。

＜授業の到達目標＞
バレーボール競技における基礎的ルールや特性を理解し、スポーツそのものが持つ意義、そして安全に配慮しながら楽しむことを自他共に共有し活動できる力を身につける。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが必要に応じて映像、データ等を活用し理解を深めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バレーボール競技に必要な知識やスキルを各自習得し、ゲーム内容をイメージさせておくこと。(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲と授業態度 50%、 スキル習得度 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修に当たっての諸注意
2	ウエイトトレーニング１	上半身・体幹トレーニング
3	ウエイトトレーニング２	下半身・体幹トレーニング
4	プライオメトリックストレーニング	ジャンプ力強化トレーニング
5	持久走	持久力の強化
6	ゲーム分析１	ローテ別レセプションアタック
7	ゲーム分析２	ディグアタックとそのコース
8	総合練習（アタック）１	３人組コンビネーションアタック
9	総合練習（アタック）２	５人組コンビネーションアタック
10	総合練習（アタック）３	ディグからのハイセットアタック
11	総合練習（アタック）４	クイックアタックとバックロー（パイプ攻撃）
12	総合練習（アタック）５	シンクロ攻撃（ファーストテンポ）
13	総合練習（アタック）６	リバウンドからの二段攻撃
14	総合練習（ブロック）１	マンツーマンコミットブロック
15	総合練習（ブロック）２	バンチリードブロック
16	総合練習（ブロック）３	ハイセットへの対応（３枚ブロック）
17	総合練習（簡易ゲーム）１	３対３バックアタックゲーム
18	総合練習（簡易ゲーム）２	４対４シンクロアタックゲーム
19	総合練習（６人）１	レセプションアタックとリードブロック
20	総合練習（６人）２	ディグアタックとコミットブロック
21	総合練習（６人）３	フリーボールからのシンクロ攻撃（ファーストテンポ）
22	実践練習１	ゲーム形式
23	実践練習２	ゲーム形式
24	実践練習３	ゲーム形式
25	実践練習４	ゲーム形式
26	実践練習５	ゲーム形式

27	実践練習６	ゲーム形式
28	実践練習７	ゲーム形式
29	実践練習８	ゲーム形式
30	まとめ	戦術理解度の確認

35302

科目コード	35302				区　分	コア		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展)［ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ］《通年》				担当者名	森　　億		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義においては、ラグビーのルールやハンドリング・キッキング・モール・ラック・スクラム・ラインアウトなどの 基本技術（テクニック・スキル）やフィットネスの幅広い知識を教授するとともに、個人的技能のスキルアップからユニッ トスキル・チームスキルの習得へと展開する。

＜授業の到達目標＞
最終的にはゲーム形式でラグビーを実施することを目的とし、その上で 現場において指導を行うという観点から、競技の特性や選手の能力、安全対策、戦略の実践指導について理解を深めさ せることを目的とする。

＜授業の方法＞
実技学習ではグループに分け、（1）グリッドシステム（2）チャンネルシステム（3）視聴覚機器（4）講義を取り入れ て学習する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー に(体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている)した科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本的技能の発達　　40%、実技テスト　　30%

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
授業中に適宜紹介する。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修にあたっての諸注意
2	個人スキル練習（グリッド）　Ⅰ	ハンドリング・キッキング
3	個人スキル練習（グリッド）　Ⅱ	ランニング・タックル・コンタクト
4	個人スキル練習（グリッド）　Ⅲ	ハンドリング・キッキング・ランニング・タックル・コンタクト等 ※まとめ
5	個人スキルテスト（１）	ハンドリング・キッキング
6	個人スキルテスト（２）	ランニング・タックル・コンタクト
7	個人スキルテスト（３）	コンタクト（タックル・ヒットプレー）
8	BKプレーについての講義	ビデオ鑑賞をさせBKプレーについての役割、仕組み等について
9	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅰ	BKラインの構成、ラインの作り方（オープンパス攻撃）
10	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅱ	BKラインの構成、ラインの作り方（・センタースイッチプレイ・とばしパス攻撃等）
11	BKプレーの練習（オフェンス）　Ⅲ	BKラインの構成、ラインの作り方(オープンパス攻撃・センタースイッチプレイ・とばしパス攻撃・FBのライン参加攻撃等)　※まとめ
12	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅰ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる（マンツーマンDF）
13	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅱ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる（マンツーマン、ドリフトDF）
14	BKプレーの練習（ディフェンス）　Ⅲ	ディフェンスにおける基本理念や種類を理解させる(マンツーマン、ドリフト、ツメDF等)　※まとめ
15	バリエーションプレー（BK）　Ⅰ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅰ
16	バリエーションプレー（BK）　Ⅱ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅱ
17	バリエーションプレー（BK）　Ⅲ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等)　Ⅲ
18	オープンゲーム（実践）　Ⅰ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅰ
19	オープンゲーム（実践）　Ⅱ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅱ

20	オープンゲーム（実践） Ⅲ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる　Ⅲ　※まとめ
21	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅰ	セットプレーからの攻撃（スクラム・ラインアウト・ペナルティー）
22	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅱ	モール・ラックからの攻撃（プラットホーム・ドライビングモール等）
23	FWプレーの練習（オフェンス）　Ⅲ	セットプレーからの攻撃（スクラム・ラインアウト・ペナルティー）モール・ラックからの攻撃（プラットホーム・ドライビングモール等）　※まとめ
24	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅰ	セットプレーからの各ポジションの役割を理解させる
25	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅱ	ラック・モールの防御法
26	FWプレーの練習（ディフェンス）　Ⅲ	セットプレーからの各ポジションの役割を理解させるラック・モールの防御法　※まとめ
27	ゲーム（実践）　Ⅰ	FWのユニットスキルの成果を試す
28	ゲーム（実践）　Ⅱ	BKのユニットスキの成果を試す
29	ゲーム（実践）　Ⅲ	チームスキルの成果を試す
30	ゲーム（実践）　Ⅳ	FWユニット・BKユニット・チームスキルの成果を試す　※まとめ

35302

科目コード	35302				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) [ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	前田　誠一		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ハンドボールは運動の３要素といわれる走・跳・投がすべて入っているダイナミックでスピード感のあるチームボールゲームである。また攻撃した後、すぐ防御する必要があり攻防の激しさと個人技術、個人戦術をどのタイミングで駆使していくかその使い分け判断力が 要求される競技である。ハンドボールに関する専門的知識と実践力を養成する。

＜授業の到達目標＞
ゲームに必要なトレーニングをはじめ基礎技術（攻防）、チーム戦術の立て方等などの指導法を実戦を通して身につけさせる。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、 ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。〈予習事項〉次回のj授業テーマ（あるいは教員が示すキーワード）について、テキスト、Web、参考文献等を通して、事前に自分の意見をまとめ、討論に備えておく。（1時間程度）※簡易レポートの提出を含む〈復習事項〉授業内容（講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかった

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

＜教科書＞
＜参考書＞
笹倉清則（2003）
「Tactics of Handba in The Word」
財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治（2012）
「基本が身につく　ハンドボール　練習メニュー200」
池田書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスと復習	授業の内容、すすめ方説明、ハンドボールの攻防とは
2	基礎技術・オフェンス（1）	攻防の技術（動作）づくり
3	基礎技術・オフェンス（2）	個人攻撃技術（状況判断、間合い、スタンス他）
4	基礎技術・オフェンス（3）	個人攻撃技術（ストップ、フェイク、ドリブル、シュート）
5	基礎技術・ディフェンス（1）	個人技術（詰めのタイムング、方向の読み、位置取り）
6	基礎技術・ディフェンス（2）	個人技術（ボールプレシャー、シュートカット、ブロック）
7	基礎技術・ゴールキーパー	ゴールキーパーの特性とゴールキーピングの技術、動作
8	攻撃戦術（1）指導方法	防御体型に対する攻撃.指導法、集団的機能
9	攻撃戦術（2）指導方法	第１局面～第２局面への展開、集団的機能
10	攻撃戦術（3）指導方法	第３局面（攻撃のきっかけづくり）、集団的機能
11	攻撃戦術（4）指導方法	第４局面（各種戦術の使い分け）、集団的機能
12	攻撃戦術（5）指導方法	数的状況における攻撃（数的優勢、数的劣勢）、集団的機能
13	防御戦術（1）指導方法	各種攻撃スタイルに対する防御戦術.指導法
14	防御戦術（2）指導方法	第１局面　帰陣（速攻に対する防御）、集団的機能
15	防御戦術（3）指導方法	第２局面　臨時ゾーンの防御、集団的機能
16	防御戦術（4）指導方法	第３局面　防御の組み立て、集団的機能
17	防御戦術（5）指導方法	第４局面　防御のシステム、集団的機能
18	防御戦術（6）指導方法	数的状況における防御（数的優勢、数的劣勢）、集団的機能

19	指導者養成の考え方	ジュニアー期から発達段階に応じての組織的プログラムの計画
20	指導者の役割	指導者の在り方、指導者像
21	ハンドボールの一貫指導（1）	競技者育成プログラムとスポーツ指導者養成
22	ハンドボールの一貫指導（2）	スポーツ振興基本計画と指導システムの構築
23	ハンドボール指導計画（1）	指導計画の立案（個人・集団指導）
24	ハンドボール指導計画（2）	練習計画の実施。評価
25	スキル評価と実際（1）	ゲーム実施．課題と修正（個人スキル、チーム評価）（1）
26	スキル評価と実際（2）	ゲーム実施．課題と修正（個人スキル、チーム評価）（2）
27	スキル評価と実際（3）	ゲーム実施．課題と修正（個人スキル、チーム評価）（3）
28	ゲームとレフエリング（1）	ゲームの実施．審判の実践と審判員の任務（1）
29	ゲームとレフエリング（2）	ゲームの実施．審判の実践と審判員の任務（2）
30	まとめ	ハンドボールの攻防総括

35302

科目コード	35302				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展) [ｻｯｶｰ] 《通年》				担当者名	桂　秀樹		
配当年次	3	配当学期	集中	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サッカーは世界で一番盛んなスポーツと言われている。それは、ボール1つあれば「いつでも・どこでも・誰とでも」プレーができる極めてシンプルなスポーツだからである。そのサッカーに対する理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
チームスポーツ指導理論・Ⅰ（基礎）～Ⅱ（応用）で学んだことをもとに、各内容についてより深く考察し発展させていく。そして、実践を通してチームスポーツに必要な心技体を獲得させると共に、指導法について多角的に検討し、目的やテーマに応じた指導ができるよう、実践的技能を習得していくことを目的とし授業を行う。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが、資料・映像等も必要に応じて活用し、技術・戦術や指導法についての講義授業も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するサッカーの技術・戦術・指導に関する書籍・DVDを参照し、毎時間課される次週課題について1時間の予習。毎時間課 され る授業課題について1時間の復習にあてる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を養成する科目である。3年次生に対し、チームスポーツの専門的知識と技能を学ぶことを通してチームスポーツに対する理解を深め、指導や改善方法を考案することができるようにする。チームスポーツ指導理論・実習Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）を発展させる科目であり、Ⅳ（実践）と関連する科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲20%、技術・戦術・ゲームの内容理解度 40%、専門的理解度40%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業内容の説明、導入
2	サッカーの特性と歴史	サッカーの概要と歴史、ルールの変革
3	現代サッカーの特徴	世界と日本のサッカーの傾向と特徴
4	コーチングの発展（1）	競技者とのコミュニケーション
5	コーチングの発展（2）	競技者のモチベーションを高める
6	コーチングプラン（1）	シーズン全体のプランニング
7	コーチングプラン（2）	シーズンに向けてのプランニング
8	コーチングプラン（3）	シーズン中の中期的プランニング
9	コーチングプラン（4）	シーズン中の月間プランニング
10	コーチングプラン（5）	シーズン中の週間プランニング
11	コーチングプラン（6）	トレーニングプラン
12	コーチングプラン（7）	オフシーズン中のプランニング
13	テクニックの指導（1）	ボールタッチ、ボールコントロールの指導
14	テクニックの指導（2）	各種キック、パスの指導
15	テクニックの指導（3）	ドリブル、フェイントの指導
16	ボールポゼッションの指導（1）	３対１、４対１、４対２などのボールポゼッションの指導
17	ボールポゼッションの指導（2）	６対４、７対４などのボールポゼッションの指導
18	個人戦術の指導（1）	個人の守備戦術の指導
19	個人戦術の指導（2）	個人の攻撃戦術の指導
20	グループ戦術の指導（1）	２対１、２対２の指導
21	グループ戦術の指導（2）	３対２、３対３の指導
22	グループ戦術の指導（3）	４対３、５対４の指導
23	チーム戦術の指導（1）	チームとしての守備戦術の指導
24	チーム戦術の指導（2）	チームとしての攻撃戦術の指導

25	ゲームのコーチング（1）	ゲームの準備
26	ゲームのコーチング（2）	ゲーム中の状況分析
27	ゲームのコーチング（3）	映像を使ったゲーム分析
28	競技者の評価	競技者を評価する項目
29	コーチングの評価（1）	プログラムの評価
30	コーチングの評価（2）	指導実践の評価

35302

科目コード	35302				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅲ(発展)［硬式野球］《通年》				担当者名	金　無英		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
チームスポーツ指導理論実習Ⅰ～Ⅱで学習したことをもとに、さらに深く考察を加え、発展させていく。そして、実践の中でチームスポーツに関わる技術を高め、指導法について多角的に検討し、目標やテーマに応じた指導を行うことができる実践的技能を身につける。

＜授業の到達目標＞
技術力を高めるための効果的な指導のあり方、および評価方法についての理解を深めると同時に、ミーティングにより最終的な目標や方針などを理解し、実践的指導力を高める。

＜授業の方法＞
実習形式で行う。講義、映像教材を用いての分析・解説も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自の課題解決に取り組む。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力を養成するための発展的科目であり、三年次生に対し、深い専門性と実践力を身に付けた人材の育成を目指すものである。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲　20%、技術・戦術・ゲームの内容・理解度　40%、専門的理解度　40%｜受講態度とスキル習得度を総合的に判断して評価する。｜

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	服装、心構え、評価などの説明
2	チームスポーツの特性	授業内容の説明、映像教材視聴
3	ウォーミングアップ	ランニング、ストレッチ、体幹トレーニング
4	打撃理論１	構え方、スタンス
5	打撃理論２	スイング
6	打撃理論３	タイミングの取り方
7	打撃理論４	正しいティー打撃、トス打撃
8	打撃理論５	変化球の打撃
9	打撃理論６	実践による打撃（シートバッティング）
10	打撃理論７	実践による打撃（ケースバッティング）
11	打撃理論８	犠打（送りバンド）
12	打撃理論９	犠打（スクイズバンド）
13	打撃理論10	作戦（ヒットエンドラン・ランエンドヒット）
14	投球理論１	ワインドアップ
15	投球理論２	リフトアップ
16	投球理論３	ステップ（ヒップファースト～踏み足の着地）
17	投球理論４	テイクバック～バックトップ～トップ
18	投球理論５	リリース（腕の回旋・グラブの使い方）
19	投球理論６	フォロースルー
20	投球理論７	ストレートの投げ方
21	投球理論８	変化球の投げ方・重要性
22	投球理論９	フィールディング・牽制の重要性
23	投球理論10	打者心理・配球について
24	投球理論11	実践による投球（シートバッティング）
25	投球理論12	実践による投球（ケースバッティング）
26	リーグ戦	試合・運営方法の学習

27	トーナメント戦	試合・運営方法の学習
28	発表	プレゼンテーション
29	到達度の確認	レポート作成
30	総括	ルール、技術、指導理論、審判法

32422

科目コード	32422				区　分	コア科目		
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅲ(発展)［ﾏｰﾁﾝｸﾞ］《通年》				担当者名	中家　淳悟		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅱで学んだことから発展させた技術を身につけ、理論を学び、実習で実技技能を身につけ指導理論の発展形を身につけ様々な表現方法について発展的なアプローチを学ぶ。

＜授業の到達目標＞
マーチングの応用を発展させた知識や動作、各楽器の発展的な技術・指導力を身につける。

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（応用を発展させた効果的な練習方法の提案）・フィールドワーク（発展的な練習方法の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（発展的な練習方法を生かした作品作り）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマポリシー６（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている）と関連付けられている。「様々な表現を理解し豊かな人間性とコミュニケーション能力を備えた人」を育成するための発展科目であり、２年次配当の「音楽表現指導理論・実習Ⅱ」のステップ履修科目でもある。実習を通して、多様な音楽表現について発展的な理解を深め、技術を習得し、指導理論を習得し音楽表現の高度で発展的なアプローチに取り組む機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30%、実技技能達成度 70%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の演奏表現技術（１）	楽曲を用いた演奏表現技術（スローテンポ）
3	管楽器の演奏表現技術（２）	楽曲を用いた演奏表現技術（ミドルテンポ）
4	管楽器の演奏表現技術（３）	楽曲を用いた演奏表現技術（ハイテンポ）
5	管楽器の演奏表現技術（４）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の４拍子）
6	管楽器の演奏表現技術（５）	楽曲を用いた演奏表現技術（4分の３拍子）
7	管楽器の演奏表現技術（６）	楽曲を用いた演奏表現技術（8分の６拍子）
8	打楽器の演奏表現技術（１）	楽曲を用いた演奏表現技術（スネアードラム）
9	打楽器の演奏表現技術（２）	楽曲を用いた演奏表現技術（テナードラム）
10	打楽器の演奏表現技術（３）	楽曲を用いた演奏表現技術（バスドラム）
11	打楽器の演奏表現技術（４）	楽曲を用いた演奏表現技術（マリンバ）
12	打楽器の演奏表現技術（５）	楽曲を用いた演奏表現技術（ビブラフォン）
13	打楽器の演奏表現技術（６）	楽曲を用いた演奏表現技術（ドラムセット）
14	カラーガードの演技表現技術（１）	フラッグを使った演技表現技術（スローテンポ）
15	カラーガードの演技表現技術（２）	フラッグを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
16	カラーガードの演技表現技術（３）	フラッグを使った演技表現技術（ハイテンポ）
17	カラーガードの演技表現技術（４）	セーバーを使った演技表現技術（スローテンポ）
18	カラーガードの演技表現技術（５）	セーバーを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
19	カラーガードの演技表現技術（６）	セーバーを使った演技表現技術（ハイテンポ）
20	カラーガードの演技表現技術（７）	ライフルを使った演技表現技術（スローテンポ）
21	カラーガードの演技表現技術（８）	ライフルを使った演技表現技術（ミドルテンポ）
22	カラーガードの演技表現技術（９）	ライフルを使った演技表現技術（ハイテンポ）
23	マーチングの動作表現技術（１）	ドリルの中での演技表現技術（スローテンポ）
24	マーチングの動作表現技術（２）	ドリルの中での演技表現技術（ミドルテンポ）
25	マーチングの動作表現技術（３）	ドリルの中での演技表現技術（ハイテンポ）

26	マーチングの動作表現技術（４）	ドリルの中での演技表現技術（ホーンムーブ）
27	マーチングの動作表現技術（５）	ドリルの中での演技表現技術（ボディーワーク）
28	マーチングの動作表現技術（６）	ドリルの中での演技表現技術（キャラクター）
29	マーチングの動作表現技術（７）	ドリルの中での演技表現技術（コンビネーション）
30	総括	授業のまとめ

53031

科目コード	53031				区　分	キャリア形成科目			
授業科目名	整復臨床実習Ⅱ　《通年》				担当者名	飯出　一秀、古山　喜一、河野　儀久、坂本　賢広、簀戸　崇史			
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。また、掃除、洗濯、湿布作りなどの業務に付帯する各種業務も行う。柔道整復師に必要な教養や判断力、技術などの修得を目標とし総合的な臨床能力を養う。必要に応じて、ケーススタディー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に傷病は何であるか、さらに今後の施術方針などを検討する。ロールプレー実習・附属臨床実習施設の患者情報を元に、患者様入室から施術開始までの流れを　柔道整復師役、患者役に分けてそれぞれ実施することも行う。

＜授業の到達目標＞
柔道整復師として必要条件となる接骨院での評価、評価に基づく患者様への説明、施術の組み立てが出来る。整復・固定・施療とともに後療法をプログラミングし、リスクマネージメントが実行できる。

＜授業の方法＞
基本的に接骨院でのフィールドワークとするが、導入講義等は講義室・実技室を使用する。・白衣の乱れ、服装、頭髪、装飾品など患者様から見て不適切な印象を与えると思われる場合には実習の参加を認めないことがある。・また、実習中の態度が悪く患者様に迷惑をかける恐れがある場合は実習を中止することがある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科ディプロマポリシー７に関連付けられている「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」を備え、整復臨床実習Ⅲにスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習レポート80％および実習現場での受講態度・学習意欲20％で評価する。

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか1
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
17	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

20	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
21	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
29	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	髙﨑　展好		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールは、音楽表現の可能性、有効性について研究及び実践を行います。音楽表現及び芸術制作による学内外での研究発表を通して、専門性に裏付けられた技能、技術はもとより、豊かな創造性、表現活動から生じる表現力やコミュニケーション力を養います。これらをどのように保育・教育現場で活用できるかを考察、研究を行う。

＜授業の到達目標＞
ゼミナール学生全員で演奏制作研究及び研究発表（コンサート）を行います。企画・計画・運営に関する実践力を身につけ学内外での研究発表を以って研究作品を創り上げることを目標とする。上記目標を達成するために、ゼミナールⅡ（応用）では、より専門性を追求した合唱や器楽合奏を通した演奏表現研究を行い、知識、技術、技能の修得及び、音楽表現の可能性、有効性を明らかにする。ゼミ論文、または、芸術制作研究発表を最終評価とする。

＜授業の方法＞
学生が主体となって様々な音楽表現研究、演奏表現活動を行う。音楽を愛好する心情と積極的な活動の取組み、参加意欲が求められる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究作品制作、研究発表に支障が出ないよう準備や練習などを授業時間外での取組みが必要とされる。配布された楽譜等の読譜の予習 60分以上、授業で取り組んだ研究作品の復習 60分以上（必要に応じて補講を行う場合もある）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
こども発達学科のディプロマ・ポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、国際的でグローバルな保育者・教育者・指導者の養成」のための科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、作品制作への取組み姿勢 30%、ゼミ論文または芸術制作研究発表（ゼミ論発表含む）40%

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
特になし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的、内容、授業方法、評価の仕方について理解する。
2	研究指導１	研究テーマの検討・設定研究作品制作指導
3	研究指導２	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
4	研究指導３	研究作品制作技術指導
5	研究指導４	研究作品制作技術指導
6	研究指導５	研究作品制作技術指導
7	研究指導６	研究作品制作技術指導
8	研究指導７	研究作品制作技術指導
9	研究指導８	研究発表に向けた研究指導
10	研究指導９	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導１０	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導１１	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導１２	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導１３	研究発表に向けた研究指導及び準備
15	前期研究発表	研究作品の学内外での発表（コンサート）
16	研究指導１４	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
17	研究指導１５	研究発表の企画、計画の立案研究作品制作指導
18	研究指導１６	研究作品制作技術指導
19	研究指導１７	研究作品制作技術指導
20	研究指導１８	研究作品制作技術指導
21	研究指導１９	研究作品制作技術指導

22	研究指導２０	研究作品制作技術指導
23	研究指導２１	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導２２	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導２３	研究発表に向けた研究指導及び準備
26	研究指導２４	研究発表に向けた研究指導及び準備
27	研究指導２５	研究作品の学内外での発表（コンサート）
28	研究指導２６	ゼミ論発表に向けたスライド作成
29	後期研究発表	ゼミ論発表に向けたスライド発表
30	総括	本講義（２年間）のまとめ

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	後藤　由佳		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「ゼミナールⅡ(応用)」は、本学卒業必修科目である。「子どもの心に寄り添う保育」について考えることのできる保育者の育成をねらいとしていく。そのためにはまず、自然やもの、人の面白さや不思議さ、美しさなどに感動する心を育むことをねらいとする。子ども達と製作を行い、よりよい造形活動の在り方とはどのようなものかを学んでほしい。子どもが瞳を輝かせて取り組めるような造形活動やその活動の具体的な援助方法を考えるという作業を通して、保育士や幼稚園教諭に必要な「心に寄り添う」表現や技術の養成をしたいと考えている。

＜授業の到達目標＞

造形表現を中心とした保育・幼児教育に関する専門知識と技術を身につけている。

＜授業の方法＞

準備学習(予習・復習)の確認においてはデジタル(Classroom)活用する。アクティブ・ラーニングの要素(ディスカッション、グループワーク、フィールドワーク等)を取り入れ、作品制作、美術館鑑賞、子どもの行事企画運営、学会参加等の実践活動により授業を進める。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業時間外で必要な作品作りや論文作成等に取り組むなど、準備学習(90分程度)を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

こども発達学科のディプロマポリシー「豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多面的な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、グローバルな保育者養成育成を目指す」ための科目である。⑦(主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネシ?メント能力と生涯学習力を身に付けている。)と⑧(広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける。)とに関連付けられています。豊かなコミュニケー

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

演習への取り組み姿勢と受講態度、受講意欲 50%　（積極性・協調性・相互促進性など）課題(作品・ゼミ論文)、発表等 50%

＜教科書＞

特に指定なし

＜参考書＞

村田夕紀
楽しい"造形"がいっぱい　2・3・4・5歳児の技法あそび実践ライブ
ひかりのくに
村田夕紀
まずは絵あそびから始めよう！3・4・5歳児の楽しく絵を描く実践ライブ
ひかりのくに
村田夕紀低年齢児が夢中になる遊びがいっぱい！0・1・2歳児の造形あそび実践ライブ
ひかりのくに

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標と注意事項、成績評価法、実践活動について説明する。
2	こども発達学科・ゼミナール理解	4年生一年間の履修確認を行い、目標設定をする。
3	こども発達学科・ゼミナール理解	クラス内の相互理解を図る。
4	造形表現の教材研究(1)	地域の美術館について調べる。
5	造形表現の教材研究(2)	美術館鑑賞①
6	造形表現の教材研究(3)	作品を制作する。
7	造形表現の教材研究(4)	作品を制作する。
8	造形表現の教材研究(5)	作品を制作する。
9	造形表現の教材研究(6)	作品を制作する。
10	造形表現の教材研究(7)	作品提出と鑑賞会
11	プレゼンテーションとは	役割りとその具体的な内容の確認
12	プレゼンテーション作成	発表内容のプレゼンテーション作成
13	プレゼンテーションに挑戦しよう	プレ発表
14	ゼミナール活動報告会	報告会に出席し、発表する。

15	前期総括	前期の振返りと夏季休暇、保育・教育実習について
16	後期の目標設定	後期の履修確認を行い、目標設定を行う。
17	造形表現の教材研究(8)	美術館鑑賞②
18	論文の読み方(1)	先行研究論文を検索する。
19	論文の読み方(2)	先行研究論文の読み方
20	論文の書き方(1)	ゼミ論文の題目を決定する。
21	論文の書き方(2)	ゼミ論文を作成する。
22	論文の書き方(3)	ゼミ論文を作成する。
23	中間発表	ゼミ論文中間発表会に出席し、発表をするとともに、他の学生の発表には質問をしたり感想を述べたりする。
24	論文の書き方(4)	ゼミ論文を作成する。
25	論文の書き方(5)	ゼミ論文を作成する。
26	論文の書き方(6)	役割りとその具体的な内容の確認
27	論文の書き方(7)	発表内容のプレゼンテーション作成
28	プレ発表会に挑戦しよう	プレ発表
29	ゼミナール論文発表会	ゼミ論文発表会に出席し、発表する。
30	全体総括	4年生の一年間と大学生生活を振返りる。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	酒井　健太朗		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

「哲学」と聞いてどのようなことを思い浮かべるだろうか？「難しい」？あるいは「役に立ちそうもない」？哲学についてしばしば提出されるこの２つの見解（もちろんこれらだけには限らないのだが）は、哲学の持つ特質に依拠している。すなわち、哲学はあらゆる学問の中でも一二を争うほど抽象的な思考能力を必要とするのである。この抽象性のゆえに、たしかに哲学の議論はしばしば「難解」であり、また「役に立ちそうもない」という印象を持たれるのであろう。しかし、哲学が抽象的な思考能力を必要とすることは、必ずしも、それの対象とするトピック

＜授業の到達目標＞

（１）文献の内容を精確に読解できる。（２）他者の意見を十全に理解することができる。（３）自身の理解したことを他者にわかりやすく伝えることができる。　（４）哲学的思考力を用いて現実的問題を考察しようとする態度を持つことができる。

＜授業の方法＞

文献の講読を行う。毎回１人の担当者を決めレジュメを切ってきてもらう。そのレジュメに基づき議論を行い、文献の内容についての理解を深めることを通じて哲学的思考力を養う。なお、使用する文献は参加者の興味関心に応じて初回の授業時に決定する。　課題管理についてはGoogle Classroomを用いる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前学習：担当者がレジュメを切るための準備を行うのはもちろんであるが、担当者以外も文献を熟読し内容を理解したうえで質問等を考えておく。（1-2時間）事後学習：当日の議論の内容、その議論の結果さらに生じた疑問点などについて各自でまとめておく。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目はこども発達学科ディプロマポリシー⑦（主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネジメント能力と生涯学習力を身に付けている）と⑧（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に関連付けられています。テクストを購読しその内容について議論を行うことは、この両者に非常に深く関わっています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

議論への積極的な参加等の授業内評価 50%、レポート 50%。

＜教科書＞

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	イントロダクション	哲学的思考と現実的問題の関係について考察するための準備を行う
2	文献講読1	教育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
3	文献講読2	教育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
4	文献講読3	保育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
5	文献講読4	保育と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
6	文献講読5	こどもと哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
7	文献講読6	こどもと哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
8	ゼミ論文執筆講座（基礎）	成績評価に必要なゼミ論文の執筆方法の基礎的な部分の解説
9	文献講読7	美術と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
10	文献講読8	美術と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
11	文献講読9	音楽と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
12	文献講読10	音楽と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
13	文献講読11	法律と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
14	文献講読12	法律と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
15	ゼミ前半のまとめ	ゼミ前半のまとめを行う
16	文献講読13	キリスト教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
17	文献講読14	キリスト教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
18	文献講読15	ユダヤ教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
19	文献講読16	ユダヤ教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
20	文献講読17	イスラム教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
21	文献講読18	イスラム教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う

22	文献講読19	仏教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
23	ゼミ論文執筆講座（応用）	仏教と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
24	文献講読20	成績評価に必要なゼミ論文の執筆方法の応用的な部分の解説
25	文献講読21	道徳と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
26	文献講読22	道徳と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
27	文献講読23	倫理と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に文献を読む
28	文献講読24	倫理と哲学の関係について、担当者のレジュメを中心に議論を行う
29	文献講読25	これまで行ってきた文献購読について獲得した知見を、担当者ごとに発表する
30	ゼミ全体のまとめ	ゼミ全体のまとめを行う

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	中井　和弥		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、実証科学の方法論を学ぶ。研究テーマについては、実証科学に準拠するものであれば心理学や保育学，教育学に関連することにとどまらず多様なテーマを歓迎している。

＜授業の到達目標＞
心理学的な視点から、子どものさまざまな課題を捉える。課題に対してエビデンス等客観的な視点を持って取り組み理解を深める。研究するための方法（資料の集め方やまとめ方、研究計画の立て方、調査や実験等の方法、分析、考察等）、論文の書き方の基本を学んだ後、テーマを決めて論文にまとめる。

＜授業の方法＞
学生が自分の関心にそって研究テーマを決め、資料を集めて整理し発表する。授業は発表とテーマにそったディスカッションが中心となり、学生には自ら学ぶ主体性が必要である。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマにそって資料を集めて整理する。授業内で指示する課題についてレポートを作成する。（予習１時間）　授業内のディスカッションの要点をまとめる。（復習１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
　こども発達学科のディプロマ・ポリシー７「主体的に自己の学習を振り返り、セルフマネシ?メント能力と生涯学習力を身に付けている」と、ディプロマ・ポリシー８「広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける」を習得するための授業である。|

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度　20%|課題の提出と内容　30%、|研究論文（発表も含めて）50%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業のすすめ方
2	研究指導1	研究テーマの検討・設定
3	研究指導2	研究テーマの検討・設定
4	研究指導3	研究テーマの検討・設定
5	研究指導4	研究テーマの検討・設定
6	研究指導5	研究のための資料整理
7	研究指導6	研究のための資料整理
8	研究指導7	研究のための資料整理
9	研究指導8	研究のための資料整理
10	研究指導9	研究発表に向けた研究指導
11	研究指導10	研究発表に向けた研究指導
12	研究指導11	研究発表に向けた研究指導
13	研究指導12	研究発表に向けた研究指導
14	研究指導13	研究発表準備
15	中間研究発表	研究のアウトライン、研究史等、研究の中間発表。
16	研究指導14	研究方法について
17	研究指導15	研究方法について
18	研究指導16	研究方法について
19	研究指導17	研究発表に向けた研究指導
20	研究指導18	研究発表に向けた研究指導
21	研究指導19	研究発表に向けた研究指導
22	研究指導20	研究発表に向けた研究指導
23	研究指導21	研究発表に向けた研究指導
24	研究指導22	研究発表に向けた研究指導
25	研究指導23	研究発表に向けた研究指導
26	研究指導24	研究発表に向けた研究指導

27	研究指導25	研究発表準備
28	研究指導26	研究発表準備
29	後期研究発表	研究結果を発表する
30	研究発表	研究結果を発表する

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木下　祥一		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、ゼミナールⅠに引き続き、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、ゼミナールⅠで発見した課題・問題の課題解決を図っていくことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心に展開する。2つ目は、社会人に求められる教養と実践力を養成し、現代の課題・問題を自ら解決する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目はゼミナールⅠに引き続き、社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な専門的知識を活用できるようになる。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題・問題を自ら解決できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに実践力養成に向けた講座を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツ科学の専門的知識を獲得及び活用に必要な調査・研究時間（4時間）。実践力養成に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー8「体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付けている」と関連付けられている。3年次配当ゼミナールⅠにて身につけた基礎的知識や専門的知識をベースに体育・スポーツ科学における課題・問題の解決に取り組める力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実践力養成を目指したキャリア教育にかかわる課題 50%。最終課題　50%。

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(1)	教師力養成に向けた講座(1) 学校教育の現状と展望
2	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(2)	教師力養成に向けた講座(2) 体育を専門とする教員に求められる専門性とその可能性
3	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(3)	教師力養成に向けた講座(3) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
4	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(4)	教師力養成に向けた講座(4) 国内外の授業方法の発展と現在（生徒指導を中心に）
5	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(5)	教師力養成に向けた講座(5) 教職のキャリア開発（養成・採用・研修の実際と課題）
6	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(6)	公務員養成に向けた講座(1) 一般行政系公務員の職務と専門性
7	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(7)	公務員養成に向けた講座(2) 一般行政系公務員の職務と専門性
8	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(8)	公務員養成に向けた講座(3) 公安系公務員（消防）の職務と専門性
9	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(9)	公務員養成に向けた講座(4) 公安系公務員（警察）の職務と専門性
10	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(10)	公務員養成に向けた講座(5) 公安系公務員（自衛官）の職務と専門性
11	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(11)	企業人養成に向けた講座(1) 業種・業界の研究

12	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(12)	企業人養成に向けた講座(2) 職種・職務の研究
13	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(13)	企業人養成に向けた講座(3) 外資系企業の研究
14	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(14)	企業人養成に向けた講座(4) 体育・スポーツ系の業種・業界の研究
15	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(15)	企業人養成に向けた講座(5) 体育・スポーツを学んだ者の強みと弱点
16	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(16)	実践力養成に向けた講座(1)
17	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(17)	実践力養成に向けた講座(2)
18	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(18)	実践力養成に向けた講座(3)
19	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(19)	実践力養成に向けた講座(4)
20	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(20)	実践力養成に向けた講座(5)
21	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(21)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(1) 一般企業での体験活動
22	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(22)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(2) 消防学校での体験活動
23	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(23)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(3) 中・高等学校教育の観察参与
24	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(24)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(4) スポーツ業界の学内インターンシップ
25	体育・スポーツ科学をベースとしたキャリア教育(25)	基礎的知識・専門的知識を活用した体験学習(5) 体験活動の振り返りと総括
26	キャリア教育のまとめ(1)	2年間のキャリア教育を通じた総括(1) 2年間で実施した内容の振り返り
27	キャリア教育のまとめ(2)	2年間のキャリア教育を通じた総括(2) 卒業後の進路の現状と展望の確認
28	キャリア教育のまとめ(3)	2年間のキャリア教育を通じた総括(3) 体育・スポーツを学んだ意義と今後のキャリアの接点の確認
29	キャリア教育のまとめ(4)	2年間のキャリア教育を通じた総括(4) 将来のキャリアの展望と現在の課題の確認
30	全体のまとめ	2年間のゼミナールを通じた総括

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	早田　剛		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する．また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する．

＜授業の到達目標＞
本授業の目的は、研究論文の構成を理解すること、論文検索ができるようになり、その内容を精査できるようになることとしている．更に理解した内容を人に分かりやすくプレゼンテーションができるようになることも目標としている．

＜授業の方法＞
グループにて興味関心のある分野に関連する情報を収集し，仮説に対する研究を行い，ゼミ論文をまとめていく。その後、論文に対する分かりやすいプレゼンテーションを作成し準備していく．

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら，各進捗を発表資料にまとめる（約２時間）。発表資料に対する今後の対策についてを自分の考えをまとめる（約30分）．最終的にはゼミ論文としてまとめる．

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
「大学・学部・学科の人材養成の目的に従って、豊かな人間性を備え、 柔道整復分野の教育研究を通じて社会に貢献ができ、また 柔道整復分野のリーダーとして活躍できる指導者・教育者の養成力」を育成する科目である．4年次生に対して研究・実践教育を通じて医療・健康に関わる従事者としての論理的な思考を深めるための機会を提供する．

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30%、ゼミ論文達成度 70%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅠにおける年間の進行方法について
2	健康増進活動（１）	理想の健康増進活動について
3	健康増進活動（２）	フレイル・サルコペニア
4	健康増進活動（３）	ロコモティブシンドローム
5	健康づくりに関する先行研究（１）	健康づくり教室の目的
6	健康づくりに関する先行研究（２）	健康づくり教室の実践①
7	健康づくりに関する先行研究（３）	健康づくり教室の実践②
8	健康づくりに関する先行研究（４）	筋力トレーニング
9	健康づくりに関する先行研究（５）	有酸素トレーニング
10	健康づくりに関する先行研究（６）	脳トレーニング
11	健康づくりに関する先行研究（７）	ニュースポーツによるトレーニング
12	測定と評価（１）	体格と筋力の関係について
13	測定と評価（２）	競技における傷害の特徴について
14	測定と評価（３）	傷害調査方法について
15	中間まとめ	中間発表
16	計測（１）	検査・測定演習（１）
17	計測（２）	検査・測定演習（２）
18	運動器疾患（１）	運動器疾患の概要について
19	運動器疾患（２）	運動器疾患（骨疾患）について
20	運動器疾患（３）	運動器疾患（筋疾患）について
21	運動器疾患（４）	運動器疾患（神経疾患、その他疾患）について
22	リハビリテーション（１）	リハビリテーションについて
23	リハビリテーション（２）	リハビリテーション計画作成について

24	運動器疾患に対する評価演習（1）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の先行研究について調査報告
25	運動器疾患に対する評価演習（2）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定の実施計画について検討会
26	運動器疾患に対する評価演習（3）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習
27	運動器疾患に対する評価演習（4）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する評価・測定実習データの処理方法について
28	運動器疾患に対する評価演習（5）	各種テーマに沿った運動器疾患のリハビリテーションに関する評価・測定結果と先行研究との比較
29	運動器疾患に対する評価演習（6）	各種テーマに沿った運動器疾患やリハビリテーションに関する調査発表（1）
30	最終発表	今までまとめた研究成果を発表する

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	保科　圭汰			
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し､体育･スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに､各自、社会人としての適性や課題を見極め、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのため本科目は、2つの内容によって構成される。1つ目は、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした内容である。2つ目は、社会人に求められる必要最低限の教養を身につけ、自らの現状を評価して課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求する内容である。

＜授業の到達目標＞
本科目における学習を通して社会人に求められる知識、技能、能力や態度を育成していく。到達目標は、１．自身の適性を確認し、学び続ける態度を育成する。２．体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得する。３．自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につける。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
取り組み姿勢と受講態度・意欲 30%、課題達成度 70%

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールの目的と進め方
2	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（1）	身体組成の測定
3	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（2）	身体組成の測定
4	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（3）	エネルギー消費量の測定
5	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（4）	エネルギー消費量の測定
6	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（5）	栄養調査の方法
7	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（6）	栄養調査の実践
8	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（7）	栄養調査の実践
9	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（8）	栄養調査の実践
10	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（9）	栄養調査の実践発表
11	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（10）	献立の作成
12	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価	献立の作成

	（11）	
13	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（12）	献立の作成
14	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（13）	調理実習
15	スポーツ栄養学・健康科学の測定・評価（14）	献立作成・調理実習のまとめ
16	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究（１）	文献の探し方・読み方
17	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(2)	論文抄読（１）
18	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(3)	論文抄読（2）
19	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(4)	論文抄読（3）
20	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(5)	論文抄読（4）
21	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(6)	文献研究のまとめ（１）
22	スポーツ栄養学・健康科学の文献研究(7)	文献研究のまとめ（2）
23	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（１）	研究計画の作成（１）
24	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（2）	研究計画の作成（2）
25	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（3）	研究計画の発表
26	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（4）	研究計画の考察
27	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（5）	実験・測定・調査の実施
28	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（6）	実験・測定・調査のデータ分析
29	スポーツ栄養学・健康科学の実験・測定・調査（7）	実験・測定・調査のデータ発表
30	全体のまとめ	ゼミナールⅡの総括と課題発表

55008

科目コード	55008				区　分	キャリア形成科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	長谷　浩也			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。classroomを使用しての意見交流なども積極的に実施する。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じて個別指導を行うこともある。課題提出などはclassroomを使用し展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本演習の成果は、教育経営学科のディプロマポリシーとして示された資質・能力のうち、現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力の習得に結びつく。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、発表・レポート内容　70%、両方を総合し、評価する。

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッション

		を行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とすしています。研究を進めながら、各自の研究内容を発表、討論をし、研究内容を深めていきます。発表資料、レポート、ゼミ論又は卒論等を学習成果とすします。

＜授業の到達目標＞
1.関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できる。2.リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身に付ける。3.研究を論文および制作物としてまとめ、その内容について分かりやすく発表できる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていきます。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じて個別指導を行うこともあります。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）1時間程度を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本演習の成果は、教育経営学科のディプロマポリシー5(修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている。)と関連付けられています。小学校教育や、造形教育の課題等を基に、資料の収集、分析、提案、まとめることができる、総合的な実践力の習得を目指しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、作品制作やゼミ論文、レポート等の内容（知識・理解、思考・判断・表現） 70%。

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）

15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	前田　一誠		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じて個別指導を行うこともある。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本演習の成果は、教育経営学科のディプロマポリシーとして示された資質・能力のうち、現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力の習得に結びつく。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文、レポート内容、到達度評価で（知識・理解） 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッション

		を行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	浅田　栄里子			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本ゼミナールでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究をゼミナールの構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索、収集、分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションがオンラインを含めできる。・研究レポート、論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表とその準備とするが、個人の研究テーマや発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 40%、ゼミ論文 60%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて①	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて②	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究テーマについて③	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成①	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	ゼミ論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	ゼミ論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	ゼミ論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	２年間のまとめ	2年間の課題研究の総括

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じて個別指導を行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本演習の成果は、教育経営学科のディプロマポリシーとして示された資質・能力のうち、現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力の習得に結びつく。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、レポート内容と到達度（知識・理解） 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて 1	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成 1	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告 1	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッション

		を行う。
17	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表 1	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告 1	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認 1	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	高橋　直樹		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。また、Google Classroom等のデジタル技術も活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡの目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	ゼミ論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	ゼミ論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	ゼミ論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	松尾　健太郎		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
１．関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。３．研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本演習の成果は、教育経営学科のディプロマポリシー８「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている。」に結びつく。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、ゼミ論文（知識・理解）　70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッション

		を行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	細井　健		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とします。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。

＜授業の到達目標＞
(1) 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解できる。(2) リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を身につけている。(3) 研究を論文および制作物としてまとめ、発表できる。

＜授業の方法＞
(1) 発表（学生による説明と問いの提示） (2) ディスカッション（問いに対する回答）(3) 省察活動（まとめと発表） (4) 個別指導

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表、討論をします。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求めます。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6 「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」に関連づけています。本演習の成果は、教育経営学科のディプロマポリシーとして示された資質・能力のうち、現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養い、グローバル社会に対応できる総合的な実践力を習得することにあります。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 30%、ゼミ論文 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修

		正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	森下　裕三		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡ（応用）では、学生が3年次にそれぞれ設定したテーマに沿って、さらに研究を深めることを目的とする。また、各学生が自身のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について再確認する。リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠ（基礎）において明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験などをおこない、論文としてまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導をおこなう。論文執筆を進めるために必要な資料の共有には Google Classroom を活用する。また、論文は Google docs を利用しながら、随時、添削指導をおこなう。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ3年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進捗状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー7（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている）、およびディプロマポリシー8（修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている）と関連づけられている。研究活動を通じて、問題意識の形成や問題解決能力といった社会人として求められる能力の育成を目標としている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 10%、課題提出 20%、論文 50%、発表 20%

＜教科書＞
特に指定しない
＜参考書＞
戸田山和久（2012年8月30日）
新版　論文の教室：レポートから卒論まで
NHK出版
酒井聡樹（2017年7月15日）
これからレポート・卒論を書く若者のために　第２版
共立出版
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の授業方法・評価などの説明
2	テーマの見取り図となるような資料を探して読む	資料に基づいた研究テーマの問いを設定する
3	基本資料をもう一度読む	設定した問いに関連する本や論文を読む
4	問いをきちんと定式化する	論文で扱う問いを可能な限り具体化する
5	問題に取り組むための調査を進める	設定した具体的な問いを解決するための文献調査をする
6	論文の構成要素	論文に必要な構成要素とその書き方を知る
7	型に従うことの意味	論文の型は「起承転結」ではない
8	論文に構造を与えるためのアウトライン	構成のしっかりしたアウトラインを作る
9	カテゴリーの階層構造	論文の構成をカテゴリーに分け階層構造を作る
10	妥当な論証形式	構成的ディレンマと背理法について学ぶ
11	帰納的論証	帰納的論証とはどのようなものなのかを知る
12	アブダクション・仮説演繹法・アナロジー	演繹的論証とはどのようなものなのかを知る
13	論証形式を論文に応用する	帰納的論証と演繹的論証を実際に論文に当てはめてみる
14	中間発表のための準備	これまでに学んできた内容を踏まえて中間発表の準備をする

15	中間発表	研究内容を発表して今後の課題を把握する
16	図にすべきもの	図にすべきデータと図を利用する目的を知る
17	表にすべきもの	表にすべきデータと表を利用する目的を知る
18	グラフにすべきもの	グラフにすべきデータとグラフを利用する目的を知る
19	剽窃と引用の違い	剽窃と引用の違いを知り、なぜ出典の明記が必要なのかを理解する
20	複数の情報源を探す	より説得力のある論文にするために
21	分かりやすい文章を書くための語の選び方	内容語は漢字で、機能語はひらがなで書く
22	無駄な情報を削る	読者を重要な内容に集中させるために
23	文と文の繋がりを明確にする	話題が変わる場合と変わらない場合の文の書き方を知る
24	１度にひとつの話題だけを扱う	ひとつの文に多くの情報がない文の書き方を知る
25	註のつけ方	註に書くべき内容を知り、註を使って書く
26	参考文献の書き方と引用の方法	さまざまな参考文献の書き方・引用の仕方があることを知る
27	論文における禁句を知る	論文の中で使うべきではない表現を知る
28	論文完成直前のチェック	チェックリストと照らし合わせて論文の最終確認をおこなう
29	研究発表①	完成した論文の内容を発表して相互評価する
30	研究発表②	完成した論文の内容を発表して相互評価する

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	井上　聡		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業の目的は､研究力の育成を通して､社会人基礎力であるジェネリックスキルを習得することです｡対面型授業だけでなく、JMOOCやTV会議システム等を活用し、ゼミ生個々のキャリア形成に沿って、専門的知識の理解・活用、問題発見・課題解決能力を養成し、論理的思考力を高めます。学修成果としては、論理構成がとれた論文（はじめに、先行研究、研究の枠組み、結果と考察、おわりに）の水準で評価します。

＜授業の到達目標＞

１．技術革新や価値創造の源となる飛躍血を発見・創造できる。２．技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造できる。３．データの力を最大限に活用・展開できる。４．学内の教育課題の解決に貢献できる。５．4年間の成果物として論文を作成・提出できる。

＜授業の方法＞

１．ディスカッション　２．プレゼンテーション　３．相互評価　４．論文の作成・提出・発表※授業中のデータの共有はすべてGoogle Classroomで行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

進捗状況の報告（2時間程度）※データの教諭はすべてGoogle Classroomで行います。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は教育経営学科のDP⑧（修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている）に関連付けられています。ジェネリックスキルを涵養するだけでなく、Society 5.0の理念に合った人材となるよう、論文という形で4年間の成果物を残しましょう。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

協同学習 25%、進捗状況報告 25%、ゼミ論文 50%

＜教科書＞

特に指定しない。

＜参考書＞

特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の目的・内容・授業方法・評価の仕方等
2	研究テーマについて 1	テーマの確認と研究方法の検討
3	研究テーマについて 2	テーマの確認と研究方法の検討
4	研究テーマについて 3	テーマの確認と研究方法の検討
5	研究計画書の作成 1	研究計画書の作成
6	研究計画書の作成 2	研究計画書のチェック
7	課題研究の遂行とその報告 1	進捗状況の報告と討論
8	課題研究の遂行とその報告 2	進捗状況の報告と討論
9	課題研究の遂行とその報告 3	進捗状況の報告と討論
10	課題研究の遂行とその報告 4	進捗状況の報告と討論
11	課題研究の遂行とその報告 5	進捗状況の報告と討論
12	課題研究の遂行とその報告 6	進捗状況の報告と討論
13	課題研究の遂行とその報告 7	進捗状況の報告と討論
14	課題研究の遂行とその報告 8	進捗状況の報告と討論
15	前期のまとめ	全員の進捗状況の確認と計画表の修正
16	課題研究の遂行とその報告 1	進捗状況の報告とディスカッション
17	課題研究の遂行とその報告　2	進捗状況の報告とディスカッション
18	課題研究の遂行とその報告　3	進捗状況の報告とディスカッション
19	課題研究の遂行とその報告　4	進捗状況の報告とディスカッション
20	課題研究の遂行とその報告　5	進捗状況の報告とディスカッション
21	中間発表 1	中間報告と相互評価
22	中間発表 2	中間報告と相互評価
23	中間発表 3	中間報告と相互評価

24	研究課題の遂行とその報告 1	論文に対する相互評価
25	研究課題の遂行とその報告 2	論文に対する相互評価
26	研究課題の遂行とその報告 3	論文に対する相互評価
27	研究課題の遂行とその報告 4	論文に対する相互評価
28	最終確認 1	最終の点検
29	最終確認 2	最終の点検
30	最終確認 3	最終の点検

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	中西　紘士		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてPCを活用してまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じてGoogle meet等を活用して個別指導を行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：発表準備のレジュメ、プレゼン等（１時間程度）復習：発表内容の省察、修正（１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマポリシー8（修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている。）と関連付けられています。次世代の学校に求められている課題に自身がどのように取り組んでいくのかを理論と実践の両面から迫っていける資質・能力を身につけることを目指します。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等　30%、ゼミ論文に関するレポート内容 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッション

		を行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	伊住　継行		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞

本授業では、社会人に求められる基礎的知識の習得を目指す。さらに、教育の視点から、各学生のキャリアを見据えた専門的知識の習得と、問題意識の形成および課題解決の糸口を見出すことを目指す。

＜授業の到達目標＞

１．社会人に求められる基礎的知識を習得する。さらに、教育の視点から職業人として求められる一般教養ならびにスキルを修得する。　２．リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。

＜授業の方法＞

課題や資料配布はGoogleクラスルームで行う。また，適宜，Googleドキュメントやスプレッドシートを活用し，意見交流を行う，そのつもりでノートパソコンなどのデバイスを準備する。授業では，ゼミ生が興味・関心を持ったテーマについて、レポート（課題）作成及びディスカッションをする。そして、その成果を蓄積することによって、研究成果（レポートあるいは制作物）へと集約させる。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

それぞれ自分の興味関心に沿ったテーマについて、研究を進める。文献検索を行い、その結果を事前にレポートにまとめたり、制作に取り組んだりする。研究の方法については、担当教員と相談のうえ決定する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー７（子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。）及びディプロマポリシー８（修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている。）と関連付いている。現代の教育課題の解決に向けて多様なアプローチを試み、妥当性・客観性のある解決策を考えることができるようになることをめざす。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度等（関心・意欲・態度）　20%、レポート・課題の内容、到達度評価で（知識・理解）　30%、ゼミ論文 50%

＜教科書＞

特に指定しない。

＜参考書＞

特に指定しない。

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	研究指導１	リサーチ・クエスチョン（以下RQ）に基づき、研究計画の妥当性・客観性を検討する。
2	研究指導２	RQに基づき、研究計画の妥当性・客観性を検討する。
3	研究指導３	RQに基づき、研究計画の妥当性・客観性を検討する。
4	研究指導４	研究で必要となるデータや資料の収集計画を立てる。
5	研究指導５	研究で必要となるデータや資料の収集計画を立てる。
6	研究指導６	研究で必要となるデータや資料の収集計画を立てる。
7	研究指導７	データや資料を収集する。
8	研究指導８	データや資料を収集する。
9	研究指導９	データや資料を収集する。
10	研究指導10	中間発表：得られたデータや資料から研究計画の妥当性を検討する。
11	研究指導11	中間発表：得られたデータや資料から研究計画の妥当性を検討する。
12	研究指導12	中間発表：得られたデータや資料から研究計画の妥当性を検討する。
13	研究指導13	収集したデータや資料を分析する。
14	研究指導14	収集したデータや資料を分析する。
15	研究指導15	収集したデータや資料を分析する。
16	研究指導16	得られたデータや資料に基づき、結果をまとめる。
17	研究指導17	得られたデータや資料に基づき、結果をまとめる。
18	研究指導18	得られたデータや資料に基づき、結果をまとめる。
19	研究指導19	得られたデータや資料に基づき、結果をまとめる。

20	研究指導20	得られたデータや資料に基づき、結果をまとめる。
21	研究指導21	結果から考察と展望を考える。
22	研究指導22	結果から考察と展望を考える。
23	研究指導23	結果から考察と展望を考える。
24	研究指導24	研究概要を発表資料にまとめる。
25	研究指導25	研究概要を発表資料にまとめる。
26	研究指導26	研究概要を発表資料にまとめる。
27	研究指導27	研究発表会を行う。
28	研究指導28	研究発表会を行う。
29	研究指導29	研究発表会を行う。
30	研究のまとめ	研究発表会を総括する。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	赤松　久美子		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールⅡでは、学生が３年次にそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
・関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・リサーチ・リテラシー（聞く力、書く力、読む力、課題発見力、情報収集力、情報整理力、データ分析力、プレゼンテーション力）を養う。・研究を論文および制作物としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、お互いに発表し、意見を交換しながら、論文としてまとめていく。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況に応じて個別指導を行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
それぞれ３年次に設定したテーマに沿って研究を進め、その進ちょく状況の報告を授業の中で発表・討論する。各回、予習（発表準備等）を1時間、復習（内容の振り返り）を1時間程度を求める。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本演習の成果は、教育経営学科のディプロマポリシーとして示された資質・能力のうち、８「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取り組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、ゼミ論文に向けての課題レポート 30%、ゼミ論文40%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	ゼミナールⅡ（応用）の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究テーマについて	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究テーマについて 2	３年次に設定したテーマの確認と、研究方法の検討を進める。
4	研究テーマについて 3	研究方法を定める。
5	研究計画書の作成	確認したテーマと研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成 2	研究計画書をチェックする。
7	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	課題研究の遂行とその報告 2	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第2回目）
9	課題研究の遂行とその報告 3	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第3回目）
10	課題研究の遂行とその報告 4	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第4回目）
11	課題研究の遂行とその報告 5	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第5回目）
12	課題研究の遂行とその報告 6	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第6回目）
13	課題研究の遂行とその報告 7	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第7回目）
14	課題研究の遂行とその報告 8	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。（第8回目）
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッション

		を行う。
17	課題研究の遂行とその報告　2	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
18	課題研究の遂行とその報告　3	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
19	課題研究の遂行とその報告　4	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
20	課題研究の遂行とその報告　5	各自の研究を進め、その進捗状況を報告し、研究内容についてのディスカッションを行う。（第5回目）
21	中間発表	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	中間発表 2	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第2回）
23	中間発表 3	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。（第3回）
24	研究課題の遂行とその報告	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告 2	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第2回目）
26	研究課題の遂行とその報告 3	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第3回目）
27	研究課題の遂行とその報告 4	進めてきた研究を論文（制作物）としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、そぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。（第4回目）
28	最終確認	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。
29	最終確認 2	仕上がりつつある論文の最終の点検を行う。（第２回目）
30	２年間のまとめ	ゼミナールⅠ、Ⅱにおける２年間の取り組みについてのまとめを行う。

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	古山　喜一		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し、各自の研究課題に取り組む。3年次に引き続き、研究とはなにか、研究の有用性、渉猟の方法等、研究へ結びつく課題を、学生が自主的に絞り込み、興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い、学生の研究を支援する。　したがって本ゼミナールは4年次段階で実施することから、学生の研究方向の拡散や広範囲な興味関心を肯定的に受け止め、なおかつ研究分野を一定程度に特定できるよう積極的な支援体制を取る。 具体的には文献研究を始め、受講者が研究課題を

＜授業の到達目標＞
柔道整復師に必要な幅広い知識や技術に関して科学的思考を用いることによりアプローチが出来るように、各種の研究手法を学びながら研究テーマを設定し、研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し分析する。事前の文献検索には2時間以上を必要とする。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目はディプロマポリシー8および7の」、「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている」、「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」に該当し、総合的な学習経験と創造的思考力について修得する機会を与える。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【Web授業】①課題提出50%　②意見交換50%【対面授業】課題達成度（50%）、学習意欲（30%）、レポート（20%）で評価する。

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
特になし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	内容 受講上の注意、評価方法、講義の概要
2	論文抄読１	抄読する論文分野の選択1
3	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査1
4	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査2
5	論文抄読2	抄読する論文分野の選択2
6	論文抄読3	抄読する論文分野の決定
7	論文抄読4	専門領域の論文抄読１
8	論文抄読5	専門領域の論文抄読2
9	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査3
10	論文抄読6	個別発表と全体発表
11	論文抄読7	専門領域の論文抄読3
12	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査4
13	論文の書き方	論文の構成を確認する1
14	論文の書き方	個人発表と全体発表
15	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査5
16	論文の書き方	論文の構成を確認する2
17	論文の書き方	論文の構成を確認する3
18	柔道整復師に必要な知識の確認	専門領域確認調査6
19	論文抄読8	スポーツ医学分野論文抄読１
20	論文抄読9	スポーツ医学分野論文抄読2
21	論文抄読10	スポーツ医学分野論文抄読3

22	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査1
23	論文抄読11	スポーツ医学分野論文抄読4
24	論文抄読12	スポーツ医学分野論文抄読5
25	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査2
26	論文抄読13	健康運動関連の論文抄読 1
27	論文抄読14	健康運動関連の論文抄読2
28	柔道整復師に必要な知識の確認	ゼミ達成度調査3
29	論文抄読15	健康運動関連の論文抄読3
30	まとめ	総括

55008

科目コード	55008				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ(応用)				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
柔道整復師として必要な基礎知識の修得状況を踏まえて確認し，各自の研究課題に取り組む．卒業研究へ結びつく研究課題を，学生が自主的に絞り込み，興味と関心をもって学問的に取り組むことが出来るような条件整備を行い，学生の研究を支援する。また、健康科学科の教育方針及びカリキュラムを理解し、医療従事者として相応しい人物になれるよう、また自立した一社会人となれるよう演習形式で実施する。

＜授業の到達目標＞
課題に対し研究計画を立てることができる。課題に対し客観的手法を用いて検討することができる。客観的手法を用いた内容をまとめ、論文作成することができる。

＜授業の方法＞
グループワーク（専門とする領域内での興味関心をもつ内容に対する討論、調査、研究計画立案、測定実施）省察活動（課題に対するまとめ、論文作成）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：翌週の指導内容のキーワードの下調べ（毎回、１時間程度）復習：振り返りレポート（毎回、１時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は健康科学科のディプロマポリシー８（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自ら立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）に関連付けられている。現在の医療・スポーツ健康関連における課題に対し、客観的手法を用いて評価、論じることが出来る汎用能力の習得を目指す。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題 30%、研究実践レポート 40%、学習意欲 30%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	情報整理1	ゼミナールⅠのまとめ
3	情報整理2	ゼミナールⅠのまとめ
4	疑問・問題点の抽出及び整理1	疑問・問題点の抽出及び整理
5	疑問・問題点の抽出及び整理2	疑問・問題点の抽出及び整理
6	疑問・問題点の抽出及び整理3	疑問・問題点の抽出及び整理
7	疑問・問題点の抽出及び整理4	疑問・問題点の抽出及び整理
8	疑問・問題点の抽出及び整理5	疑問・問題点の抽出及び整理
9	関連文献収集1	文献収集
10	関連文献収集2	文献収集
11	関連文献収集3	文献収集
12	関連文献収集4	文献収集
13	関連文献収集5	文献収集
14	まとめ	まとめ
15	まとめ	まとめ
16	課題確認を発展1	課題確認を発展
17	課題確認を発展2	課題確認を発展
18	課題確認を発展3	課題確認を発展
19	課題確認を発展4	課題確認を発展
20	課題確認を発展5	課題確認を発展
21	課題確認を発展6	課題確認を発展
22	課題確認を発展7	課題確認を発展
23	課題確認を発展8	課題確認を発展
24	課題確認を発展9	課題確認を発展
25	課題確認を発展10	課題確認を発展
26	課題確認を発展11	課題確認を発展

27	課題確認を発展12	課題確認を発展
28	プレゼンテーション1	プレゼンテーション
29	プレゼンテーション2	プレゼンテーション
30	まとめ	まとめ

40303

科目コード	40303				区　分	コア科目		
授業科目名	整復学実技Ⅶ(総合)《連続》水4・木5・金4				担当者名	古山　喜一		
配当年次	0	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実技	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本科目では、整復学実技Ⅰ～Ⅵで学習した整復法及び固定法を中心に、整復前の検査から整復、固定までの実際の臨床 現場を想定した実技能力の習得を目標とする。骨折及び脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスクマネジメントの方法から整復法、固定法への臨床現場における一連の流れについて、実技実習を中心に行い、臨床現場における骨折及び 脱臼、軟部組織損傷の処置を行う際のリスク管理とその後の処置について学習する。

＜授業の到達目標＞
臨床現場で多く関わることがある代表的な運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）に対する疾患概念の理解および把握、治療形態（整復、固定、運動療法）に対する実施動作ができることを目標とする。

＜授業の方法＞
グループに分かれて実習形態で学習する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各運動器疾患（骨折、脱臼、軟部組織損傷）における理論、実技（整復法、固定法）については予め復習し(2時間程度）、授業に臨むものとする。講義終了後はまとめノートを作成し知識の定着を図る（2時間程度）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目はディプロマポリシー8および7の、「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている」、「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」に該当し、総合的な学習経験と創造的思考力について修得する機会を与える。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
【対面授業】①定期試験100%（実技試験含む）実技試験 50%、定期試験50%

＜教科書＞
全国柔道整復学校協会
柔道整復学・理論編
南江堂
全国柔道整復学校協会
柔道整復学・実技編
南江堂

＜参考書＞

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	鎖骨骨折（1）	鎖骨骨折の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について
2	鎖骨骨折（2）	鎖骨骨折の整復法から固定法までの一連の実技
3	肩甲胸郭に対する運動療法	肩甲胸郭周囲の可動域訓練、筋力強化訓練
4	肩関節脱臼（1）	肩関節脱臼の発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について
5	肩関節脱臼（2）	肩関節脱臼の整復法から固定法までの一連の実技
6	肩関節脱臼（3）	肩関節脱臼の後療法（運動療法）における実技
7	肩甲上腕関節周囲に対する運動療法	肩甲上腕関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練
8	上腕骨骨折（1）	上腕骨骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について
9	上腕骨骨折（2）	上腕骨骨折の整復法から固定法までの一連の実技
10	肘関節脱臼（1）	肘関節脱臼における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について
11	肘関節脱臼（2）	肘関節脱臼の整復法から固定法までの一連の実技
12	肘関節周囲の運動療法	肘関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練
13	前腕骨骨折（1）	前腕骨骨折における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について
14	前腕骨骨折（2）	前腕骨骨折の整復法から固定法までの一連の実技
15	手関節周囲に対する運動療法	手関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練
16	股関節脱臼（1）	股関節脱臼における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について
17	股関節脱臼（2）	股関節脱臼の整復法から固定法までの一連の実技
18	股関節周囲軟部組織損傷	股関節周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
19	股関節周囲に対する運動療法	股関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練
20	大腿部周囲の軟部組織損傷	大腿部周囲軟部組織損傷における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について

21	膝蓋骨脱臼（１）	膝蓋骨脱臼における発生要因、症状の口頭試問及び整復前検査法について
22	膝蓋骨脱臼（２）	膝蓋骨脱臼の整復法から固定法までの一連の実技
23	膝関節周囲の軟部組織損傷（１）	膝関節周囲軟部組織損傷（関節包外靱帯）における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
24	膝関節周囲の軟部組織損傷（２）	膝関節周囲軟部組織損傷（関節包内靱帯）における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
25	膝関節周囲に対する運動療法	膝関節周囲の可動域訓練、筋力強化訓練
26	下腿部の軟部組織損傷（１）	下腿部周囲軟部組織損傷（下腿三頭筋肉離れ）における発生要因、症状の口頭試問及び検査法、固定法について
27	下腿部の軟部組織損傷（２）	下腿部周囲軟部組織損傷（アキレス腱断裂）における発生要因、症状の口頭試問及び検査法、固定法について
28	足部周囲の軟部組織損傷（１）	足関節周囲軟部組織損傷（足関節捻挫）における発生要因、症状の口頭試問及び検査法について
29	足部周囲の軟部組織損傷（２）	足関節捻挫の固定法実技
30	下腿部、足部に対する運動療法	下腿から足部周囲の可動域訓練、筋力強化訓練

35401

科目コード	35401				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践)［陸上］《通年》				担当者名	吉岡　利貢		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
個人スポーツ指導理論・実習では、陸上競技の基本的な運動種目（短距離走、長距離走、障害走、跳躍種目、投擲種目）の技能を高めるとともに、その効果的なトレーニング手段の理解と実践、陸上競技の指導法・研究法を学ぶことを目的とします。

＜授業の到達目標＞
バイオメカニクス的・運動生理学的手法を用いて、自分の特性（動き、代謝特性など）を把握・改善する能力を身につける。

＜授業の方法＞
実技実習、配布資料を用いた理論説明、ビデオや分析機器を用いた分析・解析を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
参考図書およびルールブックを熟読の上、授業に参加すること。また、トレーニング日記をつけることを義務づける。（所要時間1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている」を修得するための科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
技能レベル 30%、レポート 20%、受講態度 50%

＜教科書＞
＜参考書＞
尾縣 貢（2007年9月1日）
ぐんぐん強くなる!陸上競技
ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	受講上の注意、授業の進め方、評価について
2	コントロールテスト（1）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
3	コントロールテスト（2）	専門的体力の評価（走能力、跳能力など）
4	陸上競技を科学する（1）	各種目における生理学的特性に関する講義
5	陸上競技を科学する（2）	測定項目の選定とその測定方法に関する講義と実習
6	測定:短距離種目（1）	血中乳酸濃度の測定（100m、200m）
7	測定:短距離種目（2）	血中乳酸濃度の測定（400m）
8	測定:中距離種目（1）	血中乳酸濃度の測定（800m）
9	測定:中距離種目（2）	血中乳酸濃度の測定（1500m）
10	測定:長距離種目（1）	血中乳酸濃度の測定（5000m）
11	測定:長距離種目（2）	最大酸素摂取量の測定
12	分析と評価	エネルギー動態からみた各種目における自己能力の分析と評価
13	陸上競技を科学する（3）	各種目に必要とされる「動き」に関する講義
14	陸上競技を科学する（4）	陸上競技とバイオメカニクスに関する講義
15	陸上競技を科学する（5）	バイオメカニクス的手法に関する講義と実習
16	前期の復習	前期学習内容の確認と復習（レポートの提出）
17	測定:短距離種目（1）	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（100m）
18	測定:短距離種目（2）	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（400m）
19	測定:障害走（1）	ビデオを用いての疾走動作の測定（110mH）
20	測定:障害走（2）	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（400mH）
21	測定:長距離種目	ビデオを用いての疾走動作の測定と分析（5000m）
22	測定:跳躍種目（1）	ビデオを用いての助走・踏切・跳躍動作の測定と分析（走幅跳）
23	測定:跳躍種目（2）	ビデオを用いての助走・踏切・跳躍動作の測定と分析（走高跳）
24	測定:投擲種目	ビデオを用いての投動作の測定と分析（やり投、砲丸投）
25	分析と評価（1）	「動き」からみた走種目における自己動作の分析と評価

26	分析と評価（2）	「動き」からみた跳躍種目における自己動作の分析と評価
27	後期の復習	後期学習内容の確認と復習（レポートの提出）
28	コントロールテスト（3）	基礎的体力の評価（最大筋力、瞬発力、敏捷性など）
29	コントロールテスト（4）	専門的体力・スキルの評価（走能力、跳能力など）
30	コントロールテスト（5）	１年を通じてのコントロールテストの分析・解釈

35401

科目コード	35401				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践)［剣道］《通年》				担当者名	平田　佳弘		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞

本授業では、全日本剣道連盟が制定（1975）した剣道の理念、すなわち「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」に基づく正しい剣道について理解を深め、基本練習や応用練習、試合練習を行う。さらに、昇段審査において四段合格を目指し、剣道において技を繰り出す時の正しい「攻め」、正しい「防御」方法を学び、正しい剣道とは何かを追求していく。また、剣道大会や武道大会を企画したり、運営したりする、学校現場、社会体育現場で求められる剣道専門家としての総合力を培う。

＜授業の到達目標＞

剣道指導者として、小学生、中学生、高校生、大学生、社会人に対して、またそれぞれの年齢の初心者、中級者、熟練者に対して、その集団の技量に応じた段階的な指導を、理論的に実践的にできるようになることを目標とする。地域貢献として地域の小学生を集め、少年剣道大会を企画・運営できる力を身につける。

＜授業の方法＞

実技を中心に進めるが、剣道試合審判規則については講義の場合がある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等

剣道指導要領（全日本剣道連盟）及び全日本剣道連盟 剣道試合・審判規則、剣道試合・審判細則を熟読しておくこと。予習1時間、復習1時間

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞

この科目は体育学科ディプロマポリシー8「修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。」と関連付けられています。剣道指導者に求められる専門的知識や指導力、さらに自ら課題を発見し、科学的根拠に基づいた課題解決に取り組んでいくことが出来る指導力、実践力を培う。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度 40%、実技試験 60%

＜教科書＞

特になし

＜参考書＞

全日本剣道連盟
剣道指導要領
財団法人全日本剣道連盟

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	剣道稽古の心構えと留意事項	授業内容の説明・オリエンテーション
2	基本稽古（1）	切り返し（1）
3	基本稽古（2）	切り返し（2）
4	基本稽古（3）	切り返し（3）
5	基本打突（1）	気・剣・体の一致した面・小手・胴・突き技（1）
6	基本打突（2）	気・剣・体の一致した面・小手・胴・突き技（2）
7	基本打突（3）	気・剣・体の一致した面・小手・胴・突き技（3）
8	応用技術（1）	払い技、すりあげ技、捲き技（1）
9	応用技術（2）	払い技、すりあげ技、捲き技（2）
10	応用技術（3）	払い技、すりあげ技、捲き技（3）
11	打ち込み稽古（1）	打ち込みを行う（1）
12	打ち込み稽古（2）	打ち込みを行う（2）
13	打ち込み稽古（3）	打ち込みを行う（3）
14	追い込み稽古（1）	追い込みを行う（1）
15	追い込み稽古（2）	追い込みを行う（2）
16	追い込み稽古（3）	追い込みを行う（3）
17	互角稽古（1）	まわり稽古・区分稽古（1）
18	互角稽古（2）	まわり稽古・区分稽古（2）

19	互角稽古（3）	まわり稽古・区分稽古（3）
20	互角稽古（4）	まわり稽古・区分稽古（4）
21	互角稽古（5）	まわり稽古・区分稽古（5）
22	剣道試合・審判法（1）	剣道試合規則・審判規則を理解する（1）本規則の目的、試合場、竹刀、剣道具、服装の規定、試合時間　等
23	剣道試合・審判法（2）	剣道試合規則・審判規則を理解する(2)勝敗の決定、団体試合、試合の開始・終了、有効打突、禁止行為、罰則 等
24	剣道試合・審判法（3）	剣道試合規則・審判規則を理解する(3)審判員の構成（審判長・審判主任・審判員・係員）有効打突の決定・取り消し・錯誤 等
25	剣道試合・審判法（4）	剣道試合規則・審判規則を理解する(4)試合中の負傷・棄権・異議申し立て、宣告、旗の表示 等
26	剣道試合・審判法（5）	審判の実践、審判の評価
27	試合稽古（1）	学生主体で試合を運営していく（1）
28	試合稽古（2）	学生主体で試合を運営していく（2）
29	試合稽古（3）	学生主体で試合を運営していく（3）
30	試合稽古（4）	学生主体で試合を運営していく（4）

35401

科目コード	35401				区　分	コア科目		
授業科目名	個人スポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [ﾀﾞﾝｽ]《通年》				担当者名	小澤　尚子		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
基礎ステップやリズム練習、即興表現を通してダンスの基礎的な技能を習得する。また、グループでの小作品づくり、観賞を通して、自己表現の可能性を拡げ、ダンスの要素である「踊る、創る、観る」力をバランス良く養う。また、作品と音楽、照明の特徴、関連性について、過去の作品を例に検証しながら、舞台上演の効果についての理解を深めることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
作品創作過程を通して、舞台上演に必要不可欠である衣裳と舞台メークを中心に、役柄との関わり、舞台空間との関わり、照明との関わりの重要性を理解し、舞踊の舞台で統一のとれた効果的な装いについて学んでいく。また、ダンスの動作のステップ、バランス、ジャンプ、ターンなどの基礎練習を怠らず、完成度の高い技能を身に付け、作品へのイメージを膨らませて自身のソロ作品を創ることができるようになる。

＜授業の方法＞
クロスフロアやダンスのコンビネーション（振付）を覚えて、基礎ステップやリズムどり、即興表現などを練習していく。また、鏡や動画を用いて自身の動きを確認し、フィードバックする。さらに、学生同士で見合いながら、指導のポイントをとらえていく。定期試験は振り付け作品とソロ作品の創作・発表を試験課題として実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：授業内容に関連する参考図書、参考資料等に目を通し、課題意識を持って授業に参加すること（1～2時間）復習：授業で配布した資料をファイリングする。授業で行ったダンスのウォームアップと振付等をフィードバックし、次回の授業までに覚えておく（1～2時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を身に付ける科目である。また健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身につける機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、授業記録と技能 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	講義のルール、概要の説明など
2	舞踊作品における音響、照明の特徴	過去の作品を例に検証
3	舞踊作品における音響、照明の効果	過去の作品を例に検証
4	身体練習１　基礎技術の確認	基礎技術
5	身体練習２　コンビネーション（脚上げ）	タンジュ、ジュッテ、バットマンの基礎技術
6	身体練習３　コンビネーション（ターン）	ターン系の基礎技術
7	身体練習４　コンビネーション（ジャンプ）	ジャンプ系の基礎技術
8	身体練習５　コンビネーション（その他）	その他の動きの基礎技術
9	習作　グループワーク1（モチーフ）	グループに分かれ、動きを考案
10	習作　グループワーク2（フレーズ）	グループに分かれ、動きをつなげる
11	習作　グループワーク3（イメージ）	グループに分かれ、動きを通して表現性を創発
12	発表・再検討	改善する箇所を相談し、修正する
13	グループワーク・踊り込み練習	複数回練習し、考案したフレーズをよりスムーズにする
14	発表・評価	発表、評価を通して、動きの習熟度を確認
15	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等	ビデオ鑑賞、前期の感想、反省等を通して動きの習熟度を確認
16	舞踊の種類と運動の特性1(前期振り返り)	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明
17	舞踊の種類と運動の特性2（身体練習）	とりあげる舞踊運動から運動の特性やメカニズムを説明
18	表現体としての身体とそのメカニズム	表現体としての踊るからだのメカニズムについて確認
19	ダンス作品の創作・振付１（モチーフ）	ダンス作品の創作・振付としてのモチーフの概要

20	ダンス作品の創作・振付2（フレーズ）	ダンス作品の創作・振付としてのフレーズの概要
21	ダンス作品の創作・振付3（イメージ）	ダンス作品の創作・振付としてのイメージの概要
22	ソロ作品を創作（1）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
23	ソロ作品を創作（2）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
24	ソロ作品を創作（3）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
25	ソロ作品を創作（4）	ソロ作品を創作し、動きと作品性について深める
26	踊り込み・吟味	踊り込みをおこない、より作品性を問う
27	作品の発表・合評1	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
28	作品の発表・合評2	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
29	作品の発表・合評3	作品の発表し、批評を受ける、感想を述べあう
30	今後の課題と構想	今後の課題を発見し、実現するための構想を練る

35402

科目コード	35402				区　分	コア		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [ﾗｸﾞﾋﾞｰ] 《通年》				担当者名	小村　淳		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本講義においては、ラグビーのルールやハンドリング・キッキング・モール・ラック・スクラム・ラインアウトなどの 基本技術（テクニック・スキル）やフィットネスの幅広い知識を教授するとともに、個人的技能のスキルアップからユニッ トスキル・チームスキルの習得から総合的なまとめとする。

＜授業の到達目標＞
最終的にはゲーム形式でラグビーを実施することを目的とし、その上で 現場において指導を行うという観点から、競技の特性や選手の能力、安全対策、戦略の実践指導について理解を深めさ せることを目的とする。

＜授業の方法＞
実技学習ではグループに分け、（1）グリッドシステム（2）チャンネルシステム（3）視聴覚機器（4）講義を取り入れ て学習する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
適宜紹介及び配布したテキストの熟読並びに理解を促す。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育学科のディプロマポリシー（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている）に対応した科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度（積極性・協調性・相互促進性など）30%、基本的技能の発達　　40%、実技テスト　　30%

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
授業中に適宜紹介する。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修にあたっての諸注意
2	個人スキル練習（1）	ハンドリング（パスの種類を考えさせる）
3	個人スキル練習（2）	キッキング・ランニング(地域によっての使い分けを考えさせる)
4	個人スキル練習（3）	タックル・コンタクト（タックルの方法を使い分ける）
5	個人スキルテスト（1）	ストレートパス・スピンパスの使い分け
6	個人スキルテスト（2）	キックの種類の使い分け（ロングキック・ハイパウント等）
7	個人スキルテスト（3）	タックルの使い分け（フロントタックル・サイドタックル等）
8	FWプレーについての講義	ビデオ鑑賞をさせBKプレーについての役割、仕組み等について
9	FWプレーの練習（1）	スクラム（1対1・3対3・5対5・8対8）
10	FWプレーの練習（2）	ラインアウト（4人・5人・8人）
11	FWプレーの練習（3）	モール（ドライビングモールの方法等）
12	FWプレーの練習（4）	ラック（強く正しいブレイクダウンの方法）
13	FWプレーのテスト（1）	スクラム（強さ・姿勢等）
14	FWプレーのテスト（2）	ラインアウト（スロアー・ジャンパーリフター等）
15	FWプレーのテスト（3）	モール（バインド・姿勢等）
16	FWプレーのテスト（4）	ラック（ブレイクダウン）
17	BKプレーについての講義	ビデオ鑑賞をさせBKプレーについての役割、仕組み等について
18	BKプレーの練習（1）	BKラインの構成、ラインの作り方
19	BKプレーの練習（2）	BKラインの構成、攻撃方法
20	BKプレーの練習（3）	BKラインのバリエーションを考える
21	BKプレーの練習（4）	BKラインのディフェンス方法を考える
22	BKプレーの練習（5）	ディフェンス法（マンツーマン・詰め・ドリフトDF等）
23	バリエーションプレー（BK）　I	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等）　I

24	バリエーションプレー（BK） Ⅱ	チームごとに分析・討論させバリエーションを考えさせる(ゲームの組み立て、地域戦略、サインプレー等） Ⅱ
25	オープンゲーム（実践） Ⅰ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる Ⅰ
26	オープンゲーム（実践） Ⅱ	ゲームを通じBKプレーの構成、役割、責任を理解させる Ⅱ
27	ゲーム（実践） Ⅰ	FW・BKのユニットスキル、チームスキルの成果を試す Ⅰ（チームごとに分析・討論をさせる）
28	ゲーム（実践） Ⅱ	FW・BKのユニットスキル、チームスキルの成果を試す Ⅱ（チームごとに分析・討論をさせる）
29	ゲーム（実践） Ⅲ	FW・BKのユニットスキル、チームスキルの成果を試す Ⅲ（チームごとに分析・討論をさせる）
30	ゲーム（実践） Ⅳ	FW・BKのユニットスキル、チームスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ･Ⅳの成果を総合的に判断する

35402

科目コード	35402				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [ｿﾌﾄﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	山本　清人		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ソフトボールの用具や競技施設、ルール、運動の特性、競技の特性を理解し、ソフトボールの発展的な技術（例えば、状況に応じたプレー選択・判断など）を学ぶ。また、守備の発展技術（投球、守備）から攻撃の発展技術（打撃、走塁）などの個人技術の習得 を目指し、その後、ゲーム形式でソフトボールを実施する。

＜授業の到達目標＞
(1) 状況に応じたバット操作と走塁での攻撃，安定したボ ール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる。(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し，合理的，計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに，自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。 (3) 球技に主体的に取り組むとともに，フェアなプレイを大切にしようとすること，合意形成に貢献しようとすること，一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとすること，互いに助け合い高め合おうとすることなどや，健康・安全を確保することができる。

＜授業の方法＞
実技を中心にグランドにて実習し、バッティングなど理論が必要なときは随時説明をする。　１．グループワーク（予習内容に関する確認）２．実技（教員による解説と新たな技術習得のため問題提示）　　タブレット・スマホ等を利用し、動画を撮影し技術習得に活かす。３．ディスカッション（問題提示に対する回答）４．省察活動（まとめ）

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
（予習）授業時間に配布された資料を読んで次回の目的・目標を設定し、具体的方法を考えてくる。（１時間）（復習）授業時間に提示された参考図書・参考資料に目を通して授業の理解を深めるとともに、指導方法等をまとめる。　（１時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は体育学科のディプロマポリシー8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。）と関連付けられています。ソフトボール競技を通して日常的にスポーツに親しみ、かつ楽しむことを目指し、豊かな人間性を修得するための科目であり、プレーを通して体力を向上させるとともに健康を増進させ、チームスポーツで得られる他者を尊重しこれと協同する精神、公平さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うことで思考力や判断力を実践的に活用する

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲40%、予習10%、、課題レポートの内容20%、実技テスト30%

＜教科書＞
＜参考書＞
財団法人日本ソフトボール協会
ソフトボール指導者教本
日本体育社株式会社
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	指導者のあり方（監督として）	監督としての心得、指導の実際、環境整備、安全管理
2	近年のソフトボールの情勢と展望	現在の状況と今後の展望、監督としてどう将来の指導者を育成していくか
3	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	投球の発展技術　投球モーションのフォームと特徴　投球術（配球）
4	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	投球の発展技術　投球モーションのフォームと特徴　投球術（配球）
5	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	守備の発展技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲　得点・イニングにによる守備体系
6	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	守備の発展技術　送球・捕球、守備位置と守備範囲　得点・イニングにによる守備体系
7	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	打撃の発展技術　　状況に応じたバッティング技術
8	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	打撃の発展技術　　状況に応じたバッティング技術
9	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	バントの発展技術　バスターの発展技術

10	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	バントの発展技術　バスターの発展技術
11	ソフトボールの技術と指導法(発展編　上級レベル)	走塁の発展技術　　適切な状況判断　　ベースコーチの指導
12	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
13	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
14	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
15	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
16	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
17	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
18	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
19	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
20	集団技能の理解	試合形式の中で、ケースバッティング・ケースフィールディングなどの技能のチェック
21	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察　プレーを検証しより良い方法を考察
22	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察　プレーを検証しより良い方法を考察
23	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察　プレーを検証しより良い方法を考察
24	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察　プレーを検証しより良い方法を考察
25	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察　プレーを検証しより良い方法を考察
26	総合的ゲーム展開	ゲームの中で課題を見つけ、それを克服するための練習方法を考察　プレーを検証しより良い方法を考察
27	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
28	打撃系実技テスト	試合形式の中でのバッティングテスト
29	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト
30	守備系実技テスト	試合形式の中でのポジション別テスト

35402

科目コード	35402				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	坂本　博秋		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バレーボール競技の基礎・基本の習得はもちろんのこと、常に実戦を見据えたプレーを意識させ自己の競技力向上に努めることを狙いとする。

＜授業の到達目標＞
バレーボール競技における基礎的ルールや特性を理解し、スポーツそのものが持つ意義、そして安全に配慮しながら楽しむことを自他共に共有し活動できる力を身につける。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが必要に応じて映像、データ等を活用し理解を深めていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バレーボール競技に必要な知識やスキルを各自習得し、ゲーム内容をイメージさせておくこと。(1時間)

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
出席意欲と授業態度 50%、 スキル習得度 50%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業のねらいと評価方法や履修に当たっての諸注意
2	ウエイトトレーニング１	上半身・体幹トレーニング（強化）
3	ウエイトトレーニング２	下半身・体幹トレーニング（強化）
4	プライオメトリックストレーニング	ジャンプ力強化トレーニング
5	持久走	持久力の強化（5km走）
6	ゲーム分析１	ローテ別レセプションアタック（コンビネーション）
7	ゲーム分析２	ローテ別レセプション返球率
8	総合練習（アタック）１	３人組コンビネーションアタック（パラレル）
9	総合練習（アタック）２	５人組コンビネーションアタック（シークエンス）
10	総合練習（アタック）３	ディグからのハイセットアタック（リベロセット）
11	総合練習（アタック）４	クイックアタックとバックロー（パイプ攻撃）
12	総合練習（アタック）５	シンクロ攻撃（ファーストテンポ）
13	総合練習（アタック）６	リバウンドからのブロード攻撃
14	総合練習（ブロック）１	コミットブロックとフロアディフェンス
15	総合練習（ブロック）２	リードブロックとフロアディフェンス
16	総合練習（ブロック）３	ハイセットへの対応（３枚ブロック）
17	総合練習（簡易ゲーム）１	３対３バックアタックゲーム（セッターバック）
18	総合練習（簡易ゲーム）２	４対４シンクロアタックゲーム（リベロセット）
19	総合練習（６人）１	レセプションアタックとリードブロック（ウォッシュ）
20	総合練習（６人）２	ディグアタックとコミットブロック（ウォッシュ）
21	総合練習（６人）３	フリーボールからのシンクロ攻撃（ファーストテンポ）
22	実践練習１	ゲーム形式（５セットマッチ）
23	実践練習２	ゲーム形式（５セットマッチ）
24	実践練習３	ゲーム（５セットマッチ）
25	実践練習４	ゲーム（５セットマッチ）
26	実践練習５	ゲーム（５セットマッチ）

27	実践練習６	ゲーム（５セットマッチ）
28	実践練習７	ゲーム（５セットマッチ）
29	実践練習８	ゲーム（５セットマッチ）
30	まとめ	戦術理解度の確認

35402

科目コード	35402				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	森　　億		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
バスケットボール競技の基本・基礎の習得はもちろんのこと、パフォーマンス発揮に必要である「心」「技」「体」「脳」についての知識を高め、自己の競技力向上に努めることをねらいとする。また利己的思考だけではなく、利他的思考も習得し、社会の一員である自覚を持った行動が導き出せるようにする。

＜授業の到達目標＞
バスケットボール競技における基礎的ルールや特性を理解し、スポーツそのものが持つ意義、そして安全に配慮しながら楽しみむことを、自他ともに共有し活動できる力を身に付けること。

＜授業の方法＞
実践練習が中心ではあるが、それに伴うミーティングやワークショップ等を適宜実施し、知見を深めさせていく。また、情報や仲間の意見や考え方等をバスケプラスやDropboxを利用し、理解・共有できるようにする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
バスケットボール競技に必要な知識やスキルを各自習得し、トレーニングをイメージさせておくこと。各自、プログラムされたメニューを１時間以上実施しておくこと。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
総合的な学習経験と創造的思考力（DP:8:修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付けている。）及び知識・理解（DP2:健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。）を習得する科目である。バスケットボール競技を通じて、その特性や競技性を習得するとともに、本学のディプロマ・ポリシーである「習得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自身の問題解決や課題に取り組み、みずから

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
技能 60%、レポート 20%、受講態度 20%

＜教科書＞
＜参考書＞
高妻 容一・森 億その他（2010年7月）
バスケットボール選手のメンタルトレーニング
ベースボールマガジン社
森　億（2018年2月5日）
脳にノーと言えれば、スポーツパフォーマンスは上がる！
ベースボールマガジン社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	年間計画及びねらいの確認
2	目標設定の仕方を学ぶ	GROWモデルについての知見の習得及び作成
3	個人ファンダメンタル①	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
4	個人ファンダメンタル②	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
5	個人ファンダメンタル③	オフェンスファンダメンタル（シュート・ドリブル・パス等）
6	個人ファンダメンタル④	ディフェンスファンダメンタル（フットワーク・ディナイ・クローズアウト等）
7	個人ファンダメンタル⑤	ディフェンスファンダメンタル（フットワーク・ディナイ・クローズアウト等）
8	ブレイントレーニング①	身体と脳の関係について
9	ブレイントレーニング②	脳処理について
10	ブレイントレーニング③	記憶と生活習慣について
11	ウエイトトレーニング①	上半身及び体幹周りのトレーニング
12	ウエイトトレーニング②	下半身及び体幹周りのトレーニング
13	プライメトリックトレーニング	ジャンプ力強化トレーニング
14	チームファンダメンタル①	1対1、2対2の攻防について
15	チームファンダメンタル②	1対1、2対2の攻防について
16	チームファンダメンタル③	3対3、4対4の攻防について
17	チームファンダメンタル④	3対3、4対4の攻防について

18	チームファンダメンタル⑤	3対3、4対4の攻防について
19	メンタルトレーニング①	あがり・緊張状態について
20	メンタルトレーニング②	フロー状態について
21	総合練習①	スクリーンメージ（5対5の攻防）
22	総合練習②	スクリーンメージ（5対5の攻防）
23	総合練習③	スクリーンメージ（5対5の攻防）
24	総合練習④	スクリーンメージ（5対5の攻防）
25	総合練習⑤	スクリーンメージ（5対5の攻防）
26	実践練習①	ゲーム（実践形式）
27	実践練習②	ゲーム（実践形式）
28	実践練習③	ゲーム（実践形式）
29	実践練習④	ゲーム（実践形式）
30	実践練習⑤	ゲーム（実践形式）

35402

科目コード	35402				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [ﾊﾝﾄﾞﾎﾞｰﾙ]《通年》				担当者名	前田　誠一		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
ハンドボールは運動の３要素といわれる走・跳・投がすべて入っているダイナミックでスピード感のあるチームボールゲームである。また攻撃した後、すぐ防御する必要があり攻防の激しさと個人技術、個人戦術をどのタイミングで駆使していくかその使い分け判断力が 要求される競技である。ハンドボールに関する専門的知識と実践力を養成する。

＜授業の到達目標＞
ゲームに必要なトレーニングをはじめ基礎技術（攻防）、チーム戦術の立て方等などの指導法を実戦を通して身につけさせる。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが資料、映像等を必要に応じて活用し講義授業をすすめていく。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するハンドボール指導に関する書籍・DVDを参照し、予習・復習(1コマにつき1時間)にあてる。また、授業ノートを作り、その日に行ったこと、 ポイント、感想などを記入していく。なお、授業ノートは定期的に集め、内容をチェックする。〈予習事項〉次回のj授業テーマ（あるいは教員が示すキーワード）について、テキスト、Web、参考文献等を通して、事前に自分の意見をまとめ、討論に備えておく。（1時間程度）※簡易レポートの提出を含む〈復習事項〉授業内容（講義・討論）をふりかえり、「何を学んだか、何を学べなかった

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付け、健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付ける。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度 50%、技術・戦術遂行能力・運動学習能力 30%、レポート 20%

＜教科書＞
＜参考書＞
笹倉清則（2003）
「Tactics of Handba in The Word」
財団法人日本ハンドボール協会
酒巻清治（2012）
「基本が身につく　ハンドボール　練習メニュー200」
池田書店

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンスと復習	授業の内容、すすめ方説明、ハンドボールの攻防とは
2	基礎技術・オフェンス（1）	攻防の技術（動作）づくり
3	基礎技術・オフェンス（2）	個人攻撃技術（状況判断、間合い、スタンス他）
4	基礎技術・オフェンス（3）	個人攻撃技術（ストップ、フェイク、ドリブル、シュート）
5	基礎技術・ディフェンス（1）	個人技術（詰めのタイムング、方向の読み、位置取り）
6	基礎技術・ディフェンス（2）	個人技術（ボールプレシャー、シュートカット、ブロック）
7	基礎技術・ゴールキーパー	ゴールキーパーの特性とゴールキーピングの技術、動作
8	攻撃戦術（1）指導方法	防御体型に対する攻撃.指導法、集団的機能
9	攻撃戦術（2）指導方法	第１局面～第２局面への展開、集団的機能
10	攻撃戦術（3）指導方法	第３局面（攻撃のきっかけづくり）、集団的機能
11	攻撃戦術（4）指導方法	第４局面（各種戦術の使い分け）、集団的機能
12	攻撃戦術（5）指導方法	数的状況における攻撃（数的優勢、数的劣勢）、集団的機能
13	防御戦術（1）指導方法	各種攻撃スタイルに対する防御戦術.指導法
14	防御戦術（2）指導方法	第１局面　帰陣（速攻に対する防御）、集団的機能
15	防御戦術（3）指導方法	第２局面　臨時ゾーンの防御、集団的機能
16	防御戦術（4）指導方法	第３局面　防御の組み立て、集団的機能
17	防御戦術（5）指導方法	第４局面　防御のシステム、集団的機能
18	防御戦術（6）指導方法	数的状況における防御（数的優勢、数的劣勢）、集団的機能

19	指導者養成の考え方	ジュニアー期から発達段階に応じての組織的プログラムの計画
20	指導者の役割	指導者の在り方、指導者像
21	ハンドボールの一貫指導（1）	競技者育成プログラムとスポーツ指導者養成
22	ハンドボールの一貫指導（2）	スポーツ振興基本計画と指導システムの構築
23	ハンドボール指導計画（1）	指導計画の立案（個人・集団指導）
24	ハンドボール指導計画（2）	練習計画の実施。評価
25	スキル評価と実際（1）	ゲーム実施．課題と修正（個人スキル、チーム評価）（1）
26	スキル評価と実際（2）	ゲーム実施．課題と修正（個人スキル、チーム評価）（2）
27	スキル評価と実際（3）	ゲーム実施．課題と修正（個人スキル、チーム評価）（3）
28	ゲームとレフエリング（1）	ゲームの実施．審判の実践と審判員の任務（1）
29	ゲームとレフエリング（2）	ゲームの実施．審判の実践と審判員の任務（2）
30	まとめ	ハンドボールの攻防総括

35402

科目コード	35402				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [ｻｯｶｰ] 《通年》				担当者名	桂　秀樹		
配当年次	4	配当学期	集中	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
サッカーは世界で一番盛んなスポーツと言われている。それは、ボール1つあれば「いつでも・どこでも・誰とでも」プレーができる極めてシンプルなスポーツだからである。そのサッカーに対する理解を深めていく。

＜授業の到達目標＞
チームスポーツ指導理論・Ⅰ（基礎）～Ⅱ（応用）で学んだことをもとに、各内容についてより深く考察し発展させていく。そして、実践を通してチームスポーツに必要な心技体を獲得させると共に、指導法について多角的に検討し、目的やテーマに応じた指導ができるよう、実践的技能を習得していくことを目的とし授業を行う。

＜授業の方法＞
主に実技を中心に展開するが、資料・映像等も必要に応じて活用し、技術・戦術や指導法についての講義授業も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業時に紹介するサッカーの技術・戦術・指導に関する書籍・DVDを参照し、毎時間課される次週課題について1時間の予習。毎時間課 され る授業課題について1時間の復習にあてる。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
体育・スポーツに関する科学的知見をベースに自らの課題を見つけ、課題解決に取り組み続けることができる生涯学習力を養成する科目である。3年次生に対し、チームスポーツの専門的知識と技能を学ぶことを通してチームスポーツに対する理解を深め、指導や改善方法を考案することができるようにする。チームスポーツ指導理論・実習Ⅰ（基礎）、Ⅱ（応用）を発展させる科目であり、Ⅳ（実践）と関連する科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲20%、技術・戦術・ゲームの内容理解度 40%、専門的理解度40%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業内容の説明、導入
2	サッカーの特性と歴史	サッカーの概要と歴史、ルールの変革
3	現代サッカーの特徴	世界と日本のサッカーの傾向と特徴
4	コーチングの発展（1）	競技者とのコミュニケーション
5	コーチングの発展（2）	競技者のモチベーションを高める
6	コーチングプラン（1）	シーズン全体のプランニング
7	コーチングプラン（2）	シーズンに向けてのプランニング
8	コーチングプラン（3）	シーズン中の中期的プランニング
9	コーチングプラン（4）	シーズン中の月間プランニング
10	コーチングプラン（5）	シーズン中の週間プランニング
11	コーチングプラン（6）	トレーニングプラン
12	コーチングプラン（7）	オフシーズン中のプランニング
13	テクニックの指導（1）	ボールタッチ、ボールコントロールの指導
14	テクニックの指導（2）	各種キック、パスの指導
15	テクニックの指導（3）	ドリブル、フェイントの指導
16	ボールポゼッションの指導（1）	３対１、４対１、４対２などのボールポゼッションの指導
17	ボールポゼッションの指導（2）	６対４、７対４などのボールポゼッションの指導
18	個人戦術の指導（1）	個人の守備戦術の指導
19	個人戦術の指導（2）	個人の攻撃戦術の指導
20	グループ戦術の指導（1）	２対１、２対２の指導
21	グループ戦術の指導（2）	３対２、３対３の指導
22	グループ戦術の指導（3）	４対３、５対４の指導
23	チーム戦術の指導（1）	チームとしての守備戦術の指導
24	チーム戦術の指導（2）	チームとしての攻撃戦術の指導

25	ゲームのコーチング（1）	ゲームの準備
26	ゲームのコーチング（2）	ゲーム中の状況分析
27	ゲームのコーチング（3）	映像を使ったゲーム分析
28	競技者の評価	競技者を評価する項目
29	コーチングの評価（1）	プログラムの評価
30	コーチングの評価（2）	指導実践の評価

35402

科目コード	35402				区　分	コア科目		
授業科目名	チームスポーツ指導理論･実習Ⅳ(実践) [硬式野球]《通年》				担当者名	金　無英		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
チームスポーツ指導理論・実習Ⅰ～Ⅲで学習したことをもとに、さらに深く考察を加え、発展させてる。そして、実践の中でチームスポーツに関わる技術を高め、指導法について多角的に検討し、目標やテーマに応じた指導を行うことができる実践的技能を身につける。

＜授業の到達目標＞
技術力を高めるための効果的な指導のあり方、および評価方法についての理解を深めると同時に、ミーティングにより最終的な目標や方針などを理解し、実践的指導力を高める。

＜授業の方法＞
実習形式で行う。講義、映像教材を用いての分析・解説も行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各自の課題解決に取り組む。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
健康増進、体力の向上、競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を習得すると共に、これらを実践できる力を養成するための実践的科目であり、四年次生に対し、深い専門性と実践力を身に付けた人材の育成を目指すものである。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度・学習意欲　20%、技術・戦術・ゲームの内容・理解度　40%、専門的理解度　40%｜受講態度とスキル習得度を総合的に判断して評価する。｜

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	服装、心構え、評価などの説明
2	チームスポーツの特性	授業内容の説明、映像教材視聴
3	ウォーミングアップ	ランニング、ストレッチ、体幹トレーニング
4	打撃理論１	構え方、スタンス
5	打撃理論２	スイングの軌道
6	打撃理論３	タイミングの取り方
7	打撃理論４	正しいティー打撃、トス打撃
8	打撃理論５	変化球の打撃
9	打撃理論６	実践による打撃（シートバッティング）
10	打撃理論７	実践による打撃（ケースバッティング）
11	打撃理論８	犠打（送りバンド）
12	打撃理論９	犠打（スクイズバンド）
13	打撃理論10	作戦（ヒットエンドラン・ランエンドヒット）
14	投球理論１	ワインドアップ
15	投球理論２	リフトアップ
16	投球理論３	ステップ（ヒップファースト～踏み足の着地）
17	投球理論４	テイクバック～バックトップ～トップ
18	投球理論５	リリース（腕の回旋・グラブの使い方）
19	投球理論６	フォロースルー
20	投球理論７	ストレートの投げ方
21	投球理論８	変化球の投げ方・重要性
22	投球理論９	フィールディング・牽制の重要性
23	投球理論10	打者心理・配球について
24	投球理論11	実践による投球（シートバッティング）
25	投球理論12	実践による投球（ケースバッティング）
26	リーグ戦	試合・運営方法の学習

27	トーナメント戦	試合・運営方法の学習
28	発表	プレゼンテーション
29	到達度の確認	レポート作成
30	総括	ルール、技術、指導理論、審判法

32423

科目コード	32423				区　分	コア		
授業科目名	音楽表現指導理論・実習Ⅳ(実践)［ﾏｰﾁﾝｸﾞ］《通年》				担当者名	中家　淳悟		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業においては音楽表現、身体表現、集団表現など複合的な芸術表現要素を併せ持つマーチングを取り扱い、子どもの豊かな表現力の助けとなる音楽表現指導理論を身につける。音楽表現指導理論・実習Ⅰ～Ⅲで学んだことを実践し、マーチングや様々な音楽表現において指導する際に教材として使用出来る楽曲や作品を制作する能力を身につける。

＜授業の到達目標＞
音楽表現指導の際、教材として実際に使用できる楽曲や作品制作をする技術、技能を身につける。

＜授業の方法＞
・実技を中心に展開する・グループワーク（発展で学んだことを実践させ楽曲や作品制作の構想）・フィールドワーク（楽曲や作品制作の実践）・討論（効果の検証）・まとめ（楽曲や作品制作の講評）・Google　Classroomをプラットフォームとして活用する

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習：次回授業のテーマについての事前学習（毎回３０分程度）復習：課題解決への取り組み（毎回３０分程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教育経営学科のディプロマポリシー６（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている）と関連付けられている。「様々な表現を理解し豊かな人間性とコミュニケーション能力を備えた人」を育成するための実践科目であり、３年次配当の「音楽表現指導理論・実習Ⅲ」のステップ履修科目でもある。実習を通して、多様な音楽表現について実践的な理解を深め、技術を習得し、指導理論を習得し音楽表現の高度で実践的な楽曲や作品制作に取り組む機会を提供する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
受講態度、貢献度 30、％実技技能達成度 70%

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	ガイダンス	授業の心構えと評価方法履修にあたっての諸注意
2	管楽器の楽曲制作（１）	記譜法について
3	管楽器の楽曲制作（２）	調号について
4	管楽器の楽曲制作（３）	コードネームについて
5	管楽器の楽曲制作（４）	コード進行について
6	管楽器の楽曲制作（５）	楽曲アレンジ（基礎）
7	管楽器の楽曲制作（６）	楽曲アレンジ（応用）
8	打楽器の楽曲制作（１）	打楽器の記譜法（基礎）
9	打楽器の楽曲制作（２）	打楽器の記譜法（応用）
10	打楽器の楽曲制作（３）	打楽器の特性の理解（音域）
11	打楽器の楽曲制作（４）	打楽器の効果（音楽効果）
12	打楽器の楽曲制作（５）	楽曲アレンジ（打楽器基礎）
13	打楽器の楽曲制作（６）	楽曲アレンジ（打楽器応用）
14	カラーガードのコレオグラフ（１）	フラッグを使った振付（スローテンポ）
15	カラーガードのコレオグラフ（２）	フラッグを使った振付（ミドルテンポ）
16	カラーガードのコレオグラフ（３）	フラッグを使った振付（ハイテンポ）
17	カラーガードのコレオグラフ（４）	セーバーを使った振付（スローテンポ）
18	カラーガードのコレオグラフ（５）	セーバーを使った振付（ミドルテンポ）
19	カラーガードのコレオグラフ（６）	セーバーを使った振付（ハイテンポ）
20	カラーガードのコレオグラフ（７）	ライフルを使った振付（スローテンポ）
21	カラーガードのコレオグラフ（８）	ライフルを使った振付（ミドルテンポ）
22	カラーガードのコレオグラフ（９）	ライフルを使った振付（ハイテンポ）
23	マーチングの作品制作（１）	ドリルデザイン（パレーディング）
24	マーチングの作品制作（２）	ドリルデザイン（ボックスを使ったデザイン）
25	マーチングの作品制作（３）	ドリルデザイン（ラインコンビネーション）

26	マーチングの作品制作（4）	ドリルデザイン（フォローザリーダーパターン）
27	マーチングの作品制作（5）	ドリルデザイン（モーフィング）
28	マーチングの作品制作（6）	ドリルデザイン（ステージング）
29	マーチングの作品制作（7）	ドリルデザイン（ジェネラルエフェクト）
30	総括	授業のまとめ

53063

科目コード	53063				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	整復臨床実習Ⅲ　《通年》				担当者名	古山　喜一、飯出　一秀、河野　儀久、畑島　紀昭、坂本　賢広、簀戸　崇史		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
附属臨床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。実習指導者のもとで、将来柔道整復師を目指す学生として対象者の検査・測定評価を実施し、それにより障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療計画の立案・実施、再評価ができるようにする。

＜授業の到達目標＞
８つの目標を設定し、臨床実習に臨む事とする。①専門職としての適性を培いふさわしい態度をとることができる。②対象者のリスク管理に配慮できる。③柔道整復の施術を施行するための情報収集・検査測定ができる。④得られた情報を整理し、疾患と障害の構造を把握することができる。⑤目標を設定し、治療・援助計画を立案することができる。⑥対象者の再評価、治療計画の変更ができる。⑦患者との良好なコミュニケーションが取れる。⑧他の職種間との良好な連携が取れる。

＜授業の方法＞
整復臨床実習Ⅱを修了した者が本実習を受講することが出来る。臨床実習施設において4月～9月の期間中に１週間の現場実習を行う。実習指導者に従い、初診患者に対する医療面接および検査・測定の一部を実施する。後療法においては、実習指導者に従い、手技療法、物理療法、運動療法の一部を実施する。担当患者について実習指導者とともに対応し、その疾患についてレポート作成およびプレゼンテーションを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科ディプロマポリシー７に関連付けられている「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」を備え、整復臨床実習Ⅳにスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか1
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
17	接骨院実習	到達目標の確認２
18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
21	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	到達目標の確認１	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
29	接骨院実習	到達目標の確認３
30	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

53064

科目コード	53064				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	整復臨床実習Ⅳ　《通年》				担当者名	飯出　一秀、古山　喜一、河野　儀久、畑島　紀昭、坂本　賢広、簀戸　崇史		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
整復臨床実習Ⅲで得た実習経験をもとに、更なる柔道整復業務の研鑽に務める。床実習施設および臨地実習施設において患者施術の補助をする。実習指導者のもとで、将来柔道整復師を目指す学生として対象者の検査・測定評価を実施し、それにより障害構造の理解を深め、問題点の把握、目標の設定、治療計画の立案・実施、再評価ができるようにする。

＜授業の到達目標＞
整復臨床実習Ⅲで得られた到達目標を理解し、以下8つの到達目標の更なる研鑽に努める。①専門職としての適性を培いふさわしい態度をとることができる。②対象者のリスク管理に配慮できる。③柔道整復の施術を施行するための情報収集・検査測定ができる。④得られた情報を整理し、疾患と障害の構造を把握することができる。⑤目標を設定し、治療・援助計画を立案することができる。⑥対象者の再評価、治療計画の変更ができる。⑦患者との良好なコミュニケーションが取れる。⑧他の職種間との良好な連携が取れる。

＜授業の方法＞
整復臨床実習Ⅲを了した者が本実習を受講することが出来る。臨床実習施設において4月～9月の期間中に１週間の現場実習を行う。実習指導者に従い、初診患者に対する医療面接および検査・測定の一部を実施する。後療法においては、実習指導者に従い、手技療法、物理療法、運動療法の一部を実施する。担当患者について実習指導者とともに対応し、その疾患についてレポート作成およびプレゼンテーションを実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
症例（担当患者）・実習内容（実技・講義・討論）をふりかえり、「評価・後療法プログラム・ゴール設定。管理など」また、「何を学んだか、何を学べなかったのか」についてレポート（A4-1枚程度）を作成し、期日までにデータで担当教員にDropboxを用い送信する。（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は健康科学科ディプロマポリシー７に関連付けられている「日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付けている」を備え、実際の臨床現場へスムーズに導かれるよう、診察手順に始まり、計測・評価を科学的思考を基本にした治療計画の組み立て方について理解を深め、臨床現場に備える機会とする。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実習レポート80%および実習現場での受講態度・学習意欲20%で評価する。

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	臨床実習のガイダンス
2	接骨院実習・柔道整復師の施術	業務範囲について
3	接骨院実習・施術所について	関係法規に記載されている施術所を理解
4	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
5	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
6	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
7	接骨院実習・後療法について	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
8	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	施術者としてチェックポイントをクリアしているか1
9	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
10	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
11	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
12	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
13	到達目標の確認１	到達目標の確認３
14	接骨院実習・研究課題によるケーススタディー	本学臨床実習施設内で実施施術から課題抽出
15	接骨院実習	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
16	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
17	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施

18	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
19	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
20	接骨院実習	到達目標の確認４
21	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
22	接骨院実習・研究課題についてのロールプレー	グループで研究課題を決めロールプレーを行う
23	接骨院実習	施術者としてチェックポイントをクリアしているか2
24	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
25	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
26	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
27	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
28	接骨院実習	本学臨床実習施設内で実施
29	接骨院実習	到達目標の確認５
30	到達目標の確認２	本学臨床実習施設内で実施・振り返り

27100

科目コード	27100				区　分	コア科目		
授業科目名	解剖学Ⅰ				担当者名	百田　龍輔		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化 器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
1）消化器系では　口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸と大唾液腺、肝臓、膵臓の形態が説明できるようになる。｜2）呼吸器系では　鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の形態が説明できるようになる。｜3）泌尿器系では　腎臓、尿管、膀胱、尿道の形態が説明できるようになる。｜4）生殖器系では　精巣、精巣上体、精管、陰茎と精嚢、前立腺、および卵巣、卵管、子宮、膣の｜形態が説明できるようになる。｜5）内分泌系では　下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎などの形態が説明できるようになる。｜6）骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿い、パワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、　講義進行上部分的に入れ替えることがある）　適時 プリントを配布し教科書を補完する。　重要な学習項目については　随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。当該科目は全45コマで構成されており、シラバス1-15項目を30コマで学習し（担当：百田）シラバス16-30項目を15コマで学習する（担当：畑島）。｜

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す講義予定範囲を 教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連つけて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）｜及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。｜

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・試験70％（なお、単位取得に関し、担当教員2名の試験の合格点を取得する必要がある。）｜

＜教科書＞
岸　清・石塚　寛 編
「解剖学」
医歯薬出版
＜参考書＞
坂井建夫・大谷 修 著
「プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系）」
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）
「プロメテウス解剖学アトラス（頭部　神経解剖）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）｜松村譲児　著（2007）「プロメテウス解剖学アトラス（頚部　胸部　腹部 骨盤部）」｜「イラスト解剖学」
医学書院｜中外医学社
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	消化器１	消化管（口腔，咽頭，食道，胃，小腸）の形態
2	消化器２	消化管（胃，小腸）の形態
3	消化器３	消化管（大腸）
4	消化器４	消化腺（肝臓，膵臓）の形態
5	呼吸器１	鼻腔，喉頭の形態
6	呼吸器２	気管，気管支
7	呼吸器３	肺の形態の形態
8	泌尿器系１	腎臓１
9	泌尿器系２	腎臓２

10	泌尿器系３	尿管　膀胱　尿道
11	生殖器１	男性生殖器（精巣　精巣上体　精管　陰茎と精嚢）
12	生殖器２	女性生殖器（卵巣）
13	生殖器３	女性生殖器（卵管 子宮　膣）
14	内分泌系	下垂体　松果体
15	内分泌系	甲状腺 上皮小体 副腎など
16	細胞	形態と内部構造
17	組織	組織の分類と特性
18	発生	人体の発生
19	骨格系総論	骨の役割・分類・構造
20	骨格各論1	脊柱
21	骨格各論２	胸郭
22	骨格各論３	上肢帯
23	骨格各論４	上腕の骨
24	骨格各論５	前腕の骨・手指骨
25	骨格各論６	下肢帯
26	骨格各論７	下肢の骨
27	骨格各論８	足趾骨
28	骨格各論９	頭部
29	脈管・神経	全身の脈管系・神経系
30	内蔵全般	胸部・腹部の内蔵

27100

科目コード	27100				区　分	コア科目		
授業科目名	解剖学Ⅰ				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化 器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
１）消化器系では口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸と大唾液腺、肝臓、膵臓の形態が説明できるようになる。２）呼吸器系では鼻腔、喉頭、気管、気管支、肺の形態が説明できるようになる。３）泌尿器系では腎臓、尿管、膀胱、尿道の形態が説明できるようになる。４）生殖器系では精巣、精巣上体、精管、陰茎と精嚢、前立腺、および卵巣、卵管、子宮、膣の形態が説明できるようになる。５）内分泌系では下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎などの形態が説明できるようになる。６）骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿い、パワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義進行上部分的に入れ替えることがある） 適時 プリントを配布し教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。当該科目は全45コマで構成されており、シラバス1-15項目を30コマで学習し(担当：百田)シラバス16-30項目を15コマで学習する(担当：畑島)。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意する事（百田）。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す講義予定範囲を 教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・試験70％（なお、単位取得に関し、担当教員2名の試験の合格点を取得する必要がある。）

＜教科書＞
坂井建夫・橋本尚詞
ぜんぶわかる人体解剖図
成美堂出版

＜参考書＞
坂井建夫・大谷 修 著
プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）
プロメテウス解剖学アトラス（頭部 神経解剖）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）松村譲児著（2007）プロメテウス解剖学アトラス（頚部 胸部 腹部 骨盤部）イラスト解剖学
医学書院中外医学社

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	消化器１骨格系総論	消化管（口腔，咽頭，食道，胃，小腸）の形態骨の役割・分類・構造
2	消化器２骨格各論1	消化管（胃，小腸）の形態脊柱
3	消化器３骨格各論２	消化管（大腸）胸郭
4	消化器４まとめ１	消化腺（肝臓，膵臓）の形態１～3回のまとめ
5	呼吸器１骨格各論３	鼻腔，喉頭の形態上肢帯
6	呼吸器２骨格各論４	気管，気管支上腕の骨
7	呼吸器３骨格各論５	肺の形態の形態前腕の骨
8	泌尿器系１まとめ２	腎臓１５～7回のまとめ
9	泌尿器系２骨格各論６	腎臓２手指骨

10	泌尿器系３骨格各論７	尿管 膀胱 尿道下肢帯
11	生殖器１骨格各論８	男性生殖器（精巣精巣上体 精管 陰茎と精嚢）下肢の骨
12	生殖器２まとめ３	女性生殖器（卵巣）９～１１回のまとめ
13	生殖器３骨格各論９	女性生殖器（卵管 子宮 膣）足趾骨
14	内分泌系骨格各論１０	下垂体 松果体頭部
15	内分泌系まとめ４	甲状腺 上皮小体 副腎など１３．１４回のまとめ
16	細胞	形態と内部構造
17	組織	組織の分類と特性
18	発生	人体の発生
19	骨格系総論	骨の役割・分類・構造
20	骨格各論1	脊柱
21	骨格各論2	胸郭
22	骨格各論3	上肢帯
23	骨格各論4	上腕の骨
24	骨格各論5	前腕の骨・手指骨
25	骨格各論6	下肢帯
26	骨格各論7	下肢の骨
27	骨格各論8	足趾骨
28	骨格各論9	頭部
29	脈管・神経	全身の脈管系・神経系
30	内臓全般	胸部・腹部の内蔵

3F101

科目コード	3F101				区　分	コア科目		
授業科目名	解剖学Ⅱ				担当者名	百田　龍輔		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
1）感覚器系では　視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚の形態が説明できるようになる。｜2）神経系では　中枢神経（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）と末梢神経（自律神経、脳神経、脊髄神経）の形態が 説明できるようになる。｜3）脈管系では　心臓、動脈、静脈、毛細血管の形態が説明できるようになる。｜4）骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。　重要な学習項目については　随時学生を指名し　発表討論形式で説明させる。　講義終了時に　その日の授業内容全般を整理するために　全員に試験形式で問題を解答させる。当該科目は全45コマで構成されており、シラバス1-15項目を30コマで学習し（担当：百田）シラバス16-30項目を15コマで学習する（担当：畑島）。｜

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す講義予定範囲を　教科書で予習してくること。（1時間）｜講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連つけて整理しておくこと。（1時間）｜

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）｜及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。｜

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・評価試験70％（なお、単位取得に関し、担当教員2名の試験の合格点を取得する必要がある。）｜

＜教科書＞
岸　清・石塚　寛 編
「解剖学」
医歯薬出版

＜参考書＞
坂井建夫・大谷 修 著
「プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系）」
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著
「プロメテウス解剖学アトラス（頭部・神経解剖）　」
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著「プロメテウス解剖学アトラス（頚部・胸部・腹部・骨盤部）」
医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	感覚器１	視覚器
2	感覚器２	平衡聴覚器１
3	感覚器３	平衡聴覚器２，嗅覚器，味覚器，皮膚
4	中枢神経１	大脳
5	中枢神経２	間脳，　小脳
6	中枢神経３	中脳，　橋，　延髄
7	中枢神経４	脊髄
8	末梢神経１	脳神経
9	末梢神経２	脊髄神経１
10	末梢神経３	脊髄神経２
11	末梢神経４	自律神経（交感神経　副交感神経）

12	脈管系１	血液循環 心臓
13	脈管系２	心臓
14	脈管系３	大動脈とその枝
15	脈管系４	上大静脈　下大静脈とその根　リンパ管
16	細胞および組織	形態と内部構造・生殖細胞
17	骨格系総論	骨の役割・分類・構造
18	骨格各論１	上肢の骨
19	骨格各論２	下肢の骨
20	骨格筋総論	筋の形態・作用・補助装置
21	頭部の筋	顔面筋・咀嚼筋
22	頸部の筋	広頚筋・胸鎖乳突筋等
23	胸部の筋	大胸筋・小胸筋・肋間筋等
24	腹部の筋	腹直筋・内外腹斜筋等
25	背部の筋	浅背筋・深背筋
26	上肢帯の筋	上肢帯の筋
27	上肢の筋	上肢の筋
28	下肢帯の筋	下肢帯の筋
29	下肢の筋	下肢の筋
30	全身の筋・骨・神経・内蔵全般	骨格系・神経系・内蔵系の総仕上げを実施する

3F101

科目コード	3F101				区　分	コア科目		
授業科目名	解剖学Ⅱ				担当者名	畑島　紀昭		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
スポーツ医科学、柔道整復学習得のためには解剖学の知識が必須である。解剖学では人体を構成する骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系、神経系、脈管系の各器官の正常構造について系統的に学習する。また人体が、この10種類の器官系が立体的に配置することによって形成されていることを学習する。

＜授業の到達目標＞
１）感覚器系では視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器、皮膚の形態が説明できるようになる。２）神経系では中枢神経（大脳、間脳、中脳、小脳、橋、延髄）と末梢神経（自律神経、脳神経、脊髄神経）の形態が 説明できるようになる。３）脈管系では心臓、動脈、静脈、毛細血管の形態が説明できるようになる。４）骨格系では、骨の部分名称、筋の起始停止支配神経運動作用全てが説明できるようになる。

＜授業の方法＞
教科書に沿いパワーポイントを使用して講義する。（教科書の各項目については、講義の進行上部分的に入れ替えることがある。）適時プリントを配布して教科書を補完する。重要な学習項目については随時学生を指名し発表討論形式で説明させる。講義終了時にその日の授業内容全般を整理するために全員に試験形式で問題を解答させる。当該科目は全45コマで構成されており、シラバス1-15項目を30コマで学習し（担当：百田）シラバス16-30項目を15コマで学習する（担当：畑島）。Google Suites, Kahoot, Flipgridなどのシステムを用いて反転授業、クイズ、課題の提出を行うので、各自インターネット接続可能な端末を用意する事（百田）。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
授業計画に示す講義予定範囲を教科書で予習してくること。（1時間）講義で習った事項をその日のうちに、教科書、プリントで復習する。またすでに学習した知識と有機的に関連付けて整理しておくこと。（1時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP2（柔道整復学及び健康科学、スポーツ医科学分野に必要な専門知識と技能を理解し、日々進歩する医学分野に対応できる能力を身に付けている。）及びDP3（幅広く深い教養を身に付け、体育・スポーツ人としての立場を歴史・社会・自然と関連付けて理解する能力を身に付けている。）に対応している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
学習意欲30％・評価試験70％（なお、単位取得に関し、担当教員2名の試験の合格点を取得する必要がある。）

＜教科書＞
岸 清・石塚 寛 編
解剖学
医歯薬出版
坂井建夫・橋本尚詞
ぜんぶわかる人体解剖図
成美堂出版

＜参考書＞
坂井建夫・大谷 修 著
プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論・運動器系）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）
プロメテウス解剖学アトラス（頭部 神経解剖）
医学書院
坂井建夫・大谷 修 著（2007）プロメテウス解剖学アトラス（頚部 胸部 腹部 骨盤部）
医学書院

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	感覚器１骨格系総論	視覚器筋の形態・作用・補助装置
2	感覚器２骨格筋総論１	平衡聴覚器１筋の形態・作用
3	感覚器３骨格筋総論２	平衡聴覚器２，嗅覚器，味覚器，皮膚筋の形態・作用・補助装置
4	中枢神経１まとめ１	大脳1から3回のまとめ
5	中枢神経２頭部の筋	間脳，　小脳顔面筋・咀嚼筋
6	中枢神経３頸部の筋	中脳，　橋，　延髄広頚筋・胸鎖乳突筋等
7	中枢神経４胸部の筋	脊髄大胸筋・小胸筋・肋間筋等

8	末梢神経１まとめ２	脳神経５～7回目のまとめ
9	末梢神経２腹部の筋	脊髄神経１腹直筋・内外腹斜筋等
10	末梢神経３上肢帯の筋	脊髄神経２上肢帯の筋
11	末梢神経４上肢の筋	自律神経（交感神経副交感神経）上肢の筋
12	脈管系１まとめ３	血液循環 心臓9から11回目のまとめ
13	脈管系２下肢帯の筋	心臓下肢帯の筋
14	脈管系３下肢の筋	大動脈とその枝下肢の筋
15	脈管系４まとめ４	上大静脈下大静脈とその根 リンパ管13.14回目のまとめ
16	細胞および組織	形態と内部構造・生殖細胞
17	骨格系総論	骨の役割・分類・構造
18	骨格各論１	上肢の骨
19	骨格各論２	下肢の骨
20	骨格筋総論	筋の形態・作用・補助装置
21	頭部の筋	顔面筋・咀嚼筋
22	頸部の筋	広頚筋・胸鎖乳突筋等
23	胸部の筋	大胸筋・小胸筋・肋間筋等
24	腹部の筋	腹直筋・内外腹斜筋等
25	背部の筋	浅背筋・深背筋
26	上肢帯の筋	上肢帯の筋
27	上肢の筋	上肢の筋
28	下肢帯の筋	下肢帯の筋
29	下肢の筋	下肢の筋
30	全身の筋・骨・神経・内蔵全般	骨格系・神経系・内蔵系の総仕上げを実施する

55007

科目コード	55007				区　分	教養科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	髙﨑　展好		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

＜授業の到達目標＞
①学生生活：よい生活習慣の確立する。②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる。③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる。

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は一般教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指しいます。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 40%、スピーチ20%、課題 40%

＜教科書＞
吉原恵子/馬渕泰尚/富江英俊/小針誠（2018年5月1日）
スタディスキルズ・トレーニング改訂版
実教出版
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	本授業の授業計画・授業の到達目標と注意事項、成績評価などを確認する。クラス目標の設定、クラス内の相互理解（自己紹介）
2	FSの振り返り、防災教育①	IPU学①についての振り返りを行う。学力・進路・主副免許取得・生活面について目標を設定する。大学内のハザードマップについて考える。保育体験のための事前学習
3	大学とはどのようなところだろう	大学内の部署・施設、場所・開閉時間・役割をまとめ大学生活に役立てる
4	大学・学部・学科について知ろう	大学の歴史や理念、学部・学科のディプロマポリシーについて理解を深める
5	FSの振り返り大学生としての心構え	これからの大学生活を考える
6	チームビルディング	学部、学科、クラスのチームビルディング。帰属意識について考えよう。
7	FSの振り返りスピーチ原稿作成	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。伝わるスピーチ原稿を作成する。
8	FSの振り返りプレ・スピーチコンテスト（テーマ：私という存在）	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。テーマFSでの学びをクラス全体で振り返り，意見を伝え合う。テーマに基づいて自分自身について１分間でスピーチしたことを基に意見交換をする。
9	後期目標設定・体育祭説明・体育祭種目決め	後期目標設定。体育祭参加に向け、クラス内のチームビルディング。
10	スピーチスキル・アップ①クラス予選	スピーチコンテストに向けてクラス内予選を行う。
11	スピーチスキル・アップ②学科予選	スピーチコンテスト学科予選クラス代表のスピーチを聴いて評価する。
12	スピーチコンテストの振り返り学科の学びと進路①	スピーチコンテストの感想を伝え合い、考えを共有する。保育教育という仕事について意見を出し合い、進路決定の参考にする。
13	FSの振り返り学科の学びと進路②	FSでの学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。保育士採用試験の問題を実際に解いてみる。

14	FSの振り返り学科の学びと進路③	学びをクラス全体で振り返り、意見を伝え合う。学科教育と進路のつながりについて考える。進路決定した４年生に聴いてみたいこと（グループワーク）
15	２年生に向けたロードマップ作成	１年間を振り返り、2年生の大学生活を具体的に計画する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	田部　永子		
配当年次	3	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
ゼミナールでは、幼児教育の基本について理解を深め、実践力の高い保育者になるために専門職としての知識や技能を身に付けることを目的とします。|ゼミナールⅠでは「遊びの教育的価値」「環境を通して行う教育」の理解を実践演習を通して学ぶとともに、保育職の楽しさや遣り甲斐も実感しましょう。〃|

＜授業の到達目標＞
〃○保育における遊びの意味を理解する。|○ねらいを達成するための環境構成ができる。|○専門職に必要な技術の習得、自分の得意分野の遊びの引き出しを増やす。〃|

＜授業の方法＞
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領などをもとに、幼児教育の基本を復習する。|遊びを実践し、ねらい、環境等のテーマに沿ってディスカッションし、遊びの教育的価値を確認していく。||

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習は、各自、自分が得意とする分野の遊びを選び、どうしてこの遊びを選んだか・遊びで何が育つのか・環境構成について説明、発表する準備をする。（2時間程度）|復習は、ディスカッションでの質問に対する解決、回答、振り返りをまとめる。（1時間程度）|

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
ゼミナールは応用的な活動であり、こども発達学科のディプロマポリシーにおけるDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観をもち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に対応した教育活動を展開する。　|

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
テーマの取り組み（発表、演習）の状況（50%）|個別発表、資料作成や予習の状況（50%）||グループでの相互評価も行い、学生同士での評価、改善点などの探求を行う。　|

＜教科書＞
特になし
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	授業の進め方と評価について確認
2	幼児教育の基本について①	幼稚園の教育|保育者の専門性について
3	幼児教育の基本について②	保育所・こども園の教育保育について|研究テーマを決める。
4	幼児教育の基本について③	環境を通して行う教育について|遊びから考える。
5	楽習としての遊びを考える。①	演習とディスカッション
6	楽習としての遊びを考える。②	演習とディスカッション|ねらいについて
7	楽習としての遊びを考える。③	演習とディスカッション　　ねらいについて
8	楽習としての遊びを考える。④	演習とディスカッション　　環境について
9	楽習としての遊びを考える。⑤	演習とディスカッション　　環境について
10	楽習としての遊びを考える。⑥	演習とディスカッション　　遊びのつながりについて
11	保育現場で学ぶ。①	実際の保育現場でゼミでの学びを検証する。
12	保育現場で学ぶ。②	学んだことをまとめてプレゼン発表する。
13	楽習としての遊びを考える。⑦	演習とディスカッション　　遊びのつながりについて
14	まとめ①	成果発表
15	まとめ②	成果発表
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		

24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	平松　美由紀			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
・ゼミナールⅠでは、日本の保育、幼児教育の在り方、乳幼児、保育者の現状とその課題を探ることをテーマとし、日本の保育、幼児教育の歴史的な変遷と、保育、幼児教育の中心的な考えを知る。また、テーマに関わる資料、文献等を収集し、ディスカッションしたり、発表したりする。

＜授業の到達目標＞
日本の保育、幼児教育における保育の在り方について説明し、保育者としての基本的な力量形成を目指す。また、資料や文献を要約したり、プレゼンテーションしたりできる。

＜授業の方法＞
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領などをもとに、日本の保育、幼児教育に関する文献や資料を取集し、保育、幼児教育の現状説明をしたり、課題発見とその解決方法について探る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習は、各自、自分が詳しく調べたい資料を収集する。それについて問題、要因、課題について説明、発表をする準備をする。（2時間程度）復習は、ゼミでのディスカッションでの質問に対する解決、回答、振り返り（1時間程度）個別のテーマについて発表時には2時間程度の予習を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
・ゼミナールは応用的な活動であり、こども発達学科のディプロマポリシーにおけるDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観をもち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に対応した教育活動を展開する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
テーマの取り組み（発表、演習）の状況（50%）個別発表、資料作成や予習の状況（50%）グループでの相互評価も行い、学生同士での評価、改善点などの探求を行う。

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の取り組み方と評価についての確認	テーマの確認と全体のゼミナールの進め方
2	専門職の基本姿勢①	専門職としての資質
3	専門職の基本姿勢②	専門職として身に付ける能力
4	専門職の基本姿勢③	専門職の理解
5	保育者の専門的力量に関する分析①	幼児理解するとは
6	保育者の専門的力量に関する分析②	保育、幼児教育の方法
7	保育者の専門的力量に関する分析③	遊びとは（ディスカッション）
8	保育者の専門的力量に関する分析④	5領域を総合的に指導するとは（ディスカッション）
9	保育内容に関する分析①	領域「健康」を考察視座において事例分析
10	保育内容に関する分析②	領域「人間関係」を考察視座において事例分析
11	保育内容に関する分析③	領域「環境」を考察視座において事例分析
12	保育内容に関する分析④	領域「言葉」を考察視座において事例分析
13	保育内容に関する分析⑤	領域「表現」を考察視座において事例分析
14	乳幼児期から児童期をふまえるとは	乳幼児期から義務教育の教科学習への接続
15	総括	まとめと次年度に向けてテーマ整理
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

55007

科目コード	55007				区　分	コア科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	川瀬　雅		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
・ゼミナールⅠでは、日本の保育、幼児教育の在り方、乳幼児、保育者の現状とその課題を探ることをテーマとし、日本の保育、幼児教育の歴史的な変遷と、保育、幼児教育の中心的な考えを知る。また、テーマに関わる資料、文献等を収集し、ディスカッションしたり、発表したりする。

＜授業の到達目標＞
日本の保育、幼児教育における保育の在り方について説明し、保育者としての基本的な力量形成を目指す。また、資料や文献を要約したり、プレゼンテーションしたりできる。

＜授業の方法＞
保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領などをもとに、日本の保育、幼児教育に関する文献や資料を取集し、保育、幼児教育の現状説明をしたり、課題発見とその解決方法について探る。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
予習は、各自、自分が詳しく調べたい資料を収集する。それについて問題、要因、課題について説明、発表をする準備をする。（2時間程度）復習は、ゼミでのディスカッションでの質問に対する解決、回答、振り返り（1時間程度）個別のテーマについて発表時には2時間程度の予習を要する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
・ゼミナールは応用的な活動であり、こども発達学科のディプロマポリシーにおけるDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観をもち、地域社会の実情に応じ、学術性を備えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に対応した教育活動を展開する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
テーマの取り組み（発表、演習）の状況（50%）個別発表、資料作成や予習の状況（50%）グループでの相互評価も行い、学生同士での評価、改善点などの探求を行う。

＜教科書＞
特に指定しない
＜参考書＞
特に指定しない
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	授業の取り組み方と評価についての確認	テーマの確認と全体のゼミナールの進め方
2	専門職としての基本姿勢①	専門職としての資質
3	専門職の基本姿勢②	社会人・専門職として身に付ける能力
4	専門職の基本姿勢③	専門職の理解
5	保育者の専門的力量に関する分析①	保育・幼児教育の基本的考え方についての検討
6	保育者の専門的力量に関する分析②	保育、幼児教育の方法について調査
7	保育者の専門的力量に関する分析③	遊びとは（ディスカッション）
8	保育者の専門的力量に関する分析④	5領域を総合的に指導するとは（ディスカッション）
9	保育内容に関する分析①	領域「健康」を考察視座において事例分析
10	保育内容に関する分析②	領域「人間関係」を考察視座において事例分析
11	保育内容に関する分析③	領域「環境」を考察視座において事例分析
12	保育内容に関する分析④	領域「言葉」を考察視座において事例分析
13	保育内容に関する分析⑤	領域「表現」を考察視座において事例分析
14	乳幼児期から児童期をふまえるとは	乳幼児期から義務教育の教科学習への接続
15	総括	まとめと次年度に向けてテーマ整理
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		

23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	白取　耕一郎		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	本村　大輔		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「税法」の領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように教員が支援します。また、本ゼミナールでは、あらかじめ決められたテーマに従って各ゼミ生が報告資料を作成し報告をします。この報告に基づいてゼミ生全体で議論を行い、最後に教員が講評をします。なお、少人数の場合は個人報告、大人数の場合はグループ報告を行っていただきます。|報告については、報告資料の作成を行っていただきますが、資料の作成方法については、授業内で指導致します。その際、文献研究や研究方法等につ

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける検討・研究・報告を通じて思考力・判断力・資料作成能力・プレゼン能力・ディスカッション能力の向上を目指します。|社会人に求められる一般教養をはじめ専門教養の学力（税法）を身につける。

＜授業の方法＞
３年生は通年、教材のテーマの中からあらかじめ決められたテーマに従って報告を行い、当該報告に基づいてゼミ全体で議論を行います。報告に際しては、報告資料の作成を求めますので、最低でもWord・パワポなどを扱えることを前提としています。|また、前期・後期の間に最低１回は判例研究を行っていただきます。なお、判例研究については報告前に判例研究の方法に関して事前に説明いたします。|授業は、ゼミ生の報告を中心に議論・検討を行うので責任感をもってゼミに臨める方を対象とします。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【事前学習】|報告担当者：報告テーマに関する資料作成（1.5～３時間）、報告の練習（45～60分）|報告担当者以外のゼミ生：報告テーマに関する教材の該当箇所の精読、論点チェック、質問内容の整理||【事後学習】|報告者：報告に際してゼミ生や教員から指摘された事項を整理しまとめる（30～60分）|報告者以外のゼミ生：報告者が指摘された事項を整理し、自身の報告時にフィードバックするための準備を整える（30～60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
ゼミを通じて法律科目等で修得した知識をもとに、税法に関する個人の研究テーマを追求する。また、報告を通じて資料作成能力、文献検索能力、プレゼン能力、ヒアリング能力などの向上を目指します。|この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、法的思考力、コミュニケーション能力など）を身に付ける。|各自のテーマを探求していくことで、税法に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する法的問題を分析・検討し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
報告への取り組み 80%、積極的な議論への参加 20%。|提出・発表された課題に対してディスカッション、次に取り組む課題提示の際にフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	塩盛　俊明		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	阿部　宏史		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	小野寺　剛		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	手嶋　竜二		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	呂　建輝		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	大平　真紀子		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	平野　正樹		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	長畑　秀和		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	倉田　知秋		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	國枝　陽輔		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	中西　敏之		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	松澤　俊雄		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	歌代　哲也		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	范　一楠		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55011

科目コード	55011				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅠ				担当者名	片上　摩紀		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「経営学」「マネジメント」「商学・マーケティング」などの領域について、卒業研究へ結びつく研究課題を絞り込み、学生が興味と関心を持って取り組むことができるように各教員が支援する。ものの見方や考え方をはじめ、文献研究や研究方法等について指導を行うとともに、共同討議を取り入れたゼミナールとする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを目標とする。

＜授業の方法＞
３年前期は、4年次の卒業研究について「論文」、「プロジェクト報告書」、「事業計画書」のどのタイプの研究活動を行っていくかを明確にする。いずれのタイプでも卒業研究として認める。ゼミ論文の場合も同じである。ゼミナール活動計画を立案し、各ゼミナール内において「発表会」を実施する。 ３年後期は、発表をもとにゼミナールで議論や調査を深めていく。業種、職種にとらわれない多様なインターンシップ、多くの企業訪問を実施していく。「プロジェクト報告書」、「事業計画書」の場合は、市場データ採集や技術トレンド調査、業界・業種調査などのニーズとシーズに関する具体的なフィールド調査・分析を主体とした企画を立案する。可能ならばプロトタイプの作成やプロジェクトを実際に開始する。「論文」の場合は、RQ（リサーチクエッション：解決すべき論点、問題）の策定や文献レビュー、データ収集など調査活動を本格化する。4年次に卒業研究を履修する学生は、「ポスターセッション」として発表をおこなう。４年次で履修する「卒業研究」の成果物である卒業論文の「研究計画書」をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。４年生で卒業研究を履修しない学生は、４年次のゼミナールⅡの成果物である「ゼミ論文」の執筆計画書をゼミ担当教員へ提出し評価を受ける。ゼミナールⅠの成果として報告書という位置づけである。各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55007

科目コード	55007				区　分	教養科目			
授業科目名	ゼミナールⅠ(基礎)				担当者名	簀戸　崇史			
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業は、大学における学びの基礎を培うため、大学生活に対する基本的な心構えと知識を身につけ、自ら学ぶ力（自主性）を身につけることを目的とする。社会で生きていくためには様々な能力が必要とされるが、その中でも「自分の意見を伝える（スピーチ力）」力は非常に重要である。フレッシュマンセミナーでの学びをもとに自分の意見を伝えることができるようになるための基礎・基本を身につけます。さらにグループワークやディスカッションを通じて、スピーチ力の向上を目指します。

＜授業の到達目標＞
①学生生活：よい生活習慣の確立する②スピーチ力の向上：自分の意見を伝えることができるようになる③キャリア形成：自身の強み・弱みを理解し、自身の将来について話すことができるようになる

＜授業の方法＞
原則としてクラス単位で行い、講義・演習・実技等の形態をとる。フレッシュマンセミナーでの学びをグループワークやディスカッションを通じて振り返りを行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
テーマに即したレポート作成、スピーチの準備等、各授業で指示（1時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
この科目は教養科目のディプロマポリシー5（汎用的技能：情報活用、論理、問題解決力等に関する汎用的技能）と関連付けられています。単に技能を習得するのではなく、グループワークやディスカッションを通じて、自分の意見を伝えることができるような汎用的能力の習得を目指しいます。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度(ディスカッションや演習への取り組み等) 40%、スピーチ20%、課題 40%

＜教科書＞
特に指定なし
＜参考書＞
特に指定なし
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション（クラス）	本授業の内容・方法の理解、クラス目標の設定、クラス内の相互理解
2	大学生活をデザインしよう！	卒業までの4年間の流れを確認
3	IPU学を振り返る?	IPU学を振り返り、自分の意見を発表する
4	PROGの活用	自身の強み・弱みについて発表する
5	IPU学を振り返る②	IPU学を振り返り、これからの大学生活を考える
6	求められる体育人について考える	体育人について考える
7	伝わるスピーチ内容を考える	話したい内容を考える
8	プレ・スピーチコンテスト	スピーチをしてみる
9	チームビルディング	クラス内のチームビルディング
10	スポーツの価値を考える	スポーツの価値について自分の意見を発表する
11	スピーチコンテストクラス予選	クラス内でスピーチコンテストを行う
12	IPU学を振り返る③	IPU学を振り返り、自身の将来について考える
13	スピーチコンテストを振り返る	スピーチコンテストについて振り返り、スピーチ力のスキルアップを目指す。
14	進路について考える	学科教育と進路のつながりについて考える
15	２年生に向けたロードマップ	１年間を振り返り、残り３年間の大学生活を具体的に計画する。
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		

25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	白取　耕一郎		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目			
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	本村　大輔			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのような問題意識に基づいてテーマを設定しているのか、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。|その概要や内容を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける検討・研究・報告を通じて思考力・判断力・資料作成能力・プレゼン能力・ディスカッション能力の向上を目指します。|社会人に求められる一般教養をはじめ専門教養の学力（税法）を身につけ、税法問題について自ら考え自分自身の意見を述べることができるようにします。

＜授業の方法＞
4年生前期　|①3年生で行ってきた税法問題の検討・研究に基づいて、各自研究テーマを決定します。|②次に、研究テーマに関する先行研究を洗い出し資料収集および検討を行い、ゼミにおいて適宜進捗報告を行います。|③この進捗報告に基づいて、ゼミ生と議論をし、最後に教員が講評を行います。|なお、進捗状況の報告は、事前に報告資料を作成しクラスルームないしはメールなどを通して教員およびゼミ生に送ること。報告形式については、授業内で別途指示を出します。||4年後期|①前期で決定した研究テーマに基づいて、章立て・内容を文章化していきます。|②この文書化した資料を基にゼミ生同士で議論をしたうえで、教員が講評を行います。|③また、この文書化した資料に対して形式面や内容の客観性については、教員が個別指導します。|なお、文書化した資料の報告に日時については、授業内で指示を出します。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
【事前学習】|報告担当者：報告テーマに関する資料作成（3～4時間）|報告担当者以外のゼミ生：報告テーマに関する教材の該当箇所の精読、論点チェック、質問内容の整理|（1～2時間）||【事後学習】|報告者：報告に際してゼミ生や教員から指摘された事項を整理しまとめる（30～60分）|報告者以外のゼミ生：報告者が指摘された事項を整理し、自身の報告時にフィードバックするための準備を整える（30～60分）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
ゼミを通じて法律科目等で修得した知識をもとに、税法に関する個人の研究テーマを追求する。また、報告を通じて資料作成能力、文献検索能力、プレゼン能力、ヒアリング能力などの向上を目指します。|この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、法的思考力、コミュニケーション能力など）を身に付ける。|各自のテーマを探求していくことで、税法に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する法的問題を分析・検討し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
報告への取り組み 80%、積極的な議論への参加 20%。|提出・発表された課題に対してディスカッション、次に取り組む課題提示の際にフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	塩盛　俊明		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	阿部　宏史		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	范　一楠		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期： ３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期： (1)卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 (2) 卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	小野寺　剛		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	手嶋　竜二		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	呂　建輝		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	平野　正樹		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ&リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	長畑　秀和		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	倉田　知秋		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	國枝　陽輔		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	中西　敏之		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	松澤　俊雄		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55012

科目コード	55012				区　分	キャリア形成科目		
授業科目名	ゼミナールⅡ				担当者名	歌代　哲也		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅠ」での活動を踏まえて、卒業研究を執筆するための個別指導を行う。どのようなテーマを、どのような方法で研究するのか、研究の結果からどのようなことがいえるのかについて検討する。その全体を文章としてまとめ、さらに口頭発表を行うことによって、物事を論理的に捉え、それを他者に伝える能力を身に付けさせることを目的とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミにおける学習を通して社会人に求められる一般教養ならびに専門教養の学力を身につける。同時に自らのキャリアについて省察し明確にすることを踏まえつつ、各自の研究テーマに取り組み、論文として仕上げることが目標である。

＜授業の方法＞
４年前期：　３年次で企画した研究活動・事業行動、調査活動を深めていく。プロジェクト報告書、事業計画書の場合フィージビリティスタディ、プロトタイプ＆リファイン活動、実際の起業やプロジェクト遂行などのアクションを重視する。論文の場合、通常の卒業論文執筆のために活動する。 卒業研究履修者は、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期：（1）卒業研究履修者　　12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 （2）卒業研究を履修しない学生　　ゼミナール活動（研究）内容をゼミ論文として執筆する。ゼミ論文については、各ゼミでゼミ担当教員が評価を行う。 各自の研究テーマに応じて先行研究調査、テーマ対象調査・分析を演習で発表し、ゼミメンバーでディスカッションし、議論を深めて論文を完成させていく。ディベート、輪読、企業見学、合宿を行うこともある。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要。（予習・復習とも１時間程度必要）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
演習を通じて全科目で修得した知識を総動員し、総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、経営学部における個人の研究テーマを追求する。この活動によって新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。各自のテーマを探求していくことで、広く経営に関わる専門知識・技能を備え、企業に関連する社会現象を分析・理解し、新たな戦略を創造・提案できる能力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
積極的な演習加 30%、進捗報告 30%。発表会・報告書 40%。 提出・発表された課題に対して演習の場でディスカッション、次に取り組む課題提示を含めてフィードバック。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜参考書＞
各所属ゼミのシラバスに従う。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各所属ゼミのシラバスに従う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	中井　和弥		
配当年次	4	配当学期	集中	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
卒業研究はこども発達学科での学習の総まとめの活動でありディプロマポリシーにおけるDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備 えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に対応した教育活動を展開する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析１	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析２	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析３	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正

27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	長谷　浩也		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導（classroomを使用することもある）を行う。課題管理などはclassroomを使用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度）　30%、論文 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	村上　尚徳		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
卒業研究はこども発達学科での学習の総まとめの活動でありディプロマポリシーにおけるDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備 えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に対応した教育活動を展開する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析１	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析２	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析３	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正

27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	前田　一誠		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。その際、先行研究の検索や分析、論文作成と発表において、ICT・デジタル機器を活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。これまでに学修してきた内容をさらに深く探究し、教育学における追究課題の理論的・実践的な方略・方策の構築をめざす科目である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、卒業論文70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	浅田　栄里子		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索、収集、分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションがオンラインを含めできる。・研究レポート、論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよ

		りよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	木戸　和彦		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
1. 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。2. レポート発表及びディスカッションができる。3. 研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。4. 研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文または卒業制作 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	高橋　直樹		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。また、Google Classroom等のデジタル技術も活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、卒業論文と口頭試問 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	松尾　健太郎		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	細井　健		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とします。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援します。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていきます。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論となりますが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行います。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備します。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連しています。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目			
授業科目名	卒業研究				担当者名	森下　裕三			
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。こうした作業を通じて、問題設定から仮説形成、さらにデータ分析など幅広い問題解決能力の醸成に繋げる。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）卒業研究を完成させるために必要な教員による添削指導、および他の学生による相互評価のために Google docs を利用する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。研究活動を通じて、問題意識の形成や問題解決能力といった社会人として求められる能力の育成を目標としている。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。

15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	井上　聡		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
こども発達学科での学習の総まとめとして、卒業論文または卒業制作に取り組む。ゼミナール担当教員が指導教員となる。

＜授業の到達目標＞
こども発達学科での学習を踏まえて、各学生が探究したいテーマに基づく卒業論文または卒業制作を完成させる。

＜授業の方法＞
授業は、各ゼミナール担当教員から演習指導を受ける。研究方法や制作方法などゼミ単位で共通なものはグループで指導行うが、基本的には個別指導を展開する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人がゼミ教員の指導に基づき卒業研究または卒業制作を進め、進捗状況を毎回のゼミで確認する。それに基づき、次時の課題を提示する。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
卒業研究はこども発達学科での学習の総まとめの活動でありディプロマポリシーにおけるDP8（広く豊かな社会的常識、人間的に成熟した保育・教育観を持ち、地域社会の実情に応じ、学術性を備 えた保育・教育を推進する実践力・創造的思考力を身に付ける）に対応した教育活動を展開する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
卒業研究または卒業制作の成果物（100%）

＜教科書＞
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究・制作の進め方、スケジュール、単位認定方法など
2	先輩の卒論研究・制作の概要	先行研究として過去の本学卒業生の代表的な卒業研究の概観
3	先輩の卒業研究・制作の分析	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析
4	先輩の卒業研究・制作の分析結果発表	先輩の卒業研究・制作から各学生が興味のあるものを選択し、その内容を分析した結果をゼミ内発表
5	卒業研究・制作のテーマ構想	自己の興味ある分野と担当教員の専門性を考慮し、卒業研究・制作の方向性を構想
6	先行研究の分析１	先行研究・制作の論文・作品集などを量的に取集
7	先行研究の分析２	先行研究・制作の論文・作品集などを質的に分析（目的・方法・内容・結果の吟味）
8	先行研究の分析３	各学生が構想するテーマに沿った先行研究・制作を一つ選び目的、方法、内容、結果を分析しゼミ内発表
9	テーマの決定	卒業研究・制作のテーマを決定
10	研究目的の明確化	研究目的と研究対象の吟味
11	研究計画の作成	研究活動スケジュールの確定
12	研究倫理の確認	該当する研究領域の研究倫理規程を確認
13	調査研究・文献研究・制作の開始	研究計画に沿った研究活動の展開
14	調査研究・文献研究・制作の吟味	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の吟味
15	調査研究・文献研究・制作の修正	指導教員との打ち合わせによる研究計画に沿った研究活動の修正(夏季休業中の研究計画の決定)
16	研究・制作の結果の考察	これまでの研究・制作活動の中間まとめ
17	研究テーマの最終決定	研究テーマと副題の決定（変更可能性あり）
18	序論の執筆（卒業研究の場合）	研究テーマ設定の動機、理由、意義
19	問題の所在	先行研究のレビューと研究目的の執筆
20	研究方法の執筆	研究の方法の振り返りと整理
21	研究過程の執筆	調査研究・文献研究のプロセスを確認
22	結果の概観	研究結果の全体像を概観
23	結果の吟味	研究結果を分析的に吟味
24	結果と考察の執筆	結果の事実から論証できる考察を執筆
25	結果と考察の確認	結果の事実から論証できる考察の確認
26	結果と考察の修正	指導教員を吟味し結果と考察の修正

27	結論の確認	論文全体の結論まとめ
28	序論・問題設定の再吟味	結論に基づく問題所在・仮説の再吟味
29	論文全体の推敲	論文全体の確認修正
30	提出書類の作成	卒業研究・卒業制作の提出書類の最終チェック、卒業発表会の準備

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	中西　紘士		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査・実験あるいは制作等を行い、論文あるいは制作物としてPCを活用してまとめていく。基本的に講義時間は学生による発表あるいはその準備とするが、進捗状況 に応じてGoogle meet等を活用して個別指導を行うこともある。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文 70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。
16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究

		をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	伊住　継行		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
課題や資料配布はGoogleクラスルームで行う。また，場合によってはmeetを活用してオンラインで論文指導を行うこともある。各自の研究課題を明確化し、その課題について、実際に調査や実験等を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況に応じて個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文70%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	赤松　久美子		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本授業では、学生がそれぞれ設定したテーマに沿って研究を進め、研究を深めることを目的とする。学生が興味と関心を持って研究に取り組むことができるように条件整備を行い、一人一人の研究を本授業の構成員全体で支援する。

＜授業の到達目標＞
・ 関連資料の検索・収集・分析等を行い、研究方法等の基礎的事項について理解する。・レポート発表及びディスカッションができる。・研究レポート・論文作成の基本を身に付ける。・研究を論文としてまとめ、その発表ができる。

＜授業の方法＞
各自の研究課題を明確化し、その課題について、先行研究を行い、論文としてまとめていく。基本的に授業時間は学生による発表とそれについての討論とするが、個人の研究課題設定や発表資料の作成などにおいては、進捗状況 に応じて個別指導を行う。レポート提出の際には、GoogleClassroomを活用し、ディスカッションでは、Googleスプレッドシート・Jamboardなどを活用する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各個人が設定した課題に沿って研究を進め、その進捗状況の報告をレポートにまとめて、報告できるよう準備する。（２～３時間程度）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
教育経営学科のディプロマ・ポリシーのうち、特に、DP8「修得した知識・技能・態度を総合的に活用し、現代の教育課題に積極的に取組み、解決できる能力を身に付けている」に関連している。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
授業態度等（関心・意欲・態度） 30%、論文作成に向けてのレポート30%、口頭試問10%、 卒業論文30%

＜教科書＞
特に指定しない。
＜参考書＞
特に指定しない。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	卒業研究の目的・内容・授業方法・評価の仕方等について理解する。
2	研究課題について①	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
3	研究課題について②	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
4	研究課題について③	各自が設定した課題の確認と、研究方法の検討を行う。
5	研究計画書の作成?①	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
6	研究計画書の作成②	確認した課題と研究方法に沿って、研究計画書を各自でまとめる。
7	課題研究の遂行とその報告①	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
8	研究課題の遂行とその報告②	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
9	課題研究の遂行とその報告③	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
10	課題研究の遂行とその報告④	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
11	課題研究の遂行とその報告⑤	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
12	課題研究の遂行とその報告⑥	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
13	課題研究の遂行とその報告⑦	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
14	課題研究の遂行とその報告⑧	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
15	前期のまとめ	全員の進捗状況を確認し、夏休み中の計画及び後期の進め方について、計画表の修正をする。

16	課題研究の遂行とその報告⑨	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
17	課題研究の遂行とその報告⑩	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
18	課題研究の遂行とその報告⑪	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
19	課題研究の遂行とその報告⑫	各自自分の研究を進め、授業で研究の進ちょく状況を報告し、質疑応答により研究をよりよいものにする。
20	中間発表①	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
21	中間発表②	それぞれの研究の中間発表を行い、お互いに検討し合うことで、より完成形に近づけていく。
22	研究課題の遂行とその報告⑬	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
23	研究課題の遂行とその報告⑭	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
24	研究課題の遂行とその報告⑮	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
25	研究課題の遂行とその報告⑯	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
26	研究課題の遂行とその報告⑰	進めてきた研究を論文としての形にまとめていく作業をそれぞれで行い、その進捗状況を報告するとともに、それぞれの研究内容についてのディスカッションを行う。
27	卒業論文最終確認①	各自の研究成果の発表
28	卒業論文最終確認②	各自の研究成果の発表
29	卒業論文最終確認③	各自の研究成果の発表
30	１年間のまとめ	１年間の課題研究の総括を行う。

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	木下　祥一		
配当年次	4	配当学期	通年	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
本科目の目的は体育学科で学ぶ者の意識を啓発し、体育・スポーツ科学の基礎的知識と専門的知識の修得を行うとともに、問題意識を形成し、課題解決への糸口を見出すことにある。そのために、体育・スポーツ科学をもとにした課題発見・問題解決学習を中心的とした「4年間の学習の成果」と位置付けている。

＜授業の到達目標＞
本科目における到達目標は、体育・スポーツに関する調査・研究を通して、体育・スポーツ科学の専門家として必要な基礎的知識を獲得するとともに、自らの現状を評価し課題を発見し、その課題解決の方法を自ら探求できる力を身につけることとして、卒業論文を執筆することにある。

＜授業の方法＞
課題発表やグループワークを中心に展開する。必要に応じて、フィードワークの実施やPPT、資料を作成し、課題発表を行う。さらに基礎的知識獲得に向けた講座を行う。その成果として学年末において卒業研究発表にてプレゼンテーションする。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
当該科目の学習にあたり、体育・スポーツの課題・問題について、新聞や雑誌、先行研究を通して調べる（2～3時間）。調査・研究する課題の発表準備（3時間）。基礎的知識獲得に必要な自主学習（7時間）

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
本科目は、体育学科ディプロマポリシー2「健康増進、体力の向上、また競技力向上に貢献できる専門的な知識・技能を身に付けている。」と関連付けられている。体育学科として求められる基礎的知識・技能を身につけ、4年次配当ゼミナールⅡに必要な資質・能力を育成する。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
実践的な態度50%、体育・スポーツ科学に関する調査・研究の課題発表50%をもって評価する。

＜教科書＞
各指導教員が設定する。
＜参考書＞
各指導教員が設定する。
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	研究課題の検討	これまでの自身の経験知より、疑問に感じていることを明確にし、研究課題に昇華できないか検討していく。
2	研究課題の決定	研究課題を決定する。
3	文献調査①	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
4	文献調査②	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
5	文献調査③	自身の研究に関連する文献を収集し、精読する。
6	予備実験調査・実験Ⅰ	研究計画に記載した方法が適切であるか、予備調査・実験を実施する。
7	予備調査・実験Ⅰのデータ分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備実験Ⅰで取得したデータを分析し、調査方法やプロトコルの見直しを検討する。
8	予備調査・実験Ⅱ	予備実験Ⅰの結果をもとに、修正された調査方法や研究計画に記載した方法が適切であるか、予備実験Ⅱを実施する。
9	予備調査・実験Ⅱデータの分析	算出予定のデータが正しく得られるか、予備調査・実験Ⅱで取得したデータを分析し、プロトコルの見直しを検討する。
10	本調査・実験①	本調査・実験の実施し、データを取集する。
11	本調査・実験②	本調査・実験の実施し、データを取集する。
12	本調査・実験③	本調査・実験の実施し、データを取集する。
13	本調査・実験④	本調査・実験の実施し、データを取集する。
14	本調査・実験⑤	本調査・実験の実施し、データを取集する。
15	本調査・実験⑥	本調査・実験の実施し、データを取集する。
16	データ分析①	本調査・実験で取得したデータを分析する。
17	データ分析②	本調査・実験で取得したデータを分析する。
18	データ分析③	本調査・実験で取得したデータを分析する。
19	データ分析結果の検討①	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。

20	データ分析結果の検討②	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
21	データ分析結果の検討③	本調査・実験で取得したデータの分析結果をグループディスカッションする。
22	統計分析①	得られた結果を統計学的に分析する。
23	統計分析②	得られた結果を統計学的に分析する。
24	結果の考察①	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
25	結果の考察②	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
26	結果の考察③	得られたデータの意味するものをグループディスカッションによって考察する。
27	プレゼンテーション準備①	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
28	プレゼンテーション準備②	研究成果報告会用にプレゼンテーション資料を作成する。
29	研究成果報告会	研究成果をプレゼンテーションする。
30	全体のまとめ	卒業研究活動全体を通じた総括

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	古山　喜一		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	必修

＜授業の概要＞
テーマを決め研究を遂行し、研究計画、データ取得、論議の進め方など、一連の研究プロセスを学ぶ。後期末には卒業研究発表会を行い、研究内容をまとめ上げ発表するスキルを身につける。研究テーマは、柔道整復師として、社会人になったときに役立つテーマとし、実験もしくは調査による研究を原則とする。

＜授業の到達目標＞
研究を通して柔道整復師としての役割と責任を再確認し、専門家への資質を培うと共に、科学的研究思考を修得することを目標とする。

＜授業の方法＞
ゼミナールⅡは健康科学科のディプロマポリシー７（日進月歩する医学に対し、医療人として学び続ける生涯学習力を身に付ける）および8（修得した知識・技術・態度等の全てを総合的に活用し、自らが立案した新たな課題に主体的、創造的に取り組み、その課題を解決できる能力を身に付ける）と関連付けている。ゼミナールⅠにおいて明確化した各自の研究課題について、調査・実験しながら柔道整復師に必要な知識の確認を行う。基本的には学生自身の発表と共同討議による演習形式で進めていくが、進捗状況によっては個別指導を行う。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
研究課題に関する分野の文献検索を適宜実施しながら、情報を収集し、研究仮説を立てること。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
超音波画像をもとに科学的根拠や思考を持って医療現場やスポーツ現場の諸問題に対応できる能力を身に付ける。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
課題達成度 70%、学習意欲30%（事前課題、レポート等）で評価する。

＜教科書＞
＜参考書＞
鍵和田 京子（2001年11月）
よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方
東京図書

＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	オリエンテーション	受講上の注意，評価方法，講義の概要
2	導入	論文とは何か
3	研究テーマの設定（1）	研究テーマ発表と討議
4	研究テーマの設定(2)	研究テーマ発表と討議（2）
5	研究方法の決定(1)	シンスプリントの発生機序と予防方法
6	研究方法の決定(2)	研究方法の精査
7	研究方法の決定(3)	結果の検討
8	研究方法の決定(4)	統計処理の検討
9	卒業論文の模範（1）	良い例
10	卒業論文の模範（2）	悪い例
11	研究計画の立案(1)	実験被験者確保とﾍﾙｼﾝｷ宣言に関する理解
12	研究計画の立案(2)	実験スケジュールの立案
13	予備実験（1）	予備実験（1）
14	予備実験（2）	予備実験（2）
15	中間報告（1）	中間報告（1）
16	論文の組み立て（1）	章立て検討
17	論文の組み立て（2）	章立て発表
18	実験（1）	実験準備
19	実験（2）	実験実施（1）
20	実験（3）	実験実施（2）
21	実験（4）	実験データ解析
22	個別指導（1）	課題研究の遂行と個別指導（1）
23	個別指導（2）	課題研究の遂行と個別指導（2）

24	個別指導（3）	課題研究の遂行と個別指導（3）
25	個別指導（4）	課題研究の遂行と個別指導（4）
26	個別指導（5）	課題研究の遂行と個別指導（5）
27	個別指導（6）	プレゼンの理解
28	個別指導（7）	プレゼン資料の作成
29	個別指導（8）	プレゼン発表
30	論文提出・最終発表	プレゼン発表・論文修正

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	小野寺　剛		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（20,000字程度を目安）を完成することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。 ①研究テーマは、自分で決める。 ②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。 ③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。 ④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

＜授業の方法＞
４年前期： ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期： 卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。 研究（計画書作成）方法を修得することで、社会において必要となるものの読み取り方、考え方の仕方、提案方法を自身で実践し、社会の課題解決に取り組むことが出来るようになる。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも１時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
履修した総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、自ら設定した卒業研究を通じて新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		

22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	手嶋　竜二		
配当年次	4	配当学期	集中	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（12,000字程度を目安）を完成することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。 |①研究テーマは、自分で決める。 |②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。 |③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。 |④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

＜授業の方法＞
４年前期（４－１）：|ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「４－１：中間発表会」を開催する。 |４年後期（４－２）：|卒業研究の成果物として12,000字以上の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 |卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。 |研究（計画書作成）方法を修得することで、社会において必要となるものの読み取り方、考え方の仕方、提案方法を自身で実践し、社会の課題解決に取り組むことが出来るようになる。 |各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも１時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
履修した総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、自ら設定した卒業研究を通じて新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		

22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	倉田　知秋		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（20,000字程度を目安）を完成することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って卒業論文を執筆する。|①研究テーマは、自分で決める。|②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。|③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。|④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

＜授業の方法＞
４年前期： ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期： 卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。 研究（計画書作成）方法を修得することで、社会において必要となるものの読み取り方、考え方の仕方、提案方法を自身で実践し、社会の課題解決に取り組むことが出来るようになる。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも１時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
履修した総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、自ら設定した卒業研究を通じて新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		

22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		

55000

科目コード	55000				区　分	コア科目		
授業科目名	卒業研究				担当者名	歌代　哲也		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	4	授業方法	演習	卒業要件	選択

＜授業の概要＞
「ゼミナールⅡ」での研究活動を通じて、テーマに基づいて、指導教員の指導を得ながら卒業論文（20,000字程度を目安）を完成することを目標とする。

＜授業の到達目標＞
ゼミナールⅠおよびゼミナールⅡにおいて各自の設定した研究テーマに基づく研究計画書に沿って、卒業論文を執筆する。 ①研究テーマは、自分で決める。 ②研究の計画や具体的な進め方は自分で決める。 ③実験や調査の結果（データ）は、自分でまとめ方や使い方（考察）を考える。 ④自分で論文の構成や発表内容を考えて、論文執筆と発表を行う。

＜授業の方法＞
４年前期： ゼミナールⅡと連動し、後期の卒業研究スタートに当たって、前期の成果として前期末に「中間発表会」を開催する。 ４年後期： 卒業研究の成果物として【12,000字以上】の卒業論文を作成する。毎年度設定される提出〆切期限までにこれを提出する。「最終審査・公聴会」を実施し評価を行う。 卒業研究を通じて、考えて提案していく基礎手法を修得できると同時に、企業での仕事の進め方の一端を事前に体験できる。言い換えると、卒業研究を例題として企業での仕事の進め方の基礎を体得することができる。 研究（計画書作成）方法を修得することで、社会において必要となるものの読み取り方、考え方の仕方、提案方法を自身で実践し、社会の課題解決に取り組むことが出来るようになる。 各ゼミにおいて、Dropbox、ユニパ、SNSを活用した双方向演習や自主学習支援を実施する。

＜準備学習等（予習・復習）＞※具体的な内容及びそれに必要な時間等
各演習のテーマに即したレポート作成、課題、スピーチの準備等、各演習で指示。毎回、次の演習までに事前課題に対する、予習が必要。また、授業中に行った課題のまとめが必要（予習・復習とも１時間程度必要）。

＜卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連＞
履修した総合的な学習経験で得られる知識を連動させ、自ら設定した卒業研究を通じて新たな課題に対応できる社会人力（課題を見つける力、創造的思考力、コミュニケーション能力）を身に付ける。主体性・積極性を持って学習し、グローバルな課題解決の一端を担い、国際社会に貢献し、同時に生涯学習力を身に付ける演習である。

＜成績評価方法＞※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法
最終審査会において執筆した卒業論文を評価する。

＜教科書＞
各所属ゼミのシラバスに従うこと。各自のテーマに沿った個別指導が主体である。
＜参考書＞
＜授業計画＞

回	テーマ	授　業　内　容
1	各自のテーマに沿った個別指導を行う。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
19		
20		
21		

22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		